太子堂遗跡 36

〈第1次調査・第2次調査報告書〉

1993年

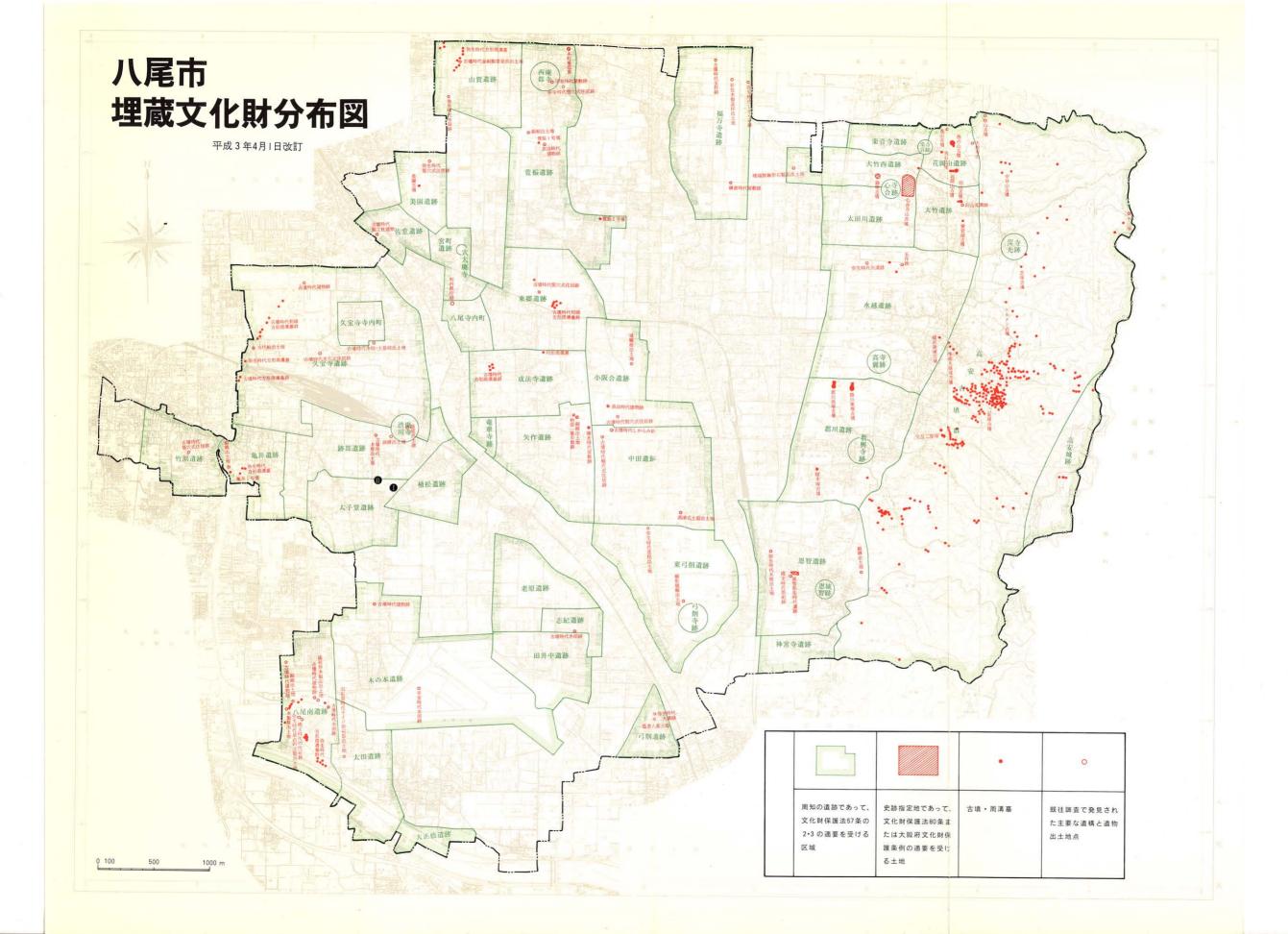
財団法人 八尾市文化財調査研究会

太子堂遗跡

<第1次調査・第2次調査報告書>

1993年

財団法人 八尾市文化財調査研究会



はしがき

八尾市は大阪府の東部に位置し、旧大和川が形成した河内平野の中心部にあたります。古くから人々の生活や活動の場として栄えていた地域であり、現在でもそれらの先人が残した貴重な文化遺産が数多く遺存しております。

近年、都市開発が進み各種土木工事等が増加するなかで、これらの重要な文化 財が破壊され失われる危険にさらされています。そこで私共では、これらの文化 遺産を後世に長く伝えるため事業者の協力を頂き、事前に発掘調査を行い、その 記録保存に努めているところです。

今回、昭和58年度に実施しました太子堂遺跡の第1次調査及び第2次調査の整理が完了しましたので、ここに報告書として刊行することに致しました。本遺跡は、ことにその名から聖徳太子との関わりがひじょうに深く、「大聖勝軍寺」や「物部守屋墳」等の史跡に代表される蘇我・物部戦争遺跡地として広く人々から知られているところであります。今回の発掘調査では、古墳時代から奈良時代・中世に至るまでの各種の遺構・遺物が検出され、本遺跡を解明する上での貴重な知見を得ることができました。この書が地域史の一資料となり、文化財保護への一層の御理解と認識を深めていただけることになれば望外の喜びとするところであります。

最後に、この調査を実施するにあたり御協力を賜りました事業者をはじめとして、関係緒機関の方々に心より謝意を表すると共に、今後とも当調査研究会に対する御支援・御協力をお願いする次第です。

平成5年3月

財団法人 八尾市文化財調査研究会 理事長福島 孝

- 1. 本書は、財団法人八尾市文化財調査研究会が、昭和58年度・平成2年度に実施した発掘調査成果の概要報告を集録したもので、内業整理および本書作成業務は各現地調査終了後に着手し、平成5年3月31日をもって終了した。なお、報告書の末に八尾市教育委員会からの指示書を掲載した。
- 1. 本書に集録した調査報告は、下記の目次のとおりである。
- 1. 本書の構成・編集は岡田清一が行い、文責は各例言に明示した。
- 1. 本書掲載の地図は、大阪府八尾市役所発行の2,500分の1 (昭和57年11月1日発行)・八 尾市教育委員会発行の『八尾市埋蔵文化財分布図』(平成3年4月1日改訂)をもとに作成 した。
- 1. 本書で用いた高さの基準は東京湾の平均海水面である。
- 1. 本書で用いた方位は、磁北を示している。
- 1. 遺構は下記の略号で表した。

 溝 —— SD 井戸 —— SE 土坑 —— SK 小穴 —— SP

 落ち込み —— SO 土器集積 —— SX

- 1. 実測図の縮尺は、遺構が20分の1・40分の1・50分の1・60分の1とし、遺物は6分の1、4分の1、3分の1とした。
- 1. 遺物実測図は、断面の表示によって次のように分類した。 土師器-白、須恵器-黒、石製品・木製品-斜線。
- 1. 各調査に際しては、写真・実測図の他にカラースライドも多数作成している。市民の方々が、広く利用されることを希望する。

月 次

はしがき

序

八尾市埋蔵文化財分布図

Ι	第 1 次調査(T S 83-1) ······	·· 1
Π	第 2 次調査(T S 90- 2) ······	65
ш	地元 妻	00

I 第1次調査(TS83-1)発掘調査概要報告

例 言

- 1. 本書は、八尾市東太子2丁目1他で実施した共同住宅建設工事に伴う発掘調査報告である。
- 1. 本書に報告する太子堂遺跡第1次調査 (TS83-1)の発掘調査業務は、財団法人八尾市 文化財調査研究会が東興殖産株式会社・スミトー建設株式会社から委託を受けて実施したも のである。
- 1. 現地調査は昭和58年6月6日~10月27日にかけて、駒沢敦を担当者として実施した。調査面積は3,393㎡を測る。なお、調査においては大地慶子・小川克則・香林浩道・川崎通子・笹井伸彦・津田孝二・徳谷貢正・鍋島詩津子・西森忠幸・増井保彦・松永浩司・豆成晋一・山西嘉彦・横山妙子が参加した。
- 1. 内業整理は、現地調査終了後実施し、平成4年3月31日で終了した。
- 1. 本書に関わる業務は、遺物実測-市森千恵子・井西貴子(現大阪府教育委員会文化財保護課技師)・上辻恵美子・三木明日香・村井俊子・村田英子・森本浩一・山本美鈴・若竹慶弘、図面レイアウトー井西・岡田清一、図面トレースー井西・村田、遺物写真撮影-岡田が行った。
- 1. 本書の執筆は主に岡田が担当したが、第3章出土遺物観察表については岡田・井西が担当 した。
- 1. 全体の編集は岡田が行った。

本文目次

第1章	はじめに・・・・・・・1
第1頁	节 調査に至る経過⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯1
第2頁	6 地理・歴史的環境・・・・・・・・・・・・・2
第3頁	6 調査の方法
第2章	調査の結果4
第1頁	節 基本層序 ·······4
第2頁	6 検出遺構・出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
• <i>F</i>	1 ⊠······5
• H	3区10
• (C区·······17
• I)区22
• H	至区41
• H	子区
第3負	6 出土遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
第3章	まとめ62
	挿 図 目 次
第1図	調査地周辺図・・・・・・1
第2図	調査区配置図および地区割図
第3図	各調査区基本層序模式図(S=1/40)
第4図	A区遺構平面図 · · · · 6
第5図	A区第5層出土遺物実測図I8
第6図	A区第5層出土遺物実測図Ⅱ・・・・・・9
第7図	B区SE-201平断面図 ·····10
第8図	B区遺構平面図······11
第9図	
	B区SE-201出土遺物実測図I
第10図	B区SE-201出土遺物実測図Ⅰ ··········12 B区SE-201出土遺物実測図Ⅱ ········13
第10図 第11図	

第13図	C区遺構平面図	18
第14図	C区第6層出土遺物実測図······	19
第15図	C区土器棺(羽釜)、馬骨出土地点及び実測図	21
第16図	D区SE-201平断面図 ·····	22
第17図	D区奈良時代遺構平面図	23
第18図	D区SE-201出土遺物実測図······	24
第19図	D区SE-201井戸枠実測図 ·····	25
第20図	D区SE-202平断面図 ·····	26
第21図	D区SE-202出土遺物実測図 ······	27
第22図	D区SE-202井戸枠実測図 ······	28
第23図	D区SP-201柱根実測図 ······	29
第24図	D区落ち込み(SO-101)出土遺物実測図	32
第25図	D区鎌倉時代遺構平面図	33
第26図	D区第6層出土遺物実測図 I ······	35
第27図	D区第6層出土遺物実測図Ⅱ	36
第28図	D区第5層出土遺物実測図I	37
第29図	D区第5層出土遺物実測図Ⅱ	39
第30図	D区第5層出土遺物実測図Ⅲ······	40
第31図	E区、F区遺構平面図	42
第32図	E区第5層出土遺物実測図······	44
	表目次	
第1表	D区小穴(SP)一覽表	30
図版一	1. A区全景(北から)	
	2. B区全景(東から)	
図版二	1. C区全景(東から)	
	2. D区奈良時代遺構面全景(南西から)	
図版三	1. D区奈良時代遺構面北部(北東から)	
	2. D区鎌倉時代遺構面全景(南西から)	

図版四 1. E区全景(北から)

2. F区南部(北から)

図版五 1. B区SE-201検出状況(東から)

2. B区SE-201遺物出土状況(東から)

図版六 1. C区馬骨-I出土状況(東から)

2. C区馬骨-Ⅱ出土状況(東から)

図版七 1. D区SE-201検出状況(南から)

2. D区SE-201遺物出土状況(西から)

図版八 1. D区SE-202検出状況(東から)

2. D区SE-202遺物出土状況(西から)

図版九 A区第5層、B区SE-201出土遺物

図版一○ B区SE-201・第5層出土遺物

図版一一 C区第6層出土遺物

図版一二 C区土器棺、D区SE-201・SE-202出土遺物・SP-201(柱根)

図版一三 D区SE-201墨書入り井戸枠(西)

図版一四 D区SE-201墨書入り井戸枠(南)

図版一五 D区SE-201墨書入り井戸枠(北)

図版一六 D区落ち込み(SO-201)・第6層出土遺物

図版一七 D区第6層出土遺物

図版一八 D区第6層・第5層出土遺物

図版一九 D区第5層出土遺物

図版二〇 D区第5層出土遺物、E区第5層出土遺物

図版二一 D区第5層出土土馬

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経過

今回の調査は、八尾市東太子2丁目1他内における共同住宅建設工事に伴う発掘調査であり、 当調査研究会が当遺跡内で実施した第1次調査(TS83-1)にあたる。調査の対象地は、位 置的に当遺跡範囲の東端部になる。

当遺跡内では、今回の調査が実施されるまで数件の小規模な遺構確認調査しか行われておらず、調査結果としては明確な遺構・遺物の検出をみるに至っていない。したがってそれまでは文献資料(『日本書紀』・『続日本紀』)等によって当遺跡の解釈がなされてきた。しかし、今回実施した発掘調査によって古墳時代から奈良時代、中世にかけての遺構・遺物が検出され、当遺跡における考古学的な知見の一部が解明されることになった。

今回の調査以後当調査研究会では第2次(TS90-2)、第3次(TS91-3)として2件の発掘調査を実施しており、それぞれ貴重な資料を得ている。まず第2次調査では平成2年度に太子堂2・3丁目において古墳時代前期の井戸・土坑・溝を検出、遺物(布留式土器)も多量に出土している。さらに平成3年度に太子堂2丁目地内において実施した第3次調査では古墳時代中期から奈良時代にかけての遺構・遺物を検出している。また同じ平成3年度には遺跡



市教育委員会によって実施された調査の結果、古墳時代後期に比定される自然流路が検出されている。

今回の調査の対象となった地点は『大聖勝軍寺』の北東約300m、旧主要地方道大阪中央環状線の西側に面したところであり、それまでの当地周辺における試掘結果から埋没した遺跡の遺存が予想された。そこで八尾市教育委員会は、昭和58年3月に建築工事によって破壊される部分に対し、試掘調査を実施した。その結果、表土下1.5m(T.P+8.3m)前後で奈良時代の遺物包含層、さらにそれより40~50cm以下で古墳時代後期の遺物包含層を確認した。この試掘結果から八尾市教育委員会は調査対象地内の開発・建築箇所の全てにおいて発掘調査が必要であると判断したが、例外として掘削深度が遺物包含層に達しない埋設工事区については、立会調査を実施し、遺構確認を行った。

当調査研究会は八尾市教育委員会から委託依頼を受け、事業者との3者協議を重ね、協定書の締結後は当調査研究会が主体となって発掘調査を実施した。現地での発掘調査は、昭和58年6月6日~10月27日までの期間で実施した。調査面積は約3,393㎡を測る。

第2節 地理·歷史的環境

太子堂遺跡が所在する八尾市は大阪府の東部に位置し、東を生駒山地、西を上町台地、南を羽曳野丘陵、北を淀川によって区画される沖積低平地で、狭義でいう河内平野と呼ばれるなかの南東部にあたる。河内平野は古代より旧大和川の氾濫によって沖積作用が繰り返され、自然堤防・後背湿地が形成されていった。そして、宝永元年(1704)の大和川付け替え以後、現在みられる地理的形態となったわけで、その河川大工事前後では当遺跡の景観の様相も異なる。当遺跡は八尾市のほぼ中央に位置し、現在の行政区画では太子堂3丁目、南太子堂1~4丁目、東太子1・2丁目の東西0.75㎞、南北0.6㎞の範囲に広がる古墳時代前期初頭(庄内式)から中世に至る複合遺跡である。当遺跡の周辺には西及び北に跡部遺跡、東に植松遺跡、南に木の本遺跡が隣接している。跡部遺跡においては平成元年、弥生時代末期に埋納された銅鐸が良好な状態で発見され、とくに類例の少ない埋納施設が判明したことは貴重な研究資料である。また、木の本遺跡では水田遺構から古代・近世の二時期に亘る志紀郡条里に関連する溝遺構を検出しており、条里研究に大きく寄与するところである。

当遺跡は『日本書紀』や『続日本紀』などの文献資料から歴史的にその地名から聖徳太子に関わる史跡として知られている。西暦587年の用命天皇の死後にあたる時期に蘇我馬子と物部守屋との間に紛争がおこり、聖徳太子は蘇我一族と共に物部氏と戦った結果、蘇我氏は物部氏を破って勝利をおさめ、聖徳太子は戦地となった当地に寺を建てた。その寺が現在の『大聖勝軍寺』と言い伝えられている。また先述の戦争に関連するものとして、現在の国道25号線に面して物部守屋をまつる『物部守屋墳』、物部守屋を射ぬいた矢が埋められたといわれる『鏑矢

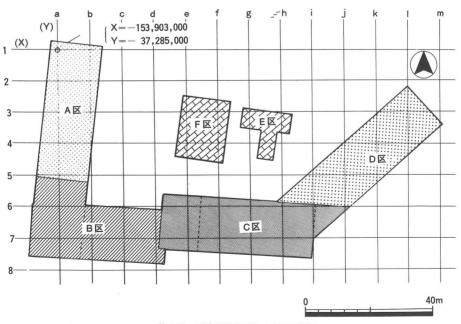
塚』、その鏑矢を射た時に用いた弓を埋めたとされる『弓代塚』などの所縁のある伝承地がある。

また、当遺跡の近隣には古代寺院とされる龍華寺跡や宝積寺跡(渋川廃寺)が存在する。

第3節 調査の方法

調査は建設工事に当たる住棟4棟と浄化水槽、集会所の計6箇所に調査区を設定し、西から A~D区、浄化水槽の部分をE区、集会所の部分をF区と呼称した。掘削は八尾市教育委員会 の試掘結果をもとに現地表下から約0.6~1.0mまでの第1層-盛土・攪乱、第2層-旧耕土、第3層-床土の部分を重機により掘削した後、以下0.8~1.3mまでの第4層から第6層については土層層理に従って人力掘削を実施し、遺構・遺物の検出に務めた。さらに、以上の調査を終了した後は各調査区内において部分的に下層確認を実施し、遺構および遺物の確認を行った。発掘調査に関しては、調査区内において土壌の悪条件の為に壁面が崩れ落ちたり、地下からの湧水が著しく途中で調査を断念しなければならない部分もあり、すべてにおいて完璧な調査とは言い切れない。また、遺構の検出に際しては細心の注意を払ったが、認識不足の点や調査技術的に不備な点もあり、反省材料とするとともに今後の課題とするところである。

地区割は、国土座標の東西軸・南北軸により調査区の東西 $130\,\mathrm{m}$ 、南北 $70\,\mathrm{m}$ の範囲内に $10\,\mathrm{m}$ 四方の区画を設定した。地区名は北西部の隅から東西線を数字(北から $1\sim8$)、南北線をアルファベット(西から $a\sim\mathrm{m}$)で示し、 $1\,\mathrm{a}\,\mathrm{E}\sim8\,\mathrm{m}\,\mathrm{E}$ と呼称した。 なお、国土座標の値は、北西部の隅の交点がX=-153,903,000、Y=-37,285,000を測る。(第2図)



第2図 調査区配置図および地区割図

第2章 調査の結果

第1節 基本層序

当調査地では、6箇所の調査区のうちC区に関して北側部分は調査対象となる現地表下約 1.8mまでの土層が、近世の整地等により破壊されていた。それ以外の調査区でも部分的に現代の整地等で小規模な攪乱を受けている箇所がみられる。また、時代別でみるとほとんどの調査区において奈良時代の遺構面が中世の開墾等によって削平されており、奈良時代の生活面として遺存率の良好なのはD区の北側域だけであった。

以下、各調査区別に現地表面 (T.P+9.3~9.8m) 下約2.5mまでに存在する土層から普遍的にみられる7層を摘出して基本層序とした。(第3図)

第1層:盛土。層厚50~90cm。現代の整地層及び攪乱層。

第2層:黒灰色土。層厚20~40cm。整地されるまでの旧耕土。

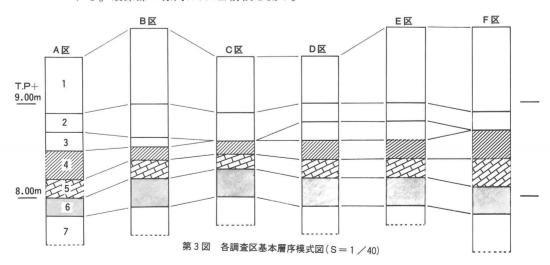
第3層:淡緑灰色粘質土。層厚10~20cm。耕作の床土。C区、F区には存在しない。

第4層:淡茶灰色~淡灰色粘質土。層厚10~30cm。鎌倉時代中期から末期に比定される遺物 が含まれる。

第5層: 茶褐色~暗褐色粘質土。層厚20~30cm。古墳時代後期から奈良時代に比定される遺物が含まれる。

第6層:青灰色~暗灰色粘質土。層厚20~30cm。古墳時代前期から後期に比定される遺物 が含まれる。

第7層:青灰色シルト・灰色粗砂。層厚40cm以上。土層内には遺物は含まれていなかったが 層位関係からみて、古墳時代後期以前に埋没した自然河川の堆積層であると考えら れる。最深部の標高は7.4m前後を測る。



第2節 検出遺構・出土遺物

調査の結果、現地表下1.5~2.0m(標高7.8~8.3m)で古墳時代後期(6世紀初頭~7世紀初頭)に比定される遺物包含層、現地表下1.5m(標高8.3m)前後で奈良時代(7世紀初頭~8世紀末)の井戸3基・落ち込み1箇所・土坑2基・柱穴2個・小穴32個、現地表下1.2m(標高8.6m)前後で鎌倉時代中期~末期に比定される土坑6基・鋤溝跡160条を検出した。出土遺物は、各遺構及び各時代の包含層である第4層淡茶灰色~淡灰色粘質土(鎌倉時代中期~末期)・第5層茶褐色~暗褐色粘質土(古墳時代後期~奈良時代)・第6層青灰色~暗灰色粘質土(古墳時代前期~後期)を中心にコンテナで48箱分が出土した。

以下、各調査区ごとに検出遺構・出土遺物について概観する。

 $\langle A \boxtimes \rangle$

I. 検出遺構・出土遺物

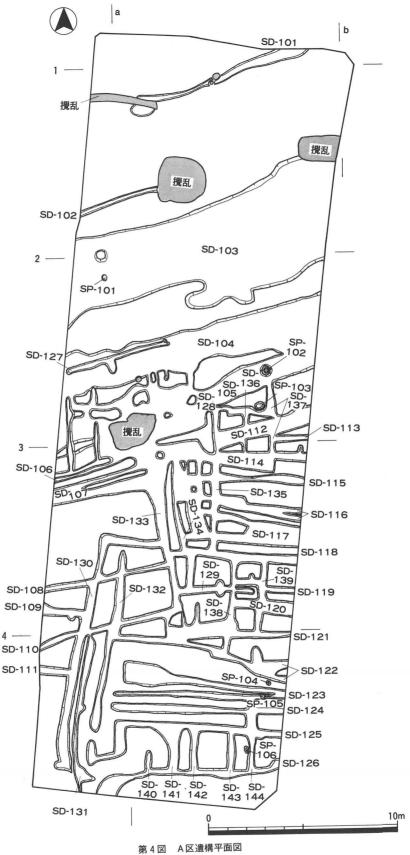
現地表下1.5 m (標高8.3 m) 前後の第5 層茶褐色~暗褐色粘質土上面において鎌倉時代中期~末期に比定される小穴6 個($\text{SP}-101\sim106$)・溝44条($\text{SD}-101\sim144$)を検出した。(第4 図)

溝 (SD−101~144)

調査区のほぼ南半分に集中してみられ、方位で区別すると東西方向は29条(SD-101~129)、南北方向は15条(SD-130~144)である。溝の検出状況からみて農耕に伴う鋤溝と考えられる。溝の検出幅は $0.3~0.8\,\mathrm{m}$ 、深さ $10~15\,\mathrm{cm}$ を測り、断面の形状は逆台形を呈する。なかには溝幅 $3.0\,\mathrm{m}$ や $5.0\,\mathrm{m}$ を測るもの(SD-103~105)もみられるが、おそらくこれらは鋤が何度も重複して行き交われることによって 1 条の溝が次第に広がり、形成されたものとおもわれる。溝内埋土は灰色~暗灰色粘質土の単一層で、内部からは瓦器椀及び土師器皿の小破片が少量含まれていたが、図化できる遺物はなかった。

小穴(SP-101~106)

平面の形状はSP-101・102・104・105は円形、SP-103・106は楕円形を呈する。規模は、径20~50cm、深さ5~10cmを測る。断面形は全てU字形を呈し、遺構内埋土もすべて灰色粘質土の単一層である。出土遺物はそれぞれの小穴内から土師器の小破片が少量みられるが明確に時期を示すものはない。しかし、先述の鋤溝との遺構の切り合い関係からみて小穴のほうが時期的に新しいといえる。



Ⅱ. 遺構に伴わない遺物

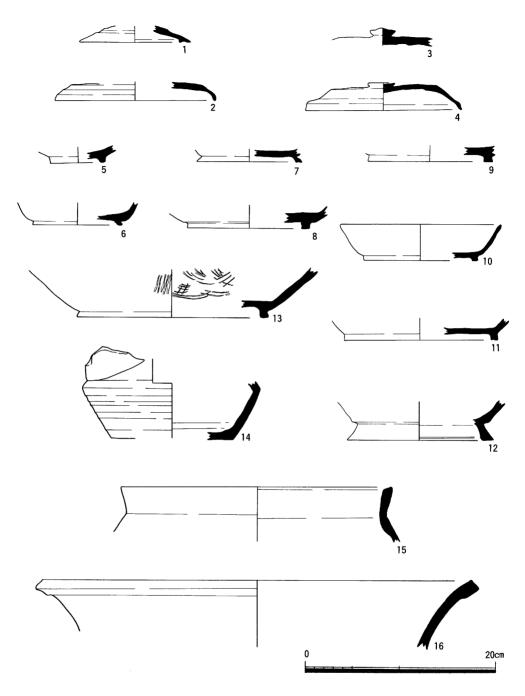
第6層では古墳時代後期に比定される遺物がみられた。出土遺物の割合は、須恵器 (蓋杯・壺・甕) が74%、土師器 (壺・甕・高杯) が26%を占めるが、大半が破片で、図化できるものはなかった。出土量はコンテナ1箱分を数える。

第5層では奈良時代に比定される遺物がみられた。出土遺物の割合は、須恵器(杯・鉢・提瓶・平瓶)が26%、土師器(皿・杯・壺・甕・鉢・高杯・羽釜・甑)が74%を占め、そのうち図化できたものは33点を数える。その内訳は、須恵器16点(1~16)、土師器17点(17~33)である。

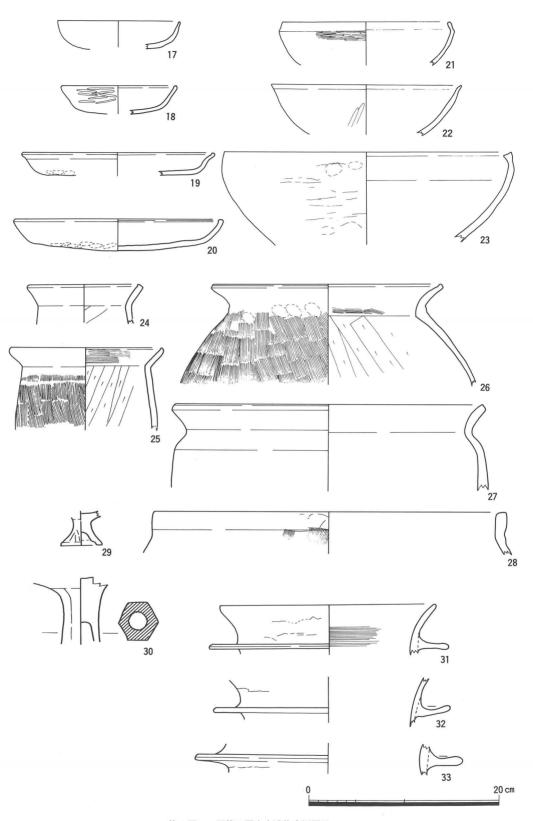
「須恵器]

杯蓋は 4 点(1 ~ 4)で口縁端部にかえりを有するもの(1)と無いもの(2 ・ 4)がある。(5)は椀で、杯(6 ~ 11)はすべて高台を有する。壺(12 ・ 13)はいずれも底部のみ残存でそのうち(12)は比較的高くしっかりとした高台をもつ。(13)は肩の張る広口壺とおもわれる。(14)は口頸部の欠損した平瓶、(15)・(16)は甕のそれぞれ口縁部である。(9 5 図)「土師器」

小皿 (17・18)、中皿 (19・20) があり、(17) の口縁端部が上方につまみ上げられる以外はすべて丸味をもって終わる。鉢 (21~23) は体部が内湾気味に伸びる。甕は小型のもの (24・25) と、大型のもの (26~27) がある。(28) は竈の口縁部分とおもわれる。(29) はミニチュア高杯の底部であろう。高杯 (30) は外面に 6 角の面取りが施されている。羽釜については遺存率の悪いものがほとんどで、そのなかで (31~33) の 3 点が辛うじて図化できた。(第6図)



第5図 A区第6層出土遺物実測図I



第6図 A区第6層出土遺物実測図Ⅱ

 $\langle B \boxtimes \rangle$

I. 検出遺構·出土遺物

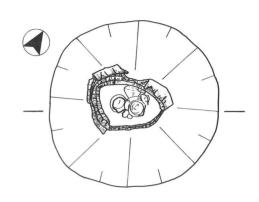
現地表下1.6m (標高8.4m) 前後の第6 層青灰色~暗灰色粘質土上面において奈良時代に比定される井戸1 基 (SE-201)、柱根を伴う柱穴1 個 (SP-201)、鎌倉時代中期~末期に比定される土坑3 基 ($SK-101\sim103$)、溝31条 ($SD-101\sim131$) を検出した。(第8 図)

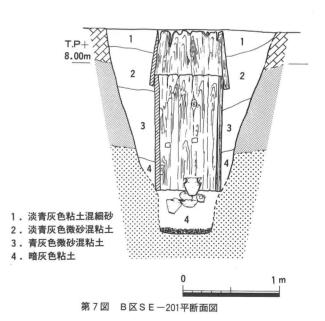
1) 奈良時代

井戸 (SE-201)

調査区北西部のA区との境界付近にあたる6b区で検出した。掘り形の上面形状が円形を呈するもので、東西幅1.9m、南北幅1.8m、深さ2.2mを測る。摺鉢状を呈する掘り形の中央に2段の井戸枠が設置されており、上段の短めの井戸枠は下段の井戸枠の最上部に覆い被さるように組まれているが、土圧のためかやや内側に傾いている。これら2段の井戸枠は船材の一部を転用したものとおもわれ、弧形のものと平板のものがある。(第11図)

掘り形内の埋土は、上層から第1層淡 青灰色粘土混細砂・第2層淡青灰色微砂 混粘土・第3層青灰色微砂混粘土・第4 層暗灰色粘土の4層である。井戸枠内部 には灰色細砂混粘土が堆積しており、最 深底部には径2~3cm程の小石が厚さ 10cm前後の間で敷き詰められている。



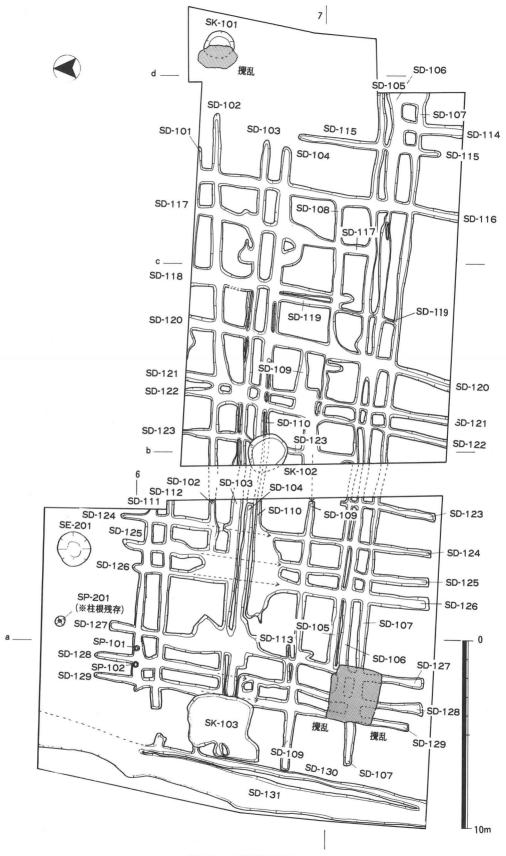


(第7図)

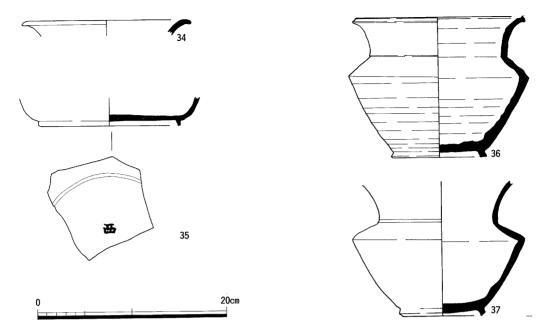
遺物は井戸枠内から、須恵器 (壺・甕・杯蓋・杯身・杯)、土師器 (杯・中皿・鉢・甕・高杯・羽釜) が出土したが、そのうち図化できたものは17点である。

[須恵器]

(34) は広口壺の口縁部であろう。(35) の杯は、底部外面のほぼ中央に墨書で『西』と記されている。(36・37) の壺のうち (36) は完形品で (37) は口縁端部が欠損している以外は



第8図 B区遺構平面図



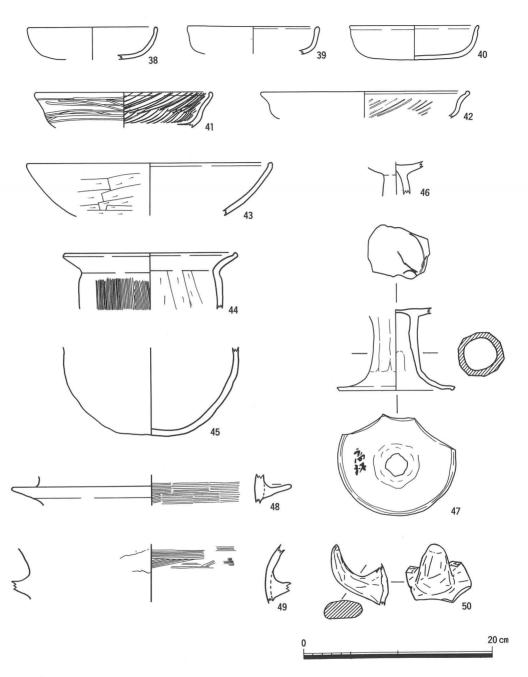
第9図 B区SE-201出土遺構実測図I

原形を止めている。双方とも肩が鋭く張り、やや外方へ踏ん張った高台がつく。(第9図) 「土師器]

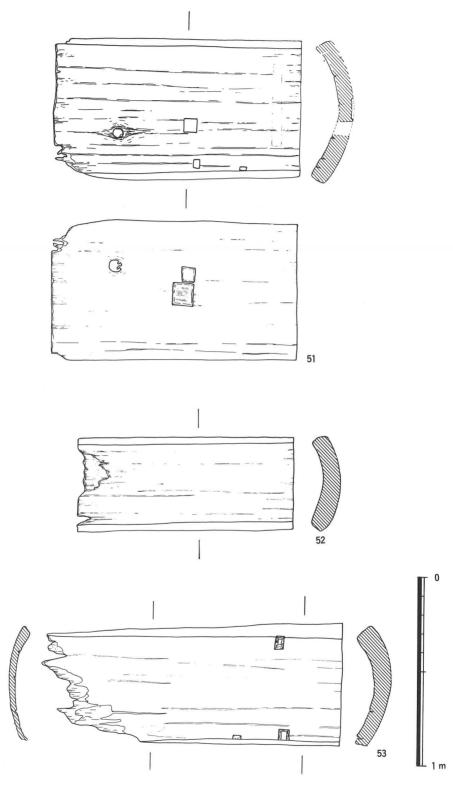
杯 (38~40) は口縁部がやや内湾気味に直上する。中皿 (41・42) は内面にヘラミガキを施す。鉢 (43) は口縁部が内湾して端部は丸く終わる。小型甕 (44) の体部はひじょうに張りが弱い。甕の体部の下半 (45) は、遺物の割れ口が研磨されている等の状況からみて井戸の水汲み用として用いられた可能性も考えられる。高杯 (46・47) ではミニチュア (46) のものと、柱状部が中空で、外面に6面の面取りが施されているもの (47) がある。また (47) の高杯の脚底部内面には墨書で『高坏』と明確に記されており、祭祀的なものを窺わせる。(48・49) の羽釜の内面はいずれもハケメが施されている。(50) の三角形の粘土版は把手付甕の把手であろう。(第10図)

柱穴(SP-201)

SE-201の西方約3 m地点で検出した。この柱穴は柱根を伴うもので、掘り形の上面形状は中世の鋤溝によって削平されているため不明であるが、検出時点での掘り込みの深さは42cmを測る。掘り形内埋土は灰色微砂混粘土の単一層で、埋土内からの出土遺物はなかった。柱根の規模は径17cm、長さ65cmを測る。上部の先端部分は腐食しており、幾分細くなっている。この柱穴は確実に建物跡に伴うものとおもわれるが、周囲を調査した結果これ以外、建物を構成するとみられる柱穴跡はなかった。



第10図 B区SE-201出土遺物実測図Ⅱ



第11図 B区SE-201井戸枠実測図

2) 鎌倉時代

土坑 (SK-101~103)

SK-101

調査区北東隅7 d区で検出した。西部分は攪乱によって削平されているため全容は不明である。規模は検出部で南北1.5mを測る。内部堆積土は灰色~暗灰色粘質土の単一層で、埋土内からの出土遺物はなかった。

SK-102

調査区中央7 b区で検出した。上面は円形を呈し、数条の溝を切る。規模は東西1.7m・南北2.0m・深さ16cmを測る。断面の形状は浅い皿形を呈し、内部堆積土はSK-101同様灰色~暗灰色粘質土の単一層で、埋土内からの出土遺物はなかった。

SK-103

調査区西部7 a 区で検出した。上面の形状はほぼ方形を呈し、数条の溝を切る。規模は東西3.0m、南北3.5m、深さ6~10cmを測る。断面の形状は浅い皿形を呈し、内部堆積土は灰色~暗灰色粘質土の単一層で、埋土内からは土師器及び瓦器の小破片が少量出土した。

溝 (SD-101~131)

調査区のほぼ全域にみられる農耕に伴う鋤溝跡である。方位で区別すると東西方向は13条(SD-101~113)、南北方向は18条(SD-114~131)である。各溝の検出幅は0.3~1.7m、深さ10~20cmを測り、断面の形状は逆台形を呈する。溝内埋土は灰色~暗灰色粘質土の単一層で、内部からは瓦器椀及び土師器皿の小破片がごく少量含まれていたが、図化できる遺物はなかった。

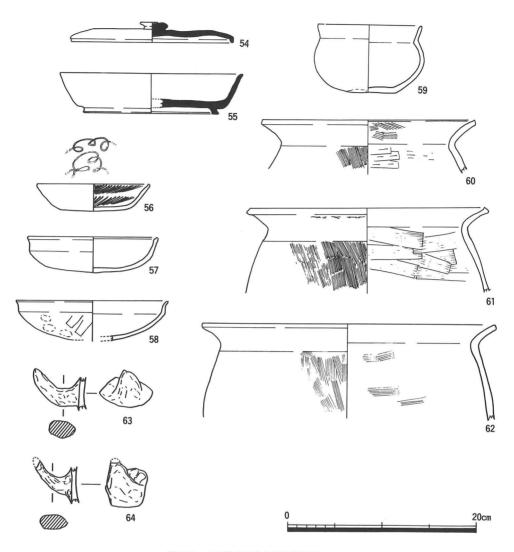
Ⅱ. 遺構に伴わない出土遺物

第6層においては古墳時代中期から後期に比定される遺物包含層が認められた。出土遺物の割合は、総量全体でみると須恵器(杯蓋・壺・高杯・鉢・甕)が85%、土師器(壺・甕・羽釜)が15%で、須恵器が大半を占めるが全て小片で図化できるものはなかった。

第5層においては主に奈良時代に比定される遺物包含層が認められた。出土遺物の割合は、 総量全体でみると須恵器(杯蓋・杯身)が23%、土師器(壺・皿・杯・甕)が77%で圧倒的に 土師器が占める。しかし図化できたものはひじょうに少なく、須恵器が2点(54・55)、土師器が9点(56~64)の11点である。(第12図)

「須恵器]

(54) の擬宝珠形のつまみをもつ杯蓋及び (55) の高台を有する杯身は陶邑編年でみると第 \mathbb{N} 型式 $1\sim 2$ 段階に相当する。



第12図 B区第5層出土遺物実測図

[土師器]

(56) の中皿は内面に連結輪状と2段の放射状暗文を施す。(57・58) の杯は双方とも底部に丸みをもつ。(59) の小型鉢は偏平な体部をもつ。(60~62) の甕の体部は3者とも比較的張りが弱い。(63・64) は舌型をした把手杯甕の把手である。

 $\langle C \boxtimes \rangle$

当調査区においては、第13図に示すように調査面積のほぼ6割近くが近代の整地等の削平により攪乱されている。遺構は鎌倉時代の土坑・溝・落ち込みを検出した。

I. 検出遺構・出土遺物

現地表下1.0m (標高8.4m) 前後の第5層茶褐色~暗褐色粘質土上面において鎌倉時代中期から末期の土坑1基 (SK-101)、溝24条 (SD-101~124)、落ち込み (SO-101) 1 箇所を検出した。

土坑 (SK-101)

7g区で検出した。平面は楕円形を呈し、規模は東西幅1.1m、南北幅0.6m、深さ15cmを測る。断面の形状は逆台形を呈し、遺構内埋土は灰色~暗灰色粘質土の単一層である。遺物は土師器の小片が少量出土している。

溝(SD-101~124)

普遍的にみられる農耕に伴う鋤溝である。方位で区別すると南北方向は18条(SD-101~118)、東西方向は6条(SD-119~124)である。溝の検出幅は0.3~1.0mを測るが、広いものになると2m前後に達する溝もある。幅広い溝は特に調査区東部にみられ、これはA区でもみられたように鋤が幾度も重複して行き交われたことを示すものであろう。また、溝の深さは10~20cmを測り、断面の形状は逆台形を呈する。溝内埋土は灰色~暗灰色粘質土の単一層で、内部からは瓦器・土師器の小片が出土している。

落ち込み (SO-101)

7 f 区で検出した。東西方向に伸びる鋤溝(S D - 120~124)の西端で合流し、緩やかに西側へ落ち込む遺構である。上面の形状は東側を除く周囲がすべて攪乱されており、全容は不明である。規模は検出部で最大幅4.5 m、深さ20cm前後を測る。遺構内埋土は灰色~暗灰色粘質土の単一層で、内部からは瓦器・土師器の小片が出土している。

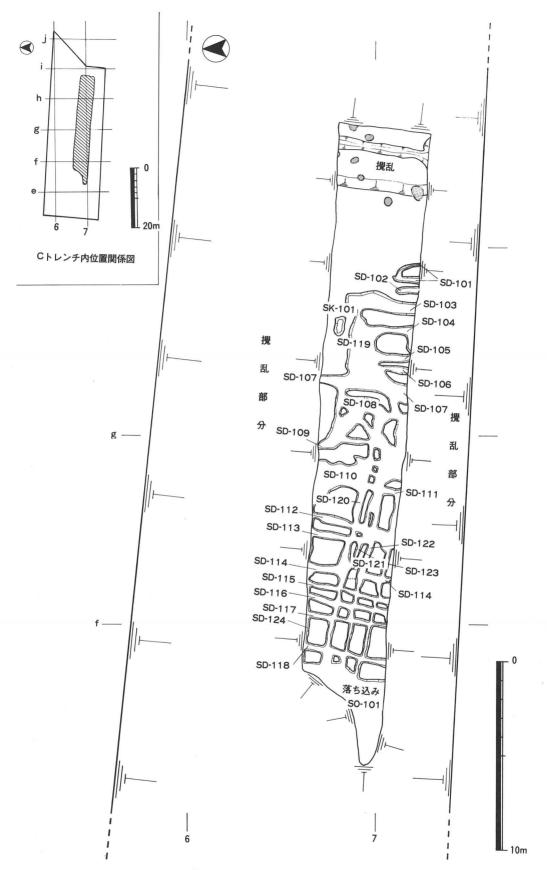
Ⅱ. 遺構に伴わない出土遺物

第6層内においては古墳時代中期~後期に比定される遺物が認められた。出土遺物の割合は、土師器が32%、須恵器が67%を占め、そのうち図化できたものは須恵器が21点 (65~85)、土師器が2点 (86・87) を数える。(第14図)

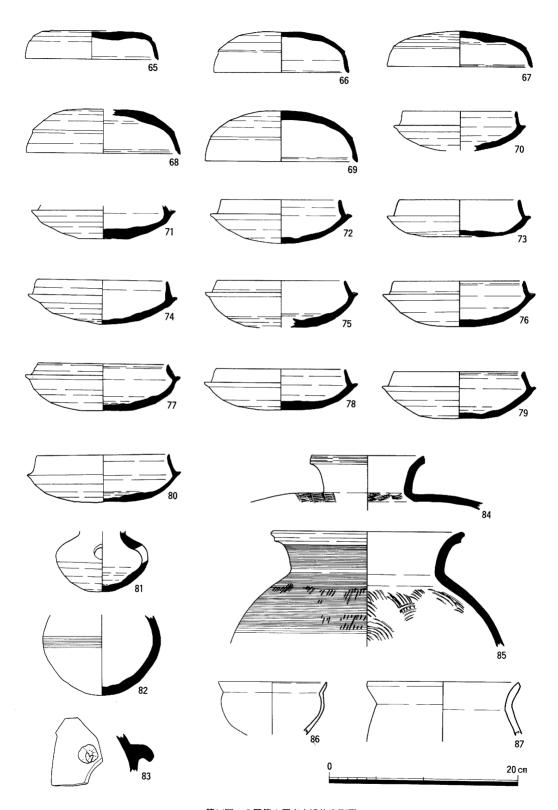
[須恵器]

陶邑編年でみると第Ⅱ型式3~4段階に相当する。

杯蓋には天井部でみるとやや凹むもの (65)、平らなもの (66・68)、丸みをもつもの (67・69) があり、(65・67) はなかでも比較的器高が低い。杯身では底部でみると丸みをもつもの (70・72・74・76) と平らなもの (71・75・77~80) があり、(73) の底部は若干窪む。(76・



第13図 C区遺構平面図



第14回 C区第6層出土遺物実測図

[土師器]

(86) の小型の鉢は、形態的に布留式期新相の系統を引くものかと思われる。(87) は張りの弱い体部をもつ小型の甕である。

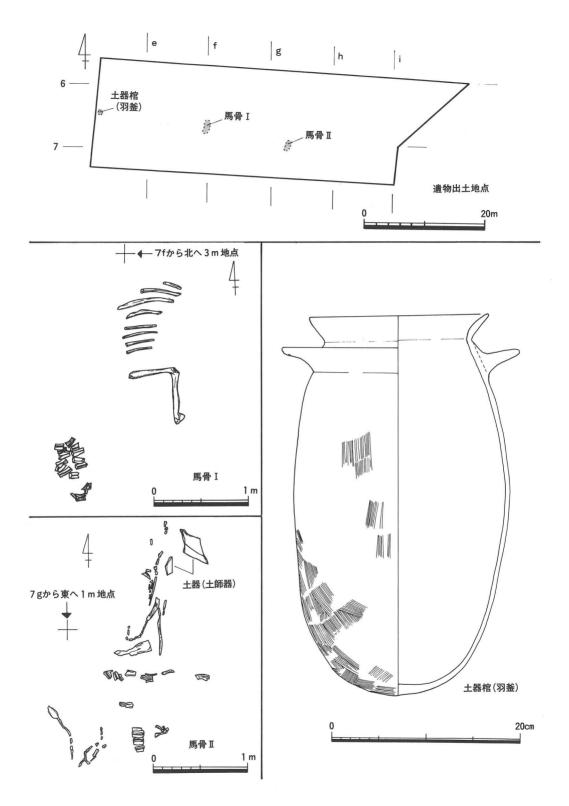
第5層内においては奈良時代に比定される遺物が含まれるのを確認したが出土量がひじょうに少なく、またすべてが小破片で図化できるものはなかった。遺物片の内容は、須恵器では杯蓋・杯身、土師器では杯・甕・羽釜等である。しかし第5層の掘削を終了した際、第6層上面(標高8.3m前後)においてほぼ原形をとどめる羽釜が1点、土師器片に混ざって散乱した馬骨を2地点において検出した。いずれも時期的に層位および周囲の遺物片から考えて奈良時代のものと思われる。(第15図)

羽釜はC区とB区との境界付近にあたる7 e 区内で検出した。形態的にみて菅原編集でいう河内A型bに比定されるもので、砲弾形の長い体部と「く」の字形に外反する口縁部とからなり、頸部に幅広の鍔をめぐらす。時期的には7世紀前半頃と比較的古い方に位置付けられる。各部の法量は、口径19.1cm、器高40.7cm、鍔径25.2cmを測る。周囲には遺構としての痕跡を示すものは認められなかったが、「土器棺」として用いられた可能性も考えられる。 2 地点の馬骨のうち、馬骨 I を前述の羽釜出土地点から東へ約19 m のところで検出した。出土状況は、上顎歯・下顎歯・橈骨・中手骨・肋骨等の配置からみて頭部を南、脚部を東に向けて横たわっている様子が窺える。

馬骨 Π は馬骨 Π の出土地点からやや南東よりに約 $17\,m$ のところで検出した。出土状況は、上 顎歯・下顎歯についてのみ明確に判断できるがその他は細かい骨片が散乱した状態にあり、詳 細は不明である。北部に土師器甕の一部が混在している。

馬骨の出土については、「平常京右京八条一坊十一坪」、「大阪府 城山遺跡」、「大阪府 日下貝塚」等の出土例から松井章氏は、「古代遺跡からのウシやウマの出土は、儀礼として明確なものを除いては、祭祀的なものと考えるよりはむしろ、社会技術史的観点から説明を付けた方が妥当な場合が多い。」と考察され、古代人の動物の皮革利用の技術や、動物食の伝統に関する事項について論じられている。

しかし、今回出土した馬骨については明確な遺構に伴うものではないので、詳細については 不明である。



第15図 C区土器(羽釜)、馬骨出土地点及び実測図

$\langle D \boxtimes \rangle$

Ⅱ. 検出遺構・出土遺物

現地表下1.3m (標高8.2m) 前後の第 6 層青灰色~暗灰色粘質土上面において奈良時代に比定される井戸 2 基 (SE-201・202)、土坑 3 基 (SK-201~203)、柱根を伴う柱穴 1 個 (SP-201)、小穴群 31 個 (SP-202~232)、溝 1条 (SD-201)、落ち込み 1 箇所 (SO-201)を検出した。(第17図)

さらに奈良時代の遺構面より20cm上(標高8.4m)の第5層茶褐色~暗褐色粘質土上面において、鎌倉時代中期から末期に比定される小穴4個(SP-101~104)、落ち込み1箇所(SO-101)、溝34条(SD-101~134)を検出した。なお、当調査区の北側部分は近世以降の整地等によって中世の遺構面は削平されている。(第25図)

1) 奈良時代

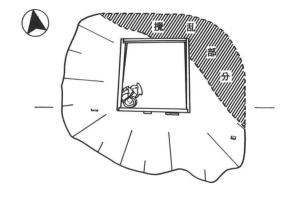
井戸 (SE-201 ⋅ 202)

SE-201

調査区北東3m区で検出した。井戸枠を伴うもので、掘り形の形状は北東の一部が調査区外に至るため全容は不明であるが、規模は検出部で東西幅1.8m、南北幅1.5m、深さ1.0mを測る。井戸枠は掘り形の検出面から30cm下で検出された。この井戸枠は長さ70cm前後、幅40cm前後、厚さ4cm前後の長方形の4枚の横板のうち、東西の井戸枠の両端に切り込みを入れて組まれたものをさらに2段に積み重ねて据えられている。(第16図)

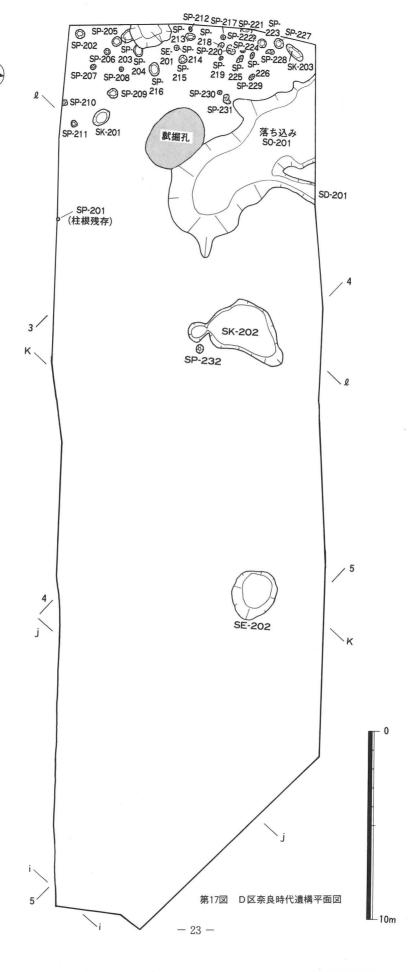
また、下段の井戸枠のうち3枚には、それぞれ「北一」・「南一」・「西一」と小さく片隅に墨書されているのが認められた(第19図)。このことから当時の人々が方位を意識していた様子が窺われる。

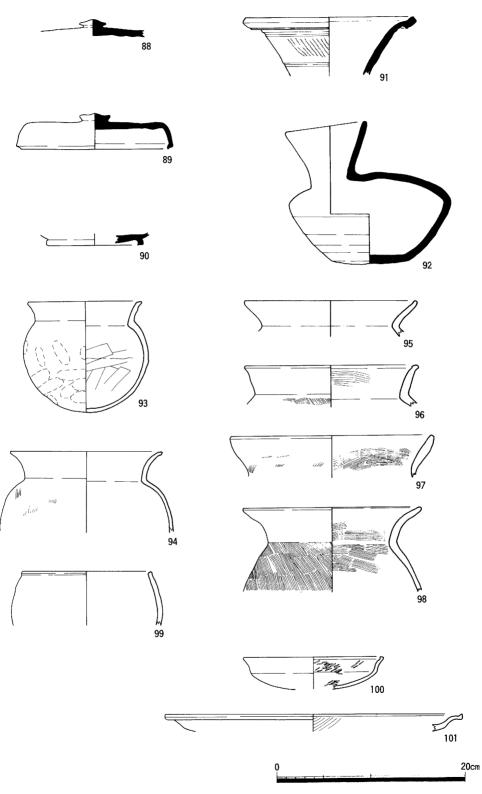
遺物は井戸枠内最下層から、図化できたもので須恵器の杯蓋 (88)、壺蓋 (89)、杯身 (90) 壺 (91)、平瓶 (92)、土師器では甕 (93・94・96~99)、鉢 (95)、杯 (100)、大



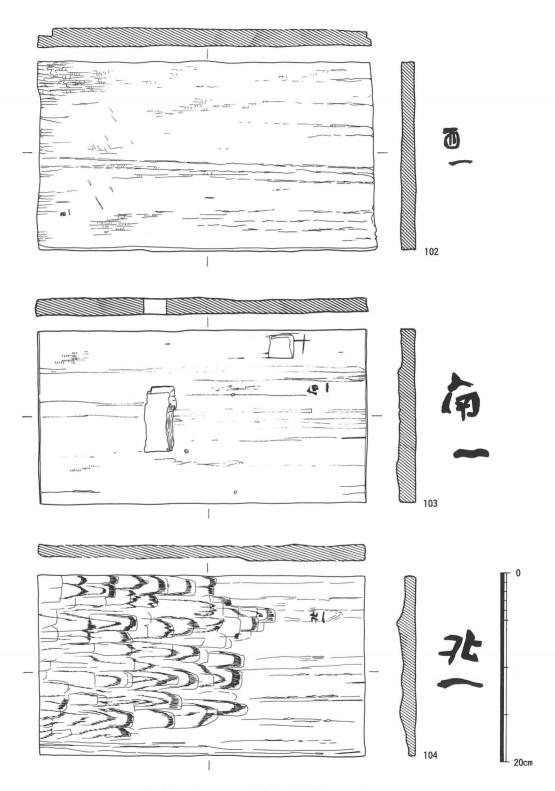
第16図 D区SE-201平断面図

T.P+

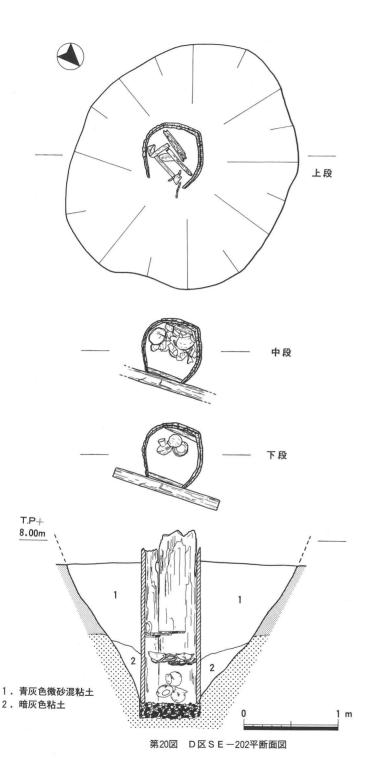




第18図 D区SE-201出土遺物実測図



第19図 D区SE-201井戸枠実測図(墨書入りのみ)

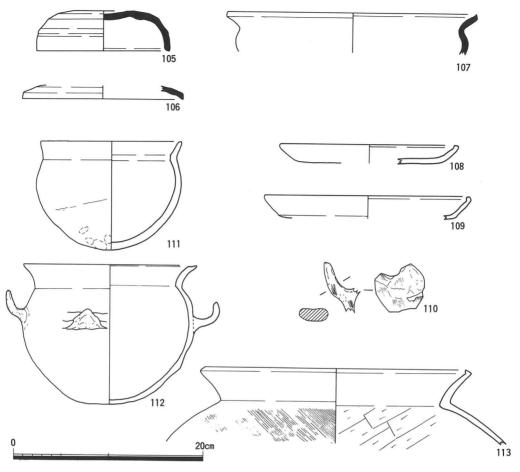


皿 (101) の14点である。(第18 図)

S = -202

調査区南部5k区で検出した。 掘り形の上面形状がほぼ円形を 呈するもので、東西径2.8m、 南北径2.4m、深さ2.0mを測る。 摺鉢状を呈する掘り形の中央に B区のSE-201とほぼ同規模 の井戸枠が据えられている。井 戸枠は弧形のものが2枚、平板 1枚(第22図)の3枚を向かい 合わせたもので、下層部分に枠 を支える横木が取り付けられて いる。これらの井戸枠もB区の SE-201同様に船材の一部を 転用したものと考えられる。掘 り形の埋土は第1層青灰色微砂 湿粘土・第2層暗灰色粘土の2 層に分層できる。井戸枠内部に は灰色細砂混粘土が堆積してお り、最深底部には径5cm前後の 小石が層さ20cm前後の間で敷き 詰められている。(第20図)

井戸枠内から出土した遺物の うち図化できたものは、須恵器 では杯蓋(105・106)、甕(107)、 土師器では中皿(108・109)、甕 (111・113)、把手付き甕(112) がある。このうち庄内式甕 (113)は古墳時代前期の混入品 である。(第21図)



第21図 D区SE-202出土遺物実測図

土坑 (SK-201~203)

SK-201

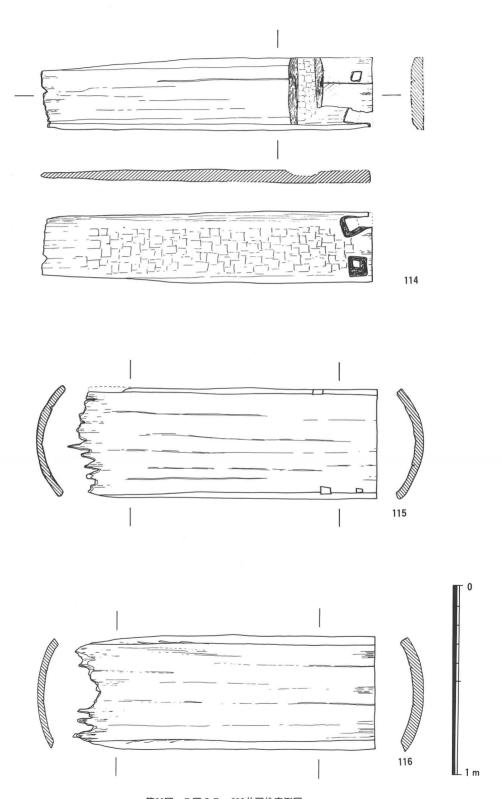
SE-202から北東約12mの41区で検出した。平面は不定形を呈し、規模は東西径2.5m、南北径4.0m、深さ20cmを測る。遺構内埋土は暗灰色粘土の単一層で、遺物は埋土内から土師器の小破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

SK - 202

SE-201から西約4mの31区で検出した。平面は楕円形を呈し、規模は東西径0.4m、南北径1.0m、深さ11cmを測る。遺構内埋土は暗灰色粘土の単一層で、遺物は出土しなかった。

SK - 203

調査区の東隅の4m区で検出した。平面は長楕円形を呈し、規模は東西径0.5m、南北径1.2m、深さ11cmを測る。遺構内埋土は暗灰色粘土の単一層で、遺物は出土しなかった。



第22図 D区SE-202井戸枠実測図

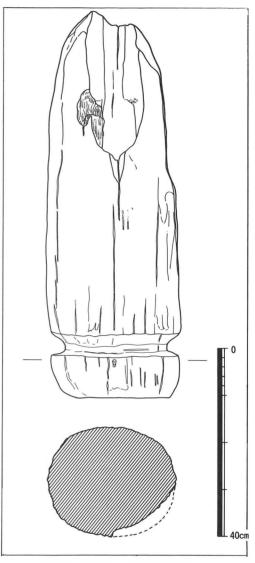
柱穴(SP-201)

SK-202の南西約6mの側溝際(31区)で検出した。この柱穴はB区のSP-201同様に柱根を伴うもので、掘り形の上面形状及び規模は不用意にも側溝掘削の際に削平してしまったため不明である。柱根の規模は短径23cm、長径27cm、長さ84cmを測り、断面形状はやや楕円形を呈する。柱根の先端部分は幾分細くなっているが、裾部分については末端から10cmのところに幅4cm、深さ3cmの切り込みが彫り廻らされており、明瞭に加工痕が認められる。底部は水平に削られている。(第23図)

この柱穴は建物跡に伴うものであるが、周囲には中世の開墾等の削平を受けたためか建造物を構成する他の柱穴はみられなかった。

小穴 (SP-202~232)

調査区北端部で検出した。総数31箇所で上面の形状は、主に円形を呈するものと楕円形を呈するものに分類される。規模は大型のもので径40~60cm、小型のもので径10~20cmを測る。深さでは浅いもの5~10cm、深いもの30cm以上を測るものもある。遺構内の堆積土はすべて暗青灰色~暗灰色粘土の単一層である。遺物は各小穴内から須恵器および土師器の小片が僅かにみられたが、図化できるものはなかった。



第23図 D区SP-201柱根実測図

なお、個々の小穴の法量等については第1表に記した。

溝 (SD-201)

調査区北部の4m区で検出した。方向は南東-北西に伸び、南東部は調査区外に至り、北西部は落ち込み(SO-201)と合流する。規模は検出部で、幅0.7~1.0m、深さ13cmを測る。断面の形状は逆台形を呈する。遺構内の堆積土は暗灰色粘土の単一層で、遺物は出土していない。

遺構番号	平面形	断面形	径	深さ	遺構内堆積土	備考
S P -202	円形	逆台形	30	5	暗青灰色粘土	
S P -203		逆台形	25~30	32	暗青灰色粘土	SE-201に切られる。
SP-204		逆台形	54~66	34	暗青灰色粘土	SE-201に切られる。
S P -205	円形	逆台形	55	11	暗青灰色粘土	
S P -206	円形	逆台形	42	6	青灰色粘土	
S P -207	円形	逆台形	33	13	青灰色粘土	
S P -208	円形	椀 形	22	8	暗青灰色粘土	
S P -209	円形	逆台形	58	17	暗青灰色粘土	· ·
S P -210		逆台形	28以上	17	暗青灰色粘土	調査区外に至る。
S P -211	円形	逆台形	43	5	暗青灰色粘土	
S P -212	楕円形	椀 形	29~38	5	青灰色粘土	
S P -213	楕円形	逆台形	44~59	5	暗青灰色粘土	
S P -214	円形	椀 形	27	5	青灰色粘土	
S P -215	円形	逆台形	40	7	暗青灰色粘土	
S P -216	楕円形	逆台形	52~64	31	暗青灰色粘土	
S P −217	円形	椀 形	38	11	青灰色粘土	
S P -218	楕円形	逆台形	31~43	9	青灰色粘土	
S P -219	円形	椀 形	26	4	暗青灰色粘土	
S P -220	楕円形	逆台形	48~57	11	暗青灰色粘土	
S P -221		逆台形	75以上	18	青灰色粘土	調査区外に至る。
S P −222	円形	椀 形	36	9	青灰色粘土	
S P -223	円形	逆台形	51	12	青灰色粘土	
S P -224	楕円形	椀 形	28~38	12	暗青灰色粘土	
S P −225	楕円形	逆台形	23~60	5	暗青灰色粘土	
S P −226	楕円形	椀 形	31~46	7	暗青灰色粘土	
S P −227	円形	逆台形	48	7	暗青灰色粘土	
S P -228	不定形	逆台形	24~37	8	暗青灰色粘土	
S P -229	楕円形	椀 形	25~37	7	青灰色粘土	
S P −230	円形	椀 形	33	11	青灰色粘土	
S P -231	不定形	逆台形	42~54	13	青灰色粘土	
S P −232	円形	逆台形	38	8	青灰色粘土	

落ち込み (SO-201)

調査区北部の41~4m区で検出した。平面は不定形を呈し、北東部の一部は試掘孔に削平され、南東部は調査区外に至る。また南部ではSD-201と合流する。規模は検出部で東西幅9.0m、南北幅3.5~4.5m、深さ30cmを測る。断面の形状は緩やかな逆台形を呈する。遺構内の堆積土は暗灰色粘土の単一層である。遺物は遺構内の南西部に集積した状態で出土した。出土量はコンテナ箱にして1箱分を数える。

遺物は須恵器が全体の7割前後を占め、土師器をはるかに上回るがそのほとんどが破片であり、図化できたものは壺が2点(117・118)、杯身が4点(119~122)の6点である。杯身のうち(122)の底部外面には「寿」ともよめるような墨書が認められる。

土師器では古墳時代前期の混入品とみられる布留式期の鉢(123~125)、以下奈良時代の小皿(126)・中皿(127~131)・(132)の杯は底部外面に「信」の墨書がみられる。甕(133~135)は3点ともに体部以下は欠損しており、辛うじて口縁部のみ図化することができた。(136)は把手付き甕と推定されるが破片のため全容は不明である。羽釜の2点(137・138)も鍔部分のみの破片のため全容は不明である。他に比較的小型の土錘(139)が1点含まれていた。(第24図)

2) 鎌倉時代

小穴(SP-101~104)

SP-101

6 k 区で検出した。平面は不定形を呈する。規模は検出部で最大幅60cm、最小幅42cm、深さ 10cmを測る。断面の形状は逆台形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の単一層である。遺物は出土していない。

SP - 102

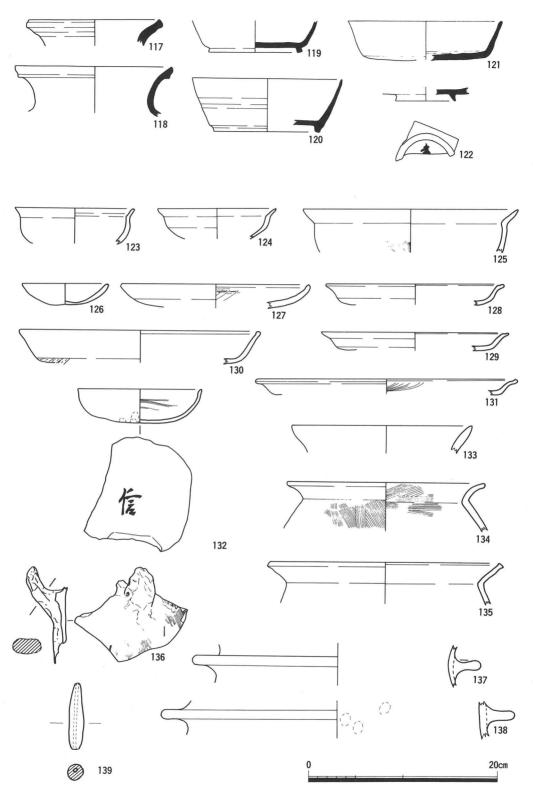
SP-101の西部で検出した。上面は楕円形を呈する。規模は検出部で最大幅55cm、最小幅33cm、深さ11cmを測る。断面の形状は逆台形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の単一層である。遺物は出土していない。

SP-103

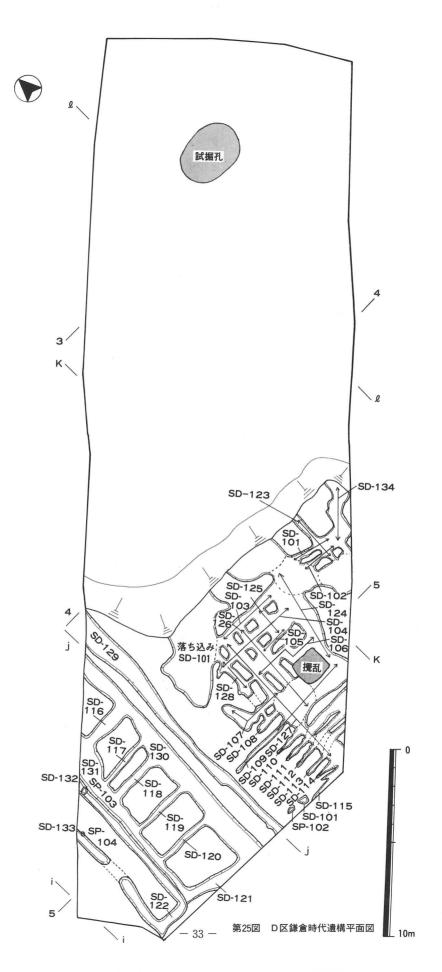
5 j 区で検出した。上面は隅丸方形を呈する。規模は検出部で径30~45cm、深さ15cmを測る。 断面は逆台形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の単一層である。遺物は出土していない。

SP-104

SP-103の南西部で検出した。上面は円形を呈する。規模は検出部で径20~30cm、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の単一層である。遺物は出土していない。



第24図 D区落ち込み(SO-101)出土遺物実測図



落ち込み (SO-101)

5 k 区で検出した。南部は S D -103・127・128と合流し、北部は近世以降の攪乱によって 削平される。平面は不定形を呈する。規模は検出部で最大幅3.0m、最小幅1.4m、深さ18cmを 測る。断面の形状は逆台形を呈し、遺構内埋土は灰色~暗灰色粘質土の単一層である。遺物は 土師器の小片が少量出土しているが、図化できるものはなかった。

溝(SD-101~134)

他の調査区同様、農耕に伴う鋤溝である。方位で区別すると東西方向は22条(SD-101~122)、南北方向は11条(SD-123~133)、北東-南西方向に1条(SD-134)である。溝の検出幅は0.3~1.3 m、深さ10~20 cmを測り、断面の形状は逆台形を呈する。溝内埋土は灰色~暗灰色粘土質土の単一層で、他の調査区同様に瓦器・土師器の小破片が僅かにみられた。

Ⅱ. 遺構に伴わない出土遺物

[須恵器]

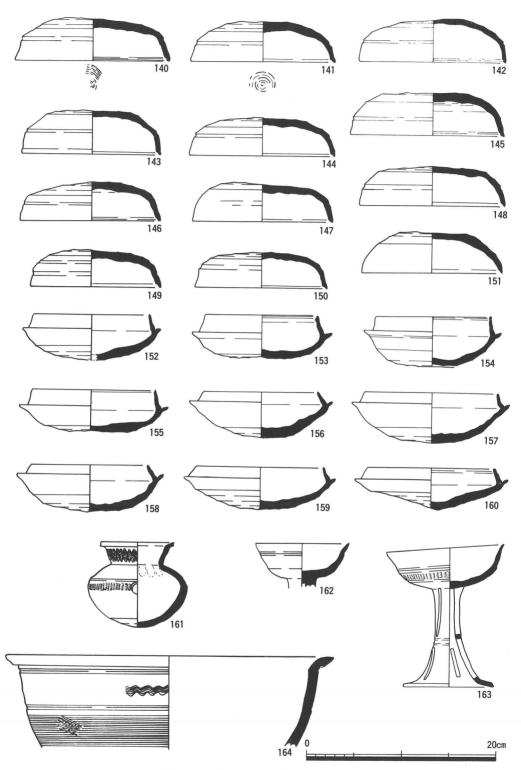
時期的に陶邑編年でみると第Ⅱ型式1~5段階に相当する。

杯蓋(140~151)では天井部の形態でみると(142)の丸みをもつもの以外はすべて平坦である。器高でみると平均4.3cmで、なかでも(142・143)が比較的高く、(149・150)は比較的低い。(140・141)の天井部内面には円弧タタキ(同心円タタキ)が施されている。また、(151)には外面の体部と口縁部の境に稜がみられない。杯身(152~160)は底部の形態でみると(153・155)の平坦なもの以外はすべて丸みをもつものであるが、(160)は他のものと比較すると全体的に浅く偏平である。立ち上がりでみると長く直立気味なもの(152・154・155)と、短く前者よりも内傾するもの(156~160)とに分類できる。(161)の小型の聴は肩に明瞭な稜をもち、長脚無蓋高杯(162・163)のうち(163)の杯部外面には櫛描き列点文が施されている。(164)の大型器台の杯部は尖り気味の口縁端部をもつ。(第26図)

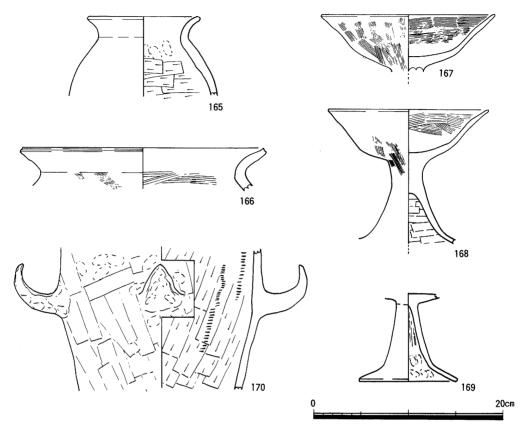
[土師器]

甕 (165・166) のうち (165) 口縁部が比較的短く、器壁は厚い。(166) の甕は比較的器壁が厚い。(167~169) の高杯は布留式期新相に比定される。甑とみられるもののなかで図化できたものは (170) の 1 点のみである。(第27図)

第5層については奈良時代に比定される遺物がみられた。この包含層からは、コンテナ箱に



第26図 D区第6層出土遺物実測図I



第27図 D区第6層出土遺物実測図Ⅱ

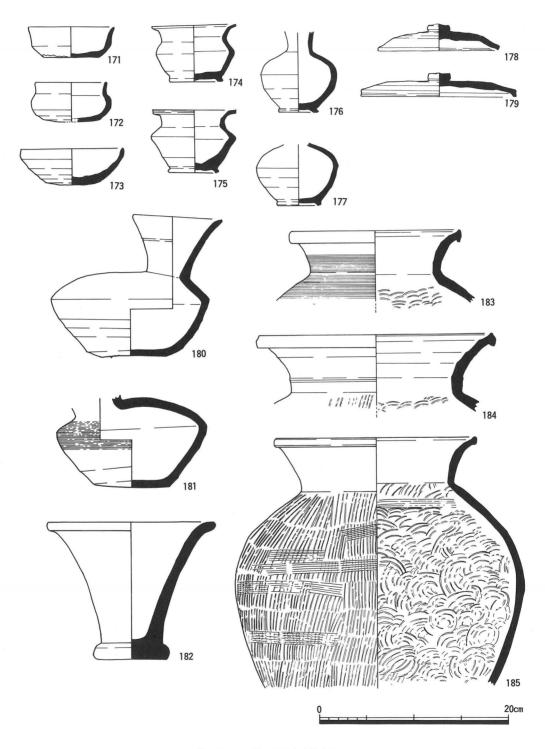
して3箱分の遺物が出土した。この出土遺物の内訳の割合は、須恵器(杯・杯蓋・壺・甕・鉢・平瓶)が38%、土師器(皿・杯・鉢・壺・甕・羽釜)が62%という結果で、土師器の占める割合が高い。器種別でみると須恵器では杯、壺、土師器では皿、甕が比較的多い。

これらの出土遺物のうち図化できたものは須恵器が15点(171~185)、土師器が21点(186~201)の計36点で全体の出土量からみると少ない。

「須恵器]

陶邑編年でみると第Ⅳ型式1~3段階に相当するものと思われる。

小型の杯には底部が平坦なもの(171)とやや丸みをもつもの(173)がある。体部が偏平な小型の壺(172)には肩部に蓋を受けるためのわずかに窪むところがみられる。また小型壺には同じ高台が付くものでも、口縁が広口のもの(174・175)と長頸とみられるもの(176・177)とがある。擬宝珠形のつまみを有する杯蓋には口縁端部の丸いもの(178)と垂直に下がるもの(179)がある。平瓶の2個体(180・181)は同一形態であるが、(181)の方には肩部の上下にカキメ調整が施されている。鉢(182)は厚い円盤状の底部をもつ。(183~185)の甕の体部外面を



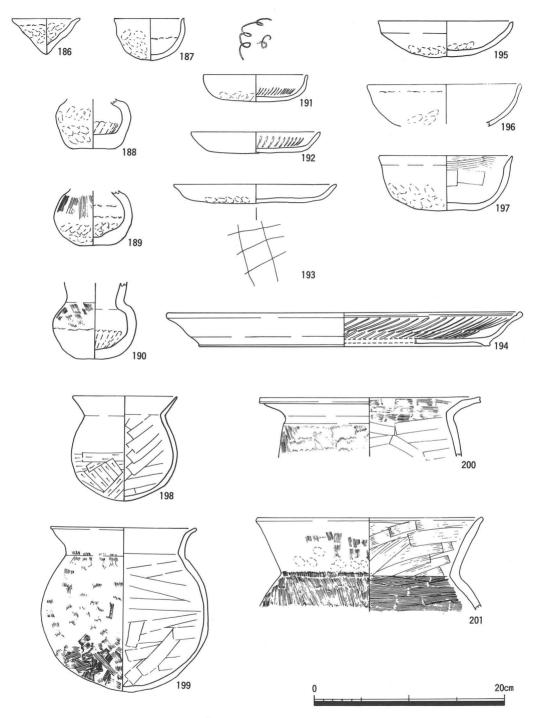
第28図 D区第5層出土遺物実測図I

みると (183) はカキメ調整によってタタキの痕跡を消している。(第28図) [土師器]

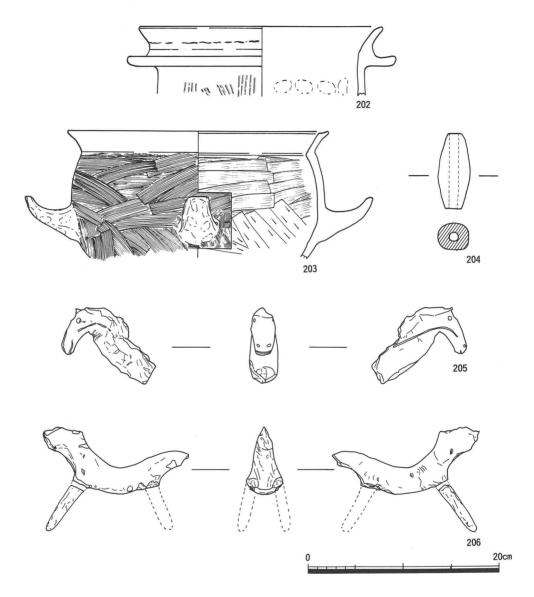
小型模造土器(186)および小型壺(188~190)は成形がほとんど手づくねによるもので、その うち (186)に関しては「平常京右京八条一坊十一坪」調査の溝 (SD-920) から出土したも のと酷似しており、それから考え合わすと、何らかの祭祀に使用された可能性もある。(187) の小型坏は完形品である。当調査区で出土した数ある土師器杯のなかで、(191)のように底部 内面に連結輪状ヘラミガキが明瞭に認められるものはこの杯1点のみである。中皿(192・ 193) のうち(193) の底部外面にはヘラ記号がみられる。(194) の大型の皿は「盤」と呼ばれる特 別な儀式・宴等に食物の「盛り皿」として用いられるものである。(195・196)の杯は、両者と も成形および調整が粗雑である。(197)の椀は器種別にみるとひじょうに少ない。甕には体部 が球形を呈するもの(198・199)と体部に張りをもたないもの(200)がある。(201)の壺は体部 以下が欠損しており、詳細は不明である。(202)の羽釜は形態的にみて菅原分類による河内A 型 b に類するものと思われる。(203)は舌型の把手が付く鍋であろう。(204)の土錘がこの包含 層から1点出土した。(205・206)の土馬に関してはどちらも原形をとどめず、(205)は頭部か ら首まで、(206)は胴部と前脚とみられるうちの片脚のみの残存である。また、(205)には馬具 としての手綱がヘラ状工具によって線刻されている痕跡が認められる。両者とも形態的には馬 具が省略され、裸馬の段階にはいる小笠原編年の第Ⅱ段階D形式(8世紀初頭)に比定されよ う。(第29・30図)

土馬は現在までの出土例からみて、祭祀に関わる遺物とされている。大場磐雄氏によると土馬の出土は九州地方から東北地方南部までの広範囲に及ぶが、とくに畿内に多く、畿内でもとりわけ大和で顕著に出土する。その形態的特徴には馬具を表現した飾馬と、それを欠く裸馬の2種類がある。土馬の製作目的は、出土する遺跡と文献にみる馬との関連から水霊祭祀・峠神祭祀・祈雨祭祀・墓前祭祀などが考えられている。これらの分類から今回当遺跡から出土した土馬を考えると、形態的には後者の裸馬に近いといえるが、製作目的については何等かの祭祀に用いられたであろう事だけで、今回の場合決定付けられる遺構の痕跡はない。しかし、ここでまた小笠原氏の論説をみると、土馬の出土した遺構例では溝が多く、溝は土壙と同じく、しばしば緒物の廃棄処理にあてられる。民族例では、祈雨祭祀に川あるいは水路など水に関係したものの付近に祭場を設置するものが知られる。土馬の場合でも溝岸で祭儀がなされ、その後投棄された可能性も低くはないであろうとされている。

八尾市内における土馬の出土例をみると、当調査研究会において昭和62年に実施した「成法 寺遺跡第3次調査(SH87-03)」及び「矢作遺跡第2次調査(YH87-02)」、平成4年に実施 した「萱振遺跡第12次調査(KF92-12)」があり、それらは今回出土したものとほぼ同一時期



第29図 D区第5層出土遺物実測図Ⅱ



第30図 D区第5層出土遺物実測図Ⅲ

と考えられる。

そのなかでも萱振遺跡については飛鳥時代(7世紀頃)に比定される溝内からで、遺構に伴ったものでは数少ない出土例といえる。この土馬は、脚と尾が欠けているが、現状で体長21cm、総高7.6cmを測り、土馬のなかでも大型の飾り馬で、馬具が写実的に表現されている。

〈E区〉

I. 検出遺構

現地下1.4m (標高8.4m) 前後の第5層茶褐色~暗褐色粘質土上面において、鎌倉時代中期から末期に比定される小穴4個(SP-101~104)、土坑1基(SK-101)、溝8条(SD-101~108)を検出した。(第31図上)

小穴(SP101~104)

SP-101

調査地東部 4 i 区で検出した。上面は円形を呈する。規模は検出部で径38cm、深さ10cmを測る。断面形は逆台形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の単一層である。遺物は土師器の小片が少量出土した。

SP - 102

4 h 区で検出した。上面は楕円形を呈する。規模は検出部で長径62cm、短径40cm、深さ23cmを測る。断面形は2段逆台形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の単一層である。遺物は土師器の小片が少量出土した。

SP-103

SP-102の南西部で検出した。平面は不定形を呈する。規模は検出部で長径69cm、短径41cm、深さ16cmを測る。断面形は逆台形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の単一層である。遺物は土師器の小片が少量出土した。

SP-104

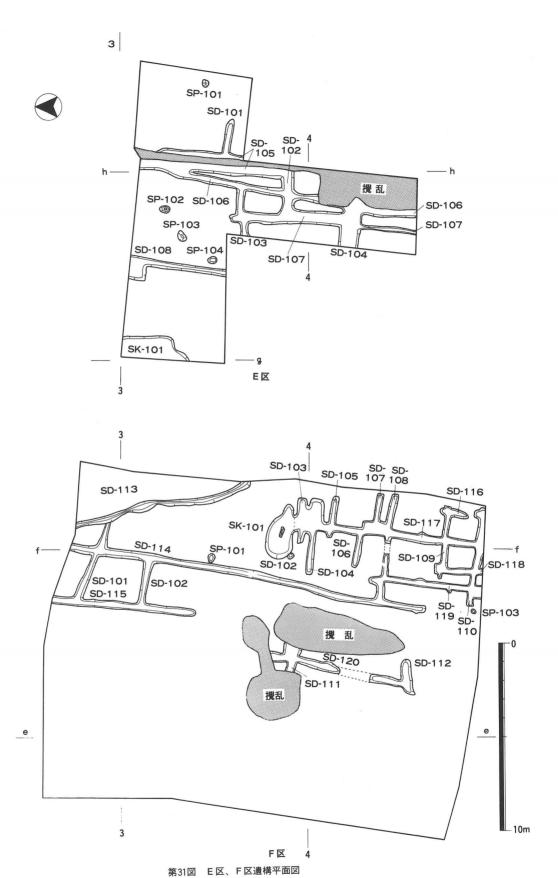
SP-105の南西部で検出した。平面は不定形を呈する。規模は検出部で長径55cm、短径40cm、深さ12cmを測る。断面形は椀形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の単一層である。遺物は出土しなかった。

土坑 (SK-101)

調査区西部4h区で検出した。北部及び西部は調査区外に至る為、全容は不明である。規模は検出部で最大幅3.6m、最小幅1.2m、深さ6cmを測る。遺構内埋土は灰色~暗灰色粘質土の単一層である。遺物は土師器の小片が少量出土している。

溝(SD-101~108)

他の調査区同様、農耕に伴う鋤溝である。方位で区別すると東西方向に4条 (SD-101~104)、南北方向に4条 (SD-105~108)である。溝の検出幅は0.2~1.0 m、深さ10~20 cmを測り、断面の形状は逆台形を呈する。溝内埋土は灰色~暗灰色粘質土の単一層で、内部からは土師器の小片が少量出土した。



Ⅱ. 遺構に伴わない出土遺物

第4~6層にかけての堆積層から遺物が僅かに出土している。第6層では古墳時代前期(庄 内式期)から古墳時代後期に比定される遺物、第5層では古墳時代後期から奈良時代に比定される遺物、第4層では鎌倉時代中期から末期に比定される遺物がみられる。しかし、それらは すべて小片で図化できるものはなかった。

〈F区〉

I. 検出遺構・出土遺物

現地下1.4m (標高8.4m) 前後の第5層茶褐色~暗褐色粘質土上面において、鎌倉時代中期から末期に比定される小穴3箇所(SP-101~103)、土坑1基(SK-101)、溝20条(SD-101~120)を検出した。(第31図下)

小穴(SP-101~103)

SP-101

4 f 区で検出した。上面は楕円形を呈する。規模は検出部で長径52cm、短径43cm、深さ5cmを測る。断面形は浅い皿形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の単一層である。遺物は出土していない。

SP-102

4 f 区で検出した。北東の一部はSK-101に切られる。上面は円形を呈する。規模は検出部で径30cm、深さ5cmを測る。断面形は椀形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の単一層である。遺物は出土していない。

SP-103

5 f 区で検出した。上面はほぼ円形を呈する。規模は検出部で径25cm、深さ6cmを測る。断面形は逆台形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の単一層である。遺物は出土していない。

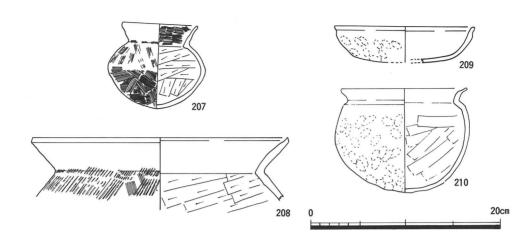
土坑 (SK-101)

SK - 101

4 g区で検出した。南部はSD-103と合流する。上面は不定形を呈する。規模は最大幅 3.0m、最小幅1.4m、深さ28cmを測る。断面は浅い椀形を呈し、遺構内埋土は灰色~暗灰色粘質土の単一層である。遺物は土師器の小片が少量出土している。

溝(SD-101~120)

E区同様、農耕に伴う鋤溝と思われる。方位で区別すると東西方向に12条 (SD-101~112)、南北方向に8条 (SD-113~120)である。溝の検出幅は0.2~1.0 m、深さ10~20cmを測り、断面の形状は逆台形を呈する。溝内埋土は灰色~暗灰色粘質土の単一層で、各溝からは



第32図 E区第5層出土遺物実測図

土師器の小片が少量出土した。

Ⅱ. 遺構に伴わない出土遺物

E区同様に第4層から第6層にかけて、古墳時代前期から鎌倉時代末期までの遺物が僅かに出土している。それらのほとんどは小片であったが、その中で図化できたものは第5層から出土した古墳時代前期に比定される小型丸底壺 (207)、甕 (208)、奈良時代に比定される杯 (209)、甕 (210) の4点である。(第32図)

第3節 出土遺物観察表

$A \boxtimes$

$A \bowtie$							
遺物番号 図版番号	器 種 出土地点	法量 口径 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備考
1	壺 蓋 須恵器 第5層	口径 11.6	天井部から外下方へ直線的に伸びる口縁部に至り、 端部内面にかえりを有す。 内外面ともに回転ナデ。	灰色	精良	良好	
2	杯 蓋 須恵器 第5層	口径 16.8	平坦な天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端 部は丸くおさめる。 内面ナデ、外面回転ヘラケズリ。	灰色	精良	良好	
3	同 上	つまみ径 2.85 つまみ高 0.9	平坦な天井部に偏平な擬宝珠形のつまみがつく。 内面中央及びつまみナデ、その他回転ナデ。	黒灰色	精良	良好	
4	同上	口径 16.4 器高 2.9	偏平なつまみをもち、平らな天井部から端部は屈 曲して細く仕上げる。 内外面ともに回転ナデ。	灰色	精良	良好	
5	椀 須恵器 第5層	高台径 5.6 高台高 0.6	底部はヘラキリのち、高台を張り付ける。 内外面ともに回転ナデ。	灰色	精良	良好	
6	杯 身 須恵器 第5層	高台径 9.6 高台高 0.4	底部はヘラキリのち、高台を「ハ」の字状に貼り 付ける。 内外面ともに回転ナデ。	灰色	精良	良好	
7	同上	高台径11.2 高台高 0.6	同 上	灰色	精良	良好	
8	同上	高台径13.2 高台高 0.6	同 上	灰色	精良	良好	
9	同上	高台径13.2 高台高 0.6	同 上	灰白色	精良	良好	
10	同 上	口径 17.6 器高 3.8 高台径11.6 高台高 0.5	平坦な杯底部から上下方へ伸びる。口縁端部は丸 く終わる。底部はヘラキリのち、高台を「ハ」の字 状に貼り付ける。 内外面ともに回転ナデ。	灰色	精良	良好	
11	同上	高台径16.0 高台高 0.7	底部はヘラキリのち、高台を貼り付ける。 内外面ともに回転ナデ。	灰色	精良	良好	
12 九	同上	高台径13.2 高台高 2.0	「ハ」の字状に開いたしっかりした高台をもち、 内面に沈線を1状巡らせる。 内外面ともに回転ナデ。	灰色	精良	良好	
13	同上	高台径18.8 高台高 0.6	底部は広く平坦とおもわれる。 内面同心円クタキ、外面タタキ。	灰色	精良	良好	
14	平 瓶 須恵器 第5層	_	口縁部は体部中央から外れて接合され、屈曲部を もって底部に至る。体部3/5遺存。 外面回転ヘラケズリ、内面ナデ。	灰色	精良	良好	
15	甕 須恵器 第5層	口径 28.4	口縁部はほぼ直立気味に短く伸びる。体部欠損。 口縁部内外面ナデ、肩部内面は同心円タタキのち ナデによるすり消し。	灰色	・ 精良	良好	

遺物番号 図版番号	器 種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備考
16	壷 須恵器 第 5 層	口径	45.0	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部は外側へ やや肥厚する。 内外面ともにナデ。	灰白色	精良	良好	
17	小 皿 土師器 第5層	口径 器高	13. 0 2. 9	平坦な底部から内湾して上外方へ伸びる口縁部に 至る。端部は若干つまみ上げる。 外面は密なヘラミガキを施しているとおもわれる が、自然釉付着及び剝離が激しいため調整の詳細は 不明である。	橙褐色	精良	良好	
18	同上	口径	12.0	平坦な底部から屈曲して斜上方へ伸びる口縁部に 至る。端部は丸く仕上げる。 外面へラミガキ、内面ナデ。	淡茶色	長石・雲母 を含む	良好	
19	中 皿 土師器 第5層	口径	20.0	平坦な底部から一段屈曲したのち、外反気味に短く伸びる口縁部に至る。 口縁部内外面ともにヨコナデ、底部外面ユビ押さえ・ナデ、内面ナデ。	淡茶褐色	長石・石英を含む	良好	
20	中 皿 土師器 第5層		21. 8 3. 35	平坦な底部から内湾気味に屈曲したのち、外反気 味に短く伸びる口縁部に至る。端部は丸く仕上げる。 口縁部内外面ともにヨコナデ、底部外面ユビ押さ え・ナデ、内面ナデ。	淡茶褐色	長石・雲母 を含む	良好	
21	鉢 土師器 第 5 層	口径	17. 6	やや内湾気味に伸びる体部から口縁部は内側に屈 曲する。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部外面ヘラミガ キ、内面ナデ。	淡茶褐色	長石・雲母 を含む	良好	
22	同上	口径	20.0	体部は外反しながらほぼ直線的に伸び、端部は丸く終わる。 外面にヘラミガキを施しているとおもわれるが、 剝離が著しいため調整の詳細は不明である。内面ナデ。	褐色	精良	良好	
23	同上	口径	30.0	体部は外反しながら伸び、端部は内傾する面をも つ。 体部外面ヘラケズリ・ナデ、内面不定方向のナデ	橙褐色	長石を含む	良好	
24	甕 土師器 第 5 層	口径	11.6	張りのない体部から緩やかに屈曲して、上外方へ 伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。 口縁部内外面ともにヨコナデ。	橙褐色	精良	良好	
25	同上	口径	16.0	斜内方へほぼ直線的に伸びる体部から屈曲して、 斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部はややつまみ上 げる。 口縁部内面ハケメ、外面ヨコナデ、体部内面ヘラ ケズリ、外面ハケメ(6本)。	淡茶灰色	長石・雲母 を含む	良好	
26 九	同上	口径	24.0	張りのある体部から屈曲して外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はややつまみ上げる。 口縁部内外面ともにヨコナデ、頚部外面ユビ押さえ、内面ハケメ、体部外面ハケメ(6本)、内面へラケズリ。	淡橙褐色	精良	良好	庄内式土器
27	同上	口径	32. 4	直上気味に伸びる体部から屈曲して、斜上方へ外 反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面を もつ。	淡茶灰色	長石・石英 ・雲母を含 む	良好	
九				口縁部内外面ともにヨコナデ、体部内外面ともに ナデ。				

遺物番号 図版番号	器 種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備 考
28	竈 土師器 第 5 層	口径	36. 0	短く直上する肥厚した口縁部をもつ。体部欠損。 外面ユビナデのちハケメ、内面ナデ。	橙褐色	雲母・角閃 石を含む	軟	
29 九	ミニチュア高坏 土師器 第5層	底径	3. 6	脚部は下外方へ外反して短く開き、端部は下に面もつ。 外面へラナデ、内面ナデ。	暗黄褐色	長石・雲母 を含む	良好	
30 九	高 杯 土師器 第5層	-	_	6 角径に面取りされた脚柱部のみ遺存する。 外面へラ状工具による面取りのちナデ、内面ナデ。	橙褐色	長石・雲母 クサリ礫を 含む	良好	
31 · 九	羽 釜 土師器 第5層		22, 6 25, 2	鍔部は水平に伸び、口緑端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケメ、鍔部ヨコナデ。	茶褐色	長石を含む	良好	
32	同上	鍔径	25. 0	鍔部のみ遺存。鍔部は上外方へ伸び、端部は丸く 終わる。 内外面ともにナデ。	茶褐色	長石を含む	軟	
33	同上	鍔径	28. 2	鍔部のみ遺存。鍔部は水平に伸び、端部は肥厚し て丸く終わる。 内外面ともにナデ。	茶褐色	長石を含む	良好	

$B\boxtimes$

遺物番号 図版番号	器 種 出土地点	法量 口径 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備 考
34	壷 須恵器 SE-201	口径 16.8	外上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸 く終わる。 内外面ともにヨコナデ。	灰色	精良	良好	自然釉付着
35 九	杯身 須恵器 S E -201		「ハ」の字状の高台が付く平坦な底部から、内湾 して立ち上がる体部に至る。 内外面ともにヨコナデ。	灰色	精良	良好	底部外面に 「西」の墨 書あり
36 九	壷 須恵器 SE−201	器高 14.8 高台径 9.2	へ外反する口縁部に至る。端部は若干つまみ上げ、 外傾する面をもつ。 口縁部から肩にかけては内外面ともにヨコナデ、	灰色	精良	良好	完形
37	同上	体部最大径 19.0 高台径 8.2 高台高 0.7	形態は36と同様。(口縁部の一部欠損。) 内外面ともにナデ。	灰色	精良	良好	
38	杯 土師器 S E -201	口径 13.7	平坦とおもわれる底部から内湾して、上外方へ伸 びる口縁部に至る。 内外面ともにヨコナデ。	黄褐色	0.5mm以下 の砂粒を含 む	良好	
39	同上	口径 13.4	底部から屈曲して直上気味に伸びる口縁部にいたり、端部は丸く終わる。 内外面ともにヨコナデ。	黄褐色	0.5mm以下 の砂粒を含 む	良好	

遺物番号 図版番号	器 種 出土地点	法量 口径(cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎 土	焼成	備考
40 —O	杯 土師器 S E - 201	口径 13.6 器高 3.6	広く平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がり、 端部は丸く終わる。 口縁部内外面ともにヨコナデ、底部ナデ。	淡褐色	0.5 mm以下 の砂粒を含 む	良好	底部外面に 「+」のへ ラ記号あり
41	中 皿 土師器 S E -201	口径 18.6	底部から外反しながら立ち上がる口縁部に至る。 内面に2段の放射状暗文、外面は密なヘラミガキ	橙色	2 mm以下の 砂粒を含む	良好	
42	同上	口径 21.8	口縁部の形態は41と同様 口縁部内面から体部内面にかけて放射状のヘラミ ガキ、外面ヨコナデ。	淡褐色	0.5mm以下 の砂粒を含 む	良好	
43	鉢 土師器 S E - 201	口径 25.6	内湾して伸びる口縁部に至り、端部は丸く終わる 内面ヨコナデ・ナデ、外面ナデのちヘラケズリ。	淡褐色	2 mm以下の 砂の粒子を 含む	良好	
44	蹇 土師器 SE-201	口径 18.1	張りのない体部から屈曲して上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外傾する面をもつ。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部内面ヘラケズリ、外面ハケメ(10本)。	淡橙褐色	0.5mm以下 の砂粒を含 む	良好	
45 O	同上	_	平坦な底部から内湾して上外方へ立ち上がる体部 に至る。体部下半のみ遺存。 内外面ともにナデ。	茶褐色	精良	良好	
46	高 杯 (ミニチュ ア) 土師器 SE-201	_	接合手法を用いる。柱上部の一部のみ遺存。 体部外面は丁寧なヘラケズリ、内面ナデ、脚部は 内外面ともにナデ。	橙色	精良	良好	
47	高 杯 土師器 SE-201	底径 12.0	杯部は欠損。脚部は10角形の面取りを施した柱状部から屈曲し、外下方へ大きく開く裾部に至る。端部は外傾する面をもつ。 柱状部外面ヘラケズリ、裾部は内外面ともにユビナデ。	淡茶褐色	精良	良好	底部内面に 「高杯」の 墨書あり
48	羽 釜 土師器 SE-201	鍔径 29.6	鍔部はやや上外方へ伸びる。鍔部のみ遺存。 鍔部ヨコナデ、体部内面ハケメ(10本)、外面ユ ビ押さえ・ナデ。	茶褐色	2 mm以下の 砂の粒子を 含む	良好	
49	同上	_	鍔部先端部は欠損。 鍔部ヨコナデ、体部内面ハケメ、外面ユビ押さえ・ ナデ。	淡茶褐色	2 mm以下の 砂の粒子を 含む	良好	
50	把 手 土師器 S E -201	_	舌形を呈する。 ユビ押さえ・ナデ。	淡橙褐色	精良	良好	
54	杯 蓋 須恵器 第5層	口径 17.2 器高 2.1 つまみ径 2.9 つまみ高 0.7	凹状の天井部から外下方へ伸び、垂直に短く下る口縁部に至る。端部は尖り気味に終わる。天井部中央に低く偏平でやや窪む擬宝珠状のつまみが付く。 内外面ともに回転ナデ。	外 淡灰色 内 淡青灰 色	3 mm以下の 砂の粒子を 含む	良好	転用硯
55 —O	杯 身 須恵器 第5層	口径 19.2 器高 4.2 高台径14.2	「ハ」の字状の高台が付く平坦な底部から、やや 丸みをもって立ち上がり、上外方へ直線的に伸びる 口縁部に至る。端部は尖り気味に終わる。 内外面ともに回転ナデ。	灰色	3 mm以下の 砂の粒子を 含む	良好	

遺物番号 図版番号	器 種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備考
56	中皿 土師器 第 5 層	口径器高	11.8 2.9	平坦な底部から斜上方へ直線的に伸びる口縁部に 至る。端部は丸みをもってやや内側に巻き込む。 口縁部内面は2段の放射状のヘラミガキ、底部内 面は連結輪状のヘラミガキで他はナデ。	乳茶灰色	長石・雲母 を含む	良好	
57	杯 土師器 第5層	口径器高	13. 6 3. 8	やや丸みのある底部から上外方へ伸びる口縁部に 至る。端部は若干窪む内傾面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内面ナデ、外面ユビ ナデ・ユビ押さえ	淡茶橙色	長石・雲母 を含む	良好	ほぽ完形
58	同上	口径	16.0	丸みのある底部から、外反する口縁部に至る。端 部は丸みをもって終わる。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内面ナデ、外面指頭 圧成形後、一部ヘラナデ。	淡茶色	長石・雲母 を含む	良好	
59	小型鉢 土師器 第5層	口径器高	11.0 7.1	平坦な底部から球形の体部に至り、上外方へ短く 直線的に伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。 口縁部内外面ヨコナデ、体部から底部にかけて内 外面ユビナデ。	橙褐色	長石を含む	良好	
60	甕 土師器 第5層	口径	22. 4	比較的張りの弱い体部から屈曲して上外方へ外反 気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をも つ。 口縁部内面ヨコナデのちハケメ、外面ヨコナデ、 体部内面ヘラナデ、外面ハケメ(8本)。	外 茶褐色 内 淡橙褐 色	長石・クサリ礫を含む	不良	煤付着
61	同上	口径	25. 0	張りの弱い体部から屈曲して上外方へ伸びる口縁 部に至る。端部はつまみ上げる。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラナデ、外面 ハケメ(10本)。	淡橙褐色	長石・雲母 を多量含む	良	煤付着
62	同上	口径	31.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる 口縁部にいたる。端部は外傾する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデのちハケ メ(8本)。	淡橙褐色	精良	良好	
63	把手 土師器 第5層			舌形を呈する。 ユビ押さえのちナデ。	茶褐色	精良	良好	
64	同上		-	同上	暗橙褐色	精良	不良	

C区

遺物番号 図版番号	器 種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色	調	胎	土	焼成	備	考
65	杯蓋 須恵器 第6層	口径器高	14.0 3.0	やや凹面の天井部から、明瞭な稜をもたず屈曲し 下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する面をも つ。 天井部外面1/4 回転ヘラケズリ、その他回転ナデ	紫灰色	ı	精良		良好		
66	同上	口径器高	14. 2 4. 3	平坦な天井部から、明瞭な稜をもたず屈曲し、下 外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い面を もつ。 天井部外面1/4 回転ヘラケズリ、その他回転ナデ	灰色		精良		良好		

遺物番号 図版番号	器 種 出土地点	法量 口径 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備考
67	杯蓋 須恵器 第6層	口径 15.4 器高 3.7	66と同様。	紫灰色	精良	良好	
68 O	同上	口径 16.2 器高 4.7	形態は66と同様。 天井部外面回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。	灰白色	精良	良好	
69 —O	同上	口径 16.2 器高 5.4	やや丸みをもつ天井部から、明瞭な稜をもたず屈 曲し、下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する 浅い凹面をもつ。 天井部外面回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。	灰白色	精良	良好	
70	杯身 須恵器 第6層	口径 12.0 器高 4.2 立ち上がり 高 1.5 受部径14.0	丸みをもつとおもわれる杯底部から受部に至る。 受部は水平に伸び、端部は鋭く尖る。立ち上がりは 上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部部外面回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。	灰色	精良	良好	
71	同上	受部径15.2	平坦な杯底部から受部に至る。受部は水平に伸び 端部は鋭く尖る。口縁部欠損。 底体部外面回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。	青灰色	精良	良好	
72 —O	同上	口径 12.6 器高 4.7 立ち上がり 高 1.5 受部径14.0	やや深く丸みをもつ底体部から受部にいたる。受部は水平に伸び、端部は鋭く尖る。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。	灰色	精良	良好	
73	同上	口径 12.8 器高 3.9 立ち上がり 高 1.6 受部径15.2	平坦な杯底部から受部にいたる。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面1/3回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。	灰白色	精良	良好	
74	同上	口径 13.6 器高 4.7 立ち上がり 高 1.6 受部径15.8	丸みをもつ底体部から受部にいたる。受部は水平 に伸び、端部は鋭く尖る。立ち上がりは上内方へ外 反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。	紫灰色	精良	良好	受部の上方に重ね焼きの痕跡あり
75	同上	口径 13.6 立ち上がり 高 1.2 受部径16.5	同上(但し、底部一部欠損。)	紫灰色	精良	良好	
76	同上	口径 13.7 器高 4.9 立ち上がり 高 1.4 受部径16.2	やや丸みをもつ杯底部から受部に至る。受部は水 平に伸び、端部は鋭く尖る。立ち上がりは上内方へ 外反気味に伸び、端部は内傾する浅い凹面をもつ。 底体部外面回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。	灰白色	精良	良好	
77	同上	口径 13.7 器高 5.0 立ち上がり 高 1.2 受部径16.4	同上	灰白色	精良	良好	

遺物番号 図版番号	器 種 出土地点	法量 口径 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備考
78 ——	杯身 須恵器 第6層	口径 13.6 器高 4.4 立ち上がり 高 1.7 受部径16.2	平坦な杯底部から受部に至る。受部は水平に伸び、 端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、 端部は鈍く尖る。 底体部外面回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。	灰色	精良	良好	ほぼ完形
79 ——	杯身 須恵器 第6層	口径 13.7 器高 5.0 立ち上がり 高 1.6 受部径16.2	平坦な杯底部から受部に至る。受部は水平に伸び、 端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、 端部は内傾する浅い凹面をもつ。端部は鈍く尖る。 底体部外面回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。	青灰色	精良	良好	
80	杯身 須恵器 第6層	口径 13.8 器高 5.0 立ち上がり 高 1.8 受部径16.4	平坦な杯底部から受部に至る。受部は水平に伸び、 端部は鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ外反気味に 伸び、端部は丸い。 底体部外面回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。	灰色	精良	良好	
81		体部最大径 9.6	最大径を中位より上にもつ球形に近い体部で、口 縁部は欠損。底部は丸底。体部中位よりやや上に一 方透かしを有する。 肩部外面回転ナデ、底部外面回転へラケズリ、内 面回転ナデ。	灰色	4mm以下の 砂礫を含む	良好	
82 ——	小型壷 須恵器 第6層	体部最大径 12.6	球形の体部を呈する。口縁部欠損。 体部中央にカキメを施す。	灰色	精良	良好	
83	提瓶 須恵器 第6層	_	肩にカギ状に屈曲する耳がつく。耳の先端部は尖 る。 体部回転ナデ、カギ状把手部ナデ。				
84	横瓶 須恵器 第 6 層	口径 11.6	横形を呈するとおもわれる体部に、上外方へ伸びる口縁部がつく。端部はややつまみ上げ、外に面をもつ。 口縁部内外面ともに回転ナデ、体部外面は細かいタタキのちカキメ、内面同心円タタキ。	灰白色	礫を含む。	良好	
85 ——	甕 須恵器 第6層	口径 19.6	内上方へ湾曲する体部から屈曲して上外方へ外反する口縁部に至る。端部は外傾する浅い凹面をもつ体部中位以下欠損。 口縁部外面カキメ、内面ヨコナデ、体部外面タタキのちカキメ、内面同心円タタキ。	白灰色	精良	良好	
86	鉢 土師器 第6層	口径 11.4	丸みをもつ体部から屈曲して、斜上方へ内湾気味 に伸びる口縁部にいたる。端部は鈍く尖る。底部欠 損。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部内外面ともに ナデ。	淡橙褐色	雲母を含む	良好	布留式土器
87	甕 土師器 第6層	口径 16.0	体部から緩やかに屈曲して、上外方へ伸びる口縁 部に至る。端部はややつまみ上げ、外傾する面をも つ。 口縁部内外面ともにヨコナデ。	暗褐色	長石・雲母を含む	良好	

D区

遺物番号 図版番号	器 種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備考
88	杯蓋 須恵器 SE-201	つまみつまみ	2.8	天井部外面に偏平な擬宝珠状のつまみが付く。口 縁部欠損。 つまみ及び内面中央ナデ、その他回転ナデ。	暗灰色	精良	良好	
89	壺蓋 須恵器 SE−201	口径 器高	15. 6 3. 8	いわゆる薬壷形の蓋と考えられる。中央部に擬宝 珠つまみを付し、天井部端からほは垂直に下る口縁 部をもち、端部は内傾する。 内外面ともに回転ナデ。	灰白色	精良	良好	外面に自然 釉付着。
90	杯身 須恵器 S E - 201	底径	9.4	底部はヘラキリのち、高台を貼り付ける。 内外面ともに回転ナデ。	褐灰色	精良	良好	
91	壷 須恵器 SE-201	口径	17.8	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部は短く内 湾して外に面をもつ。 端部外面近くに 2 条の凹線を廻らせ、その下に沈 線を 1 条有する。頚部外面には14本歯の櫛状工具に よる列点文を廻らす。内面ナデ。	灰白色	精良	良好	
92 — <u>—</u>	平瓶 須恵器 SE-201	口径器高	8. 3 15. 2	全体的に丸みをもち、底部が平坦で最大径を上位 にもつ体部の片端に、上外方へやや内湾気味に伸び る口縁部が付す。端部は丸く終わる。 体部外面下半ヘラケズリ、その他回転ナデ。	灰白色	精良	良好	完形 短い方の肩 部にヘララス 工具に条の 沈線2条の 記号?あり
93	小型 甕 土師器 S E -201		11.6 11.8	球形の体部から緩やかに屈曲して上外方へ伸びる 口縁部に至る。端部は丸く終わる。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部外面ユビナデ、 内面ヘラケズリ。	淡橙褐色	長石・雲母を多量含む	良好	ほぽ完形
94	甕 土師器 SE-201		16.1	丸みをもち体部から屈曲して外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。体部中位以下欠損。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部外面ハケメ・ナデ、内面ナデ。	淡橙色	長石を含む	良好	
95	同上	口径	18.0	体部から外上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。 端部は丸く終わる。 口縁部内外面ともにヨコナデ。	淡黄褐色	精良	良好	
96	同上	口径	18, 2	体部から上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。 端部は丸く終わる。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケメ、頚部外面にハ ケメがみられる。	淡橙色	精良	良好	
97	同上	口径	21.4	体部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る 端部はやや外傾する面をもつ。 口縁部内外面ともにヨコナデ・ハケメ。	茶褐色	長石を含む	良好	
98	同上	口径	18.8	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲して外上 方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わ る。体部中位以下欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケメ、体部内外面と もにハケメ(6本)。	淡茶褐色	長石・雲母・角閃石を含む。	良好	
99	鉢 土師器 SE-201	口径	13. 6	上内方へ緩やかに内湾する体部である。端部はや や外側へつまむ。 内外面ともにナデ。	明橙茶色	長石・角閃 石を少量含 む。	良好	
100	杯 土師器 SE-201		15. 0	やや丸みをもつ体部から外反しながら立ち上がる 口縁部に至る。端部は内側に肥厚する。 口縁部外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面へラミガキ。	淡橙褐色	精良	良好	

遺物番号 図版番号	器 種 出土地点	法量 (cm)	口径器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備考
101	大皿 土師器 SE-201	口径	31.4	底部から一旦内湾して立ち上がり、外上方へ短く 伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ上げ、外に 面をもつ。 外面ナデ、内面放射状暗文を施す。	灰黄褐色	精良	良好	
105	杯蓋 須恵器 SE-202	口径器高	14. 0 4. 4	凹面をもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る 稜は形骸化して、端部は内傾する面をもつ。 天井部1/2回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	暗灰色	精良	良好	
106	同上	口径	17.0	天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は外 に面をもつ。 内外面ともにヨコナデ。	暗灰色	やや精良	良好	
107	甕 須恵器 SE-202		26. 1	丸みのある体部から屈曲して外上方へ伸びる口縁 部に至る。端部はややつまみ上げ、外傾する面をも つ。 内外面ともにナデ。	灰色	精良	良好	
108	中皿 土師器 S E -202	口径	18.8	平坦な底部から斜上方へ内湾気味に伸びる口縁部 に至る。端部は上に面をもつ。 内外面ともにナデ。	淡褐色	精良	良好	
109	同上	口径	21.4	同上(底部欠損。)	橙色	精良	良好	
110	把手 土師器 SE-202	-	_	舌形を呈する。 ユビ押さえのちナデ。	暗茶褐色	精良	良好	
111 — <u>=</u>	小型甕 土師器 SE-202		14.8 11.6	丸底の底部から内湾する体部にいたり、外上方へ 外反して伸びる口縁部に至る。端部は上に面をもつ。 口縁部内外面ともにヨコナデ、頚部内面へラケズ リ、体部内外面ともにナデ、底部外面ユビ押さえ・ ナデ。	茶褐色	精良	良好	ほぽ完形 煤付着
112	把手付甕 土師器 SE-202	器高	18. 2 14. 9	球形の体部から屈曲して斜上方へ外反する口縁部 に至る。端部は上に浅い凹面をもつ。体部の両側に 一対の舌形をした把手が付く。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部内外面ともに ナデ。	黒褐色	長石・2 mm 以下の砂粒 を含む。	良好	
113	蹇 土師器 SE-202		27.4	張りのある体部から屈曲して斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外傾する面をもつ。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部外面ハケメ。 (5~6本)、内面ヘラケズリ。	黒褐色	精良	良好	庄内式土器
117	壷 須恵器 落ち込み	口径	13. 6	斜上方へ外反して立ち上がる口縁部で、端部はや やつまみ上げる。 内外面ともにナデ。	褐灰色	精良	良好	
118	同上	口径	16. 4	体部から斜上方へ大きく外反する口縁部に至る。 端部は外傾する浅い凹面をもつ。 内外面ともにナデ。	灰白色	精良	軟	
119	杯身 須恵器 落ち込み	1	径 9.4 高 0.5	「ハ」の字状に高台が付く平坦な底部から屈曲して、上外方へ内湾気味に伸びる体部に至る。口縁部 欠損。 底部外面ヘラキリのちヘラナデ、その他回転ナデ。	灰白色	精良	良好	
120	同上	器高高台	15.8 5.6 径10.8 高 0.8	高台が付く平坦とおもわれる底部から屈曲して、 上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部はや や尖り気味に終わる。 底部外面ヘラケズリ、その他回転ナデ。	灰色	精良	良好	

遺物番号 図版番号	器 種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備考
121 一六	杯身 須恵器 落ち込み	口径器高	16. 4 4. 2	平坦な底部から斜上方へ直線的に立ち上がる口縁 部に至る。端部は丸く終わる。底部の一部欠損。 底部外面へラケズリ、その他回転ナデ。	灰白色	精良	良好	
122	同上		圣 6.3 等 0.7	平坦とおもわれる底部に断面逆三角形の「ハ」の 字状に開く高台が付く。 内外面ともにナデ。	灰色	精良	良好	底部外面に 「寿」のよ うな墨書あ り。
123	鉢 土師器 落ち込み	口径	12.6	丸みをもつ体部から緩やかに屈曲して斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部内外面ともにナデ。	灰褐色	精良	良好	布留式土器
124	同上	口径	12.6	同上	橙色	精良	良好	布留式土器
125	同上	口径	22.8	形態は同上。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部外面ハケメ、 内面ナデ。	淡黄褐色	精良	良好	布留式土器
126 一六	小皿 土師器 落ち込み	口径器高	9. 0 1. 2	やや窪んだ底部から斜上方へ内湾気味に伸びる口 縁部にいたる。端部は丸く終わる。 内外面ナデ。	淡褐色	精良	良好	
127	中皿 土師器 落ち込み	口径	19.8	平坦とおもわれる底部から上外方へ緩やかな立ち 上がる口縁部に至る。端部はやや内側に肥厚する。 口縁部内面ヨコナデのちヘラミガキ、外面ヨコナ デ、底部内外面ともにナデ。	淡褐色	精良	良好	
128	同上.	口径	18. 6	平坦とおもわれる底部から一旦立ち上がり、外上 方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸くおさめ、 内面に1条の沈線を廻らす。 口縁部内外面ともにヨコナデ、底部外面ユビ押さ え・ナデ、内面ナデ。	黄橙色	長石を含む	良好	
129	同上	口径	19.8	平坦とおもわれる底部から外上方へ伸びる口縁部 に至る。端部は上に浅い凹面を呈する。 口縁部内外面ともにヨコナデ、底部内外面ともに ナデ。	黄橙色	精良	良好	
130	大皿 土師器 落ち込み	口径	25. 2	平坦とおもわれる底部から屈曲して斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内側に肥厚する。 口縁部内外面ともにヨコナデ、底部内外面ともに ナデ。	暗橙色	精良	良好	
131	同上	口径	27. 4	形態は128と同様。 口縁部内面ヨコナデのち放射状へラミガキ、外面 ヨコナデ。	暗橙色	精良	良好	
132	杯 土師器 落ち込み		13. 0 3. 65	平坦な底部から緩やかに内湾して立ち上がる口縁 部に至る。端部は内傾する面をもつ。 口縁部内面ヨコナデのちヘラミガキ、外面ヨコナ デ、底部外面ユビ押さえ・ナデ、内面ナデ。	淡褐色	精良	良好	底部外面に 「信」の墨 書あり。
133	甕 土師器 落ち込み	口径	20.0	比較的器壁の厚い口縁部で、端部は鈍く尖る。 内外面ともにヨコナデ。	明褐色	長石・角閃 石を含む	良好	
134	同上	口径	24.6	張りのある体部から屈曲して外上方へ外反する口 縁部に至る。端部は丸く終わる。 口縁部内面ヨコナデのちハケメ (6本)、外面ヨコナデ、体部内外面ともにハケメ (6本)。	淡橙色	精良	良好	

遺物番号 図版番号	器 種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎土	焼成	備考
135	甕 土師器 落ち込み	口径	24.2	体部から「く」の字状に屈曲して外上方へ伸びる口 縁部に至る。端部は外傾する浅い凹面をもつ。 口縁部内外面ともにヨコナデ。	淡黄褐色	精良	良好	
136	把手 土師器 落ち込み	-	_	ユビ押さえのちナデ、一部ハケメ。	淡橙色	長石・雲母 ・石英を含 む	良好	
137	羽釜 土師器 落ち込み	鍔径	30.6	鍔は水平に伸び、端部は丸く終わる。鍔部のみ遺 存。 鍔部ヨコナデ、内面ナデ。	淡黄色	精良	良好	
138	同上	鍔径	37.4	同上	暗橙色	精良	良好	
139	土錘 土師器 落ち込み	長さ 最大組 孔径	7.0 圣 1.6 0.4	手づくね成形。管状形。内外面指頭圧成形後ナデ。	淡黄色	精良	良好	
140	杯蓋 須恵器 第 6 層	口径 器高	16. 2 4. 4	平坦な天井部から、明瞭な稜をもたず屈曲し、下 外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面 をもつ。 天井部外面1/2回転ヘラケズリ、内面円弧タタキ その他回転ナデ。	灰色	精良	良好	
141	同上	口径器高	15. 2 4. 3	同上	外 暗灰色 内 灰色	精良	良好	
142	同上	口径器高	15. 4 4. 6	丸みをもつ天井部から、明瞭な稜をもたず屈曲し 下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹 面をもつ。 天井部外面1/4回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	淡青灰色	精良	良好	
143	同上	口径器高	14.5 4.7	平坦な天井部から、明瞭な稜をもたず屈曲し、下 外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面 をもつ。 天井部外面1/4回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	淡青灰色	精良	良好	
144	同上	口径器高	15. 2 4. 1	同上	暗灰色	精良	良好	
145 一六	同上	口径 器高	16. 2 4. 5	形態は同上。 天井部外面2/5回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	外 灰色 内 淡青灰 色	精良	良好	完形
146 一六	同上	口径器高	14.6 4.1	やや丸みをもつ天井部から、明瞭な稜をもたず屈曲し、下外方へ下る口縁部に至る。端部は内領する浅い凹面をもつ。 天井部外面1/2回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	外 灰色 内 淡青色	3~5mmの 砂礫を少量 含む	良好	完形
147 一六	同上	口径器高	14.8 4.2	平坦な天井部から、明瞭な稜をもたず屈曲し、下 外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 天井部外面1/3回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	灰色	2 ~ 3 mmの 砂礫を少量 含む	良好	
148	同上	口径器高	15. 2 4. 1	同上	淡青灰色	1~2mmの 砂礫を少量 含む	良好	
149	同上	口径器高	13. 6 3. 9	同上.	灰黒色	1~2mmの 砂礫を含む	良好	
150	岡上	口径器高	13. 8 3. 8	やや丸みをもつ天井部から、明瞭な稜をもたず屈 曲し、下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する 浅い凹面をもつ。 天井部外面1/3回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	外 暗灰色 内 灰色	精良	良好	

遺物番号 図版番号	器 種出土地点	法量 口径 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備考
151	杯蓋 須恵器 第6層	口径 14.7 器高 4.4	平坦な天井部から稜をもたずに緩やかに屈曲し、 下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する面をも つ。	灰白色	精良	良好	
一六			天井部外面1/3回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。				
152	杯身 須恵器 第6層	口径 12.2 器高 4.9 立ち上がり 高 1.5 受部径14.0	やや浅く丸みをもつ杯底部から受部に至る。受部 は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方 へ伸び、端部は鈍く尖る。底部の一部欠損。 底体部外面1/2回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	灰色	精良	良好	
153	同上	口径 11.8 器高 4.6 立ち上がり 高 1.9 受部径14.8	やや浅く平坦な底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は内傾する浅い凹面をもつ。 底体部外面1/4回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	外 灰色内 灰白色	精良	良好	
154 一七	同上	口径 12.2 器高 5.2 立ち上がり 高 1.7 受部径14.5	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部 は外上方へ伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは直 立気味に伸び、端部は内傾する浅い凹面をもつ。 底体部外面1/2回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	淡青色	1~3mmの 砂礫を多量 含む	良好	
155 —七	同上	口径 13.5 器高 4.5 立ち上がり 高 1.8 受部径15.7	浅く平坦な底体部から受部に至る。受部は水平に 伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味 に伸び、端部は内傾する浅い凹面をもつ。 底体部外面1/5回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	灰色	2~3 mmの 砂礫を少量 含む	良好	完形
156	同上	口径 12.0 器高 4.8 立ち上がり 高 1.2 受部径15.0	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面1/4回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	青灰色	精良	良好	
157 一七	同上	口径 14.1 器高 5.4 立ち上がり 高 1.3 受部径16.7	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部 は外上方へ伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは上 内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面1/4回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	淡青灰色	精良	良好	完形
158 ー七	同上	口径 12.2 器高 4.9 立ち上がり 高 1.2 受部径15.5	同上	青灰色	1~3mmの 砂礫を多量 含む	良好	完形
159 一七	同上	口径 13.4 器高 4.6 立ち上がり 高 1.3 受部径16.0	形態は同上。 底体部外面1/2回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	灰色	精良	良好	完形

遺物番号 図版番号	器 種 出土地点	法量 口径 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備 考
160	杯身 須恵器 第6層	口径 13.5 器高 4.4 立ち上がり 高 1.4 受部径16.2	浅く偏平な底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は内傾する浅い凹面をもつ。 底体部外面1/2回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	外 灰色 内 青灰色	1~2mmの 砂礫を多量 含む	良好	
161	小型 須恵器 第 6 層	口径 7.6 器高 9.0 体部最大径 10.6		灰白色~灰色	精良	良好	ほぼ完形
162	高杯 須恵器 第6層	口径 9.8	やや平坦な杯底部から屈曲し、上外方へ伸びる口 縁部に至る。端部は尖り気味に終わる。脚部欠損。 杯部外面に凹線が1条巡る。その他内外面ともに 回転ナデ。	暗灰色	精良	良好	
163 一七	同上	口径 12.3 器高 15.0 裾径 9.5	杯部の形態は同上。脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ開く裾部に至る。 杯部外面に凹線が2条巡り、その直下に櫛書き列 点文が巡る。脚部は2段透かしの3方向で、1段目 と2段目の間に2条の凹線文が巡る。その他回転ナ デ。	灰色	精良	良好	
164	器台 須恵器 第6層	口径 34.8	上外方へ内湾して伸びたのち、短く外上方へ屈曲 する口縁部に至る。端部は尖り気味に終わる。脚部 は欠損。 口縁端部外面直下に1条、中央に1条の計2条の 凹線が巡る。その凹線の間に櫛書き波状文(11本) が巡る。下半部はカキメ・タタキを施す。	黑灰色	精良	良好	
165 ー七	壶 土師器 第6層	口径 11.5	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲して上外 方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わ る。 口縁部内外面ともにヨコナデ、頚部内面ユビ押さ え、2本の接合痕、体部内面ヘラケズリ、外面は磨 滅が著しいため調整不明。	外 炎灰茶 色 内 暗灰褐 色	長石・石英 を含む	良好	
166	蹇 土師器 第6層	口径 25.4	体部から屈曲して外上方へ外反して伸びる口縁部 に至る。端部はわずかにつまみ上げる。 口縁部内外面ともにヨコナデ、頚部内外面ともに ハケメ。	淡茶灰色	長石・雲母 ・石英を含 む	良好	
167 一七	高杯 土師器 第6層	口径 18.2	平坦な杯底部から緩やかに屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。脚部欠損。 杯部内外面ともにハケメ(内-6本、外-7本)。	橙色	長石・雲母 ・角閃石を 含む	良好	
168 ー七	同上	口径 16.8	丸みをもつ杯底部から緩やかに屈曲し、上外方へ 伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。脚部は杯 部から下外方へ下る中空の柱状部をもつが脚底部は 欠損。 杯部内面ハケメ(6本)、外面ナデ・ハケメ、柱 状部内面ヘラナデ、外面ナデ。	外 乳灰茶 色~橙 灰色 内 橙灰色	長石・雲母を含む	良好	
169	同上	底径 16.8	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる中空の柱状部から屈曲し、下外方へ開く裾部に至る。端部は丸く終わる。 柱状部内面シボリ目、裾部内面ユビナデ、外面ナデ。	明茶橙色	長石・チャートを含む	良好	

遺物番号 図版番号	器 種 出土地点	法量 口径 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎土	焼成	備考
170	骶 土師器 第6層	-	口縁部および底部は欠損。体部中位に把手がつく 把手は上方に湾曲する舌形である。 体部内面へラケズリ、一部縦方向に2箇所長さ10 ㎝前後のヘラ刻みの痕跡がみられる。外面ユビナデ ヘラナデ、把手部はユビナデを施す。	外 黄褐色 内 赤褐色	精良	良好	
171	小型杯 須恵器 第5層	口径 9.0 器高 3.2	平坦な底部から上外方へやや外反気味に伸びる口 縁部に至る。端部は鈍く尖る。 底部外面ヘラキリ・ヘラケズリのち全体を回転ナ デ。	淡灰青色	1.5 m以下 の砂粒を微 量含む	良好	
172	小型壷 須恵器 第5層	口径 7.4	中位に張りをもつ偏平な体部から屈曲し、直立気味に短く伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。 底部一部欠損。 口縁部内外面ともにヨコナデ、底体部外面1/3回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	暗灰色	精良	良好	
173	杯身 須恵器 第5層	口径 10.8 器高 3.8	丸みをもつ体部から内湾して立ち上がる口縁部に 至る。端部は丸く終わる。 杯底部外面1/2回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	外 淡茶灰 色~乳 灰色 内 赤褐色	5 mm以下の 砂礫を少量 含む	良好	
174	小型童 須恵器 第5層	口径 8.8 器高 6.0 高台径 4.9	平坦な底部から上位に張りをもつ体部に至り、屈曲して外上方へ外反しながら伸びる口縁部に至る。 端部は外傾する面をもつ。底部には「ハ」の字状の 高台がつく。 内外面ともに回転ナデ。	暗灰色	精良	良好	完形
175 一八	同上	口径 8.8 器高 6.8 高台径 4.2	形態は同上。 口縁端部外傾面に1条の凹線が巡る。その他内外 面ともに回転ナデ。	灰色	精良	良好	完形
176	同上	体部最大径 8.0 高台径 4.2	底部に「ハ」の字状の高台が付く球形の体部から 屈曲して、直立気味に伸びる口縁部に至る。口縁部 欠損。 体部外面1/2下半回転ヘラケズリ、その他回転ナ デ。	淡白灰色~ 淡青灰色	2 mm以下の 砂礫を少量 含む	良好	
177	同上	体部最大径 8.7 高台径 4.0	同上	青灰色	精良	良好	
178	杯蓋 須恵器 第5層	口径 12.6 器高 2.8 つまみ径 2.4 つまみ高 0.8	擬宝珠状のつまみが付くやや丸みのある天井部から、緩やかに下外方へ下る口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。 天井部外面回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	暗灰色	精良	良好	
179	同上	口径 16.4 器高 2.7 つまみ径 2.5 つまみ高 0.8	擬宝珠状のつまみが付く平坦な天井部から、緩やかに下外方へ下る口縁部に至る。端部は下端が短く垂直に下り、外傾する面をもつ。 天井部外面回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	暗灰色	精良	良好	
180	平瓶 須恵器 第5層	口径 9.4 器高 15.0 腹径 16.0		灰色	精良	良好	ほぼ完形
181 一八	同上	腹径 15.8	平坦な底部と体部最大径を肩にもつ器体で、器体 の上面は偏平でその一方に口縁部が付く。口縁部は 欠損。	暗灰色	1 ~ 3 mmの 砂礫を多量 含む	良好	

遺物番号 図版番号	器 種 出土地点	法量 (cm)	口径器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備考
182 一九	鉢 須恵器 第5層		17. 4 14. 7 7. 3	厚い円盤状の底部から、外上方へ外反気味に伸び る体部をもつ。口縁端部は丸く終わる。 底部外面は不調整、その他回転ナデ。	暗灰色	精良	良好	自然釉付着
183 一九	甕 須恵器 第5層	口径	17.8	体部から一旦立ち上がり、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上下に肥厚し、外に面をもつ。 口縁部内面回転ナデ、外面カキメ、体部内面同心 円タタキ、外面カキメ。	淡灰色	精良	良好	
184	同上	口径	24.6	形態は同上。 口縁部内外面ともに回転ナデ。体部内面同心円タ タキ、外面縦方向のタタキの痕跡を残す。	灰色	精良	良好	
185 一九	同上		21.0 最大径 30.6	1	灰色	精良	良好	
186 一九	ミニチュア 土器 土師器 第5層	口径器高	7. 2 3. 9	尖り底の底部から外上方へ直線的に伸びる口縁部 に至る。端部は丸く終わる。 全体が手づくねによる成形で、内外面ともにユビ ナデ調整を施す。	灰白色	精良	良好	完形 祭祀用土器 ?
187 一九	小型坏 土師器 第5層	口径器高	7. 2 4. 5	深い半球形を呈し、垂直に伸びる口縁部をもつ。 端部は丸く終わる。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部内面ヘラナデ 接合痕、外面ユビ押さえ。	外 乳灰褐 色 内 橙色	長石を含む	良好	完形
188	壷 土師器 第5層	体部員	最大径 8.0	器壁の厚い平坦な底部から、肩の張る体部に至る 口縁部は欠損。 全体的に手づくね成形、内面に接合痕。	灰茶色	長石・石英・雲母を含む	良好	黒斑有り
189	同上	体部員	是大径 8.4	器壁の厚いやや丸みのある底部から、球形の体部 に至る。口縁部は欠損。 全体的に手づくね成形、肩部外面にハケメ(5本)、 外面中位に接合痕。	灰茶色	長石・石英 ・雲母を含 む	良好	黒斑有り
190 一九	同上	体部量	5 大径 8.9	器壁の厚いほぼ球形を呈する体部から、直立気味 に立ち上がる口縁部に至る。口縁部は欠損。 全体的に手づくね成形、肩部外面にハケメ(5本 外面中位に接合痕。	灰茶色	長石・石英 ・雲母を含 む	良好	黒斑有り
191 一九	杯 土師器 第 5 層	口径器高	10. 9 2. 85	平坦な底部から内湾して直立気味に立ち上がる口 縁部に至る。端部は丸く終わる。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部内面放射状へ ラミガキ、底部内面連結輪状暗文、外面ナデ・ユビ 押さえ。	外 褐灰色 内 灰褐色	長石・雲母 を含む	良好	黒斑有り
192	中皿 土師器 第 5 層	口径器高	13. 4 2. 3	平坦な底部から内湾して斜上方へ伸びる口縁部に 至る。端部は丸く終わる。 口縁部内外面ともにヨコナデ、底部内面放射状へ ラミガキ、その他ナデ。	乳褐色	精良	良好	
193	同上	口径 器高	17. 0 2. 0	平坦な底部から緩やかに内湾して斜上方へ伸びる 口縁部に至る。端部は丸く終わる。 口縁部内外面ともにヨコナデ、底部外面ユビ押さ え、その他ナデ。	淡茶褐色	精良	良好	底部外面に ヘラ記号有 り
194	盤 . 土師器 第5層	口径 器高 高台径	3. 6	広く平坦な底部から緩やかに屈曲して外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ上げ、やや肥厚する。底部外面には低く高台が付く。 口縁部内面に2段の放射状へラミガキ、外面ヨコナデ、底部内外面ともにナデ。	赤褐色	精良	良好	

遺物番号 図版番号	器 種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備 考
195	杯 土師器 第 5 層	口径 器高	14. 2 3. 6	やや窪み底をした底部から内湾して上外方へ伸びる口縁部にいたる。端部は内傾する浅い凹面をもつ。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部内外面ともにナデ、底部内外面ともにユビ押さえ。	乳褐色	粗	不良	完形 煤付着
196	同上	口径	16. 0	底部は欠損。内湾して立ち上がる口縁部に至る。 端部はやや肥厚する。 口縁部内外面ともにヨコナデ、口縁部外面に接合 痕、体部外面ナデ・ユビ押さえ、内面ナデ。	淡灰茶色	粗 長石・雲母 を含む	不良	
197 一九	同上	口径器高	13.8 5.8	平坦な底部から内湾して立ち上がる体部から口縁 部に至る。端部は鈍く尖り、内傾する面をもつ。 口縁部内面ハケメ (5本)、外面ヨコナデ、体部 内面ヘラナデ・ナデ、外面ユビ押さえ・ナデ。	外 炎茶灰 色 内 乳茶灰 色	長石・雲母角閃石を含む	良好	
198	小型甕 土師器 第5層	器高	10.8 11.0 圣12.2	球形に近い体部から屈曲して斜上方へ直線的に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部外面上半ナデ 下半ヘラケズリ、内面ヘラナデ。	乳茶灰色	長石を含む	良好	
199	甕 土師器 第5層	器高	15. 2 12. 4 圣17. 0	球形の体部から屈曲し、外上方へ外反する口縁部 に至る。端部は丸く終わる。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部外面ハケメ (8本)、内面ヘラナデ。	明茶褐色	精良	良好	ほぽ完形
200	同上	口径	23.0	張りのない体部から屈曲し、外上方へ外反する口 縁部に至る。端部は外傾する浅い凹面をもつ。 口縁部内面ハケメ(6~8本)、外面ヨコナデ、 体部内外面ともにハケメ(6~8本)。	明褐色	精良	良好	
201	壶 土師器 第 5 層	口径	23.6	体部から上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る 端部は丸く終わる。 口縁部内面ハケメ、外面ユビ押さえのちハケメ、 体部内外面ともにハケメ(内-8本、外-12本)。	乳褐色	精良	良好	庄内式土器
202	羽釜 土師器 第5層	1	25. 4 28. 2	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部はやや内 傾する面をもつ。鍔は水平に伸び、端部は丸く終わ る。 口縁部内外面ともにヨコナデ、鍔部ヨコナデ、体 部内面ナデ・ユビ押さえ、外面ハケメ。	暗茶褐色	長石・石英 ・雲母・角 閃石等を含 む	良好	
203	把手付鍋 土師器 第5層	口径	27. 2	丸みをもつ体部から屈曲して斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上に浅い凹面をもつ。体部中位に左右一対の舌形の把手が付く。底部は欠損。 □縁部内外面ともにヨコナデ、体部外面ハケメ(8~10本)、内面上半粗いハケメ、下半ヘラケズリ把手部分はユビナデを施す。	褐灰色	長石・石英 を含む	良好	
204 二〇	土錘 土師器 第5層	長さ 孔径	8. 0 1. 0	手づくね成形、管状形。	赤褐色	長石・石英 を含む	良好	完形 黒斑を有す
205	土馬 土師器 第5層		or the same	頭部から首の部分にかけてのみ遺存。目・鼻・口・たてがみが明瞭に表わされており、手綱の痕跡も 認められる。 手づくね成形。	赤褐色	精良	良好	
206 二—	同上		_	首から同部および前脚部分の片方とみられる部分 のみ遺存。 手づくね成形。	赤褐色	精良	良好	

E区

遺物番号 図版番号	器 種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色	調	胎	土	焼成	備	考
207 二〇	小型丸底壷 土師器 第5層	器高	7.8 9.0 逢10.2	球形に近い体部から屈曲して上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。 口縁部内面ハケメ (8本)、外面ヨコナデ、体部 内面ヘラケズリ、外面ハケメ (8本)。	外内	暗茶灰 色 淡乳灰 色	長石・石英 ・角閃石を 含む		良好	ほぽ完 黒斑有 布留式	す。
208	甕 土師器 第5層	口径	27. 0	体部から「く」の字状に屈曲し、外上方へ外反気 味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外に 面をもつ。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部内面へラケズ リ、外面タタキ(5本)のちハケメ。	茶褐色		長・雲一合	石・ チャ	良好	庄内式	土器
209 二〇	杯 土師器 第5層	口径	14.6	平坦とおもわれる底部から内湾して上外方へ伸び る口縁部に至る。端部は丸く終わる。底部一部欠損。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部内面ナデ、外 面ユビ押さえ・ナデ。	明茶褐色		長石を	含む	良好		
210 二O	斃 土師器 第5層	口径 器高 最大行	13. 2 11. 1 圣14. 2	口縁部に至る。端部は器肉を減じ、丸くおさめる。	乳茶褐色		精』	Ę	良好	ほぼう	完形

第3章 ま と め

今回の発掘調査では、古墳時代中期から後期にかけての遺物包含層、奈良時代の集落に伴うと考えられる柱穴跡・小穴・井戸・土坑・落ち込み、鎌倉時代中期~末期にかけての農耕作に伴う幾条もの鋤溝跡を検出した。ここでは全調査区の遺構・遺物を踏まえて各時期ごとに概説していきたい。

I. 古墳時代中期~後期

この時期においては、包含層を確認し遺物を検出したに過ぎず、下層確認による断面観察を実施したにもかかわらず遺構検出にまで至らなかった。遺物だけみると圧倒的に須恵器の占める割合が高く、土師器は全体の2~3割程度である。また、須恵器のなかでも器種別にみると蓋杯の占める割合が高く、C区・D区に多くみられる。この両地区の遺物出土状況及びそれらの遺物を含む堆積層から考えて、当調査地では東側部分において5~6世紀代にかけての集落の存在が考えられる。

Ⅱ. 奈良時代

この時期の遺構は中世以降の開墾等によってほとんど削平されてはいるが、井戸3基の遺存状況は比較的良好であった。井戸3基のうちB区のSE-201、D区のSE-202の2基については、船としての機能を果たせなくなった船材の一部を井戸枠に転用したと考えられるものである。八尾市内においてこれと同形態のものは、昭和57年に当調査研究会によって実施した「小阪合遺跡第1次調査(KS-82-1)」、昭和59年に大阪府教育委員会によって実施された「萱振遺跡」がある。また、時期は異なるが同一形態の井戸として、寝屋川市で昭和63年から平成元年にかけて同教育委員会によって実施された「讃良郡条里遺跡」でも古墳時代後期の井戸として検出されている。

柱穴についてはB区、D区で双方とも柱根を伴って検出されたが、残念ながら付近には建物 跡を復原できる柱穴跡は認められなかった。しかしこれらの柱穴は明らかに建造物を示唆する ものであり、見方によれば同時期頃、当地の周辺には大聖勝軍寺や古代寺院の龍華寺跡・宝積 寺跡が所在していることから、当地に寺院が存在していた可能性もありうる。 C区で検出した土器棺(羽釜)、動物遺体(馬骨)、D区で検出した「土馬」についてはすべて明瞭な遺構に伴うものではないので、ここでは本文において他の遺跡や文献資料を参考に簡単に触れた。そのなかでも馬の遺体については、「八尾市 城山遺跡」や「平城京右京八条一坊十一坪」の出土例を揚げたが、今回の出土状況からは祭祀的・儀礼的な見解を示すような痕跡はみられなかった。今回の馬骨の散乱状況や土器片と混在していることなどからみて、当時の人々が食料として扱った後に廃棄したものとして解釈した方が良いであろう。

Ⅲ,中世(鎌倉時代)

全調査区においていわゆる農耕作に伴うとみられる鋤溝を検出した。これらの鋤溝は層位的には奈良時代の整地層を切り込むもので、平面的にみるとほとんど言っていいほど溝の方向が東一西・南一北と格子状に交差している。鋤溝以外の遺構としては小穴・土坑が数箇所みられたが、井戸等はみられなかった。時期的には、溝埋土内の遺物片から鎌倉時代中期から末期頃に比定される。

今回検出した遺構・遺物のなかで、ある程度当遺跡の性格を位置付けられるものは奈良時代においてであり、井戸内から出土した墨書入りの土器、包含層でみつかった土馬については何らかの祭祀を示唆するものである。柱根を伴う柱穴に関しては先述したように「大聖勝軍寺」をはじめとする当時の周辺における古代寺院との有機的な関係が推定できる。さらに今回とらえることのできなかった当遺跡内における古墳時代以前の様相については、今後の調査に期待したい。

註記

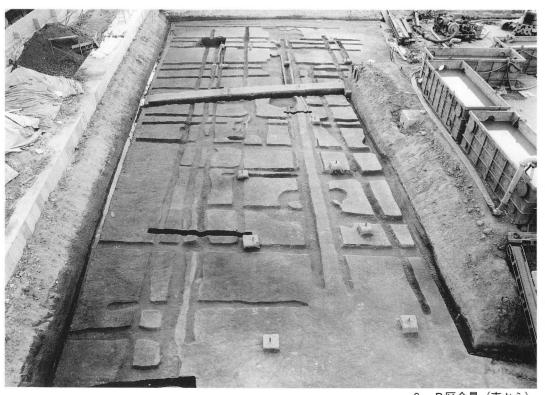
- 註 1 (財)八尾市文化財調査研究会『平成 2 年度 (財)八尾市文化財調査研究会事業報告』1990
- 註 2 (財)八尾市文化財調査研究会『平成3年度 (財)八尾市文化財調査研究会事業報告』1991
- 註 3 八尾市教育委員会『八尾市内遺跡平成 3 年度発掘調査報告書Ⅱ』1992.3
- 註 4 (財)八尾市文化財調査研究会『跡部遺跡発掘調査報告書 一大阪府八尾市春日町1丁目出土銅鐸一』1991
- 註 5 (財)八尾市文化財調査研究会『木の本遺跡 -八尾空港整備事業に伴う発掘調査-』1984
- 註 6 菅原正明「畿内における土釜製作と流通」『文化財論』奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集 1987
- 註7 松井章『古代日本の皮革製作技術』民博通信第35号国立民族学博物館 1987
- 註8 大場磐雄「上代馬形遺物に就いて」『考古学雑誌』第27巻4号 1937および「上代馬形遺物再考」『祭祀遺跡』 1970年所収
- 註 9 小笠原好彦「土馬考」物質文化研究会『物質文化考古学民族研究25』1975.7
- 註10 (財)八尾市文化財調査研究会『成法寺遺跡 〈第1次調査~第4次調査・第6次調査報告書〉』1991
- 註11 (財)八尾市文化財調査研究会『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要 平成元年度 Ⅱ矢作遺跡(第2次調査)』1989
- 註12 (財)八尾市文化財調査研究会『萱振遺跡 平成3年度第12次調査 (仮称)八尾市立生涯学習センターに伴う発 掘調査 現地説明会資料 1992』より *現在整理中
- 註13 同上『小阪合遺跡 -八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書- 〈第1次調査〉』 1985
- 註14 大阪府教育委員会『萱振遺跡 大阪府立八尾北高校建設に伴う発掘調査 現地説明会資料 1984』より *現在 整理中
- 註15 大阪府教育委員会『都市計画道路国守・黒原線建設工事に伴う 讃良郡条里遺跡発掘調査概要・Ⅱ 一寝屋川市 出雲町所在ー』1991.3
- 註16 註10に同じ
- 註17 (財)八尾市文化財調査研究会『昭和59年度事業報告』1985

- 64 -

図 版



1. A区全景(北から)



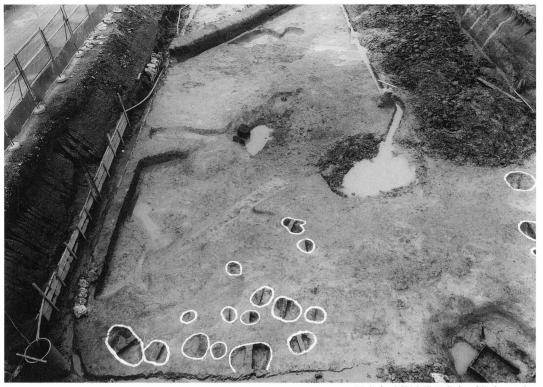
2. B区全景 (東から)



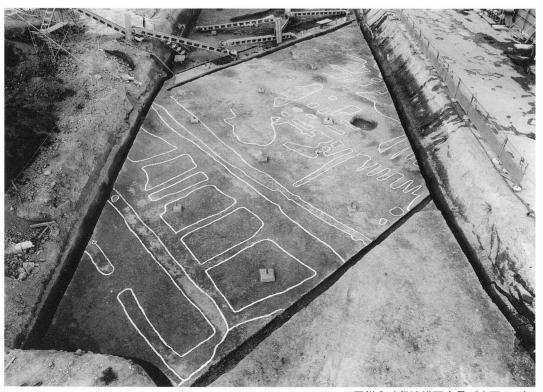
1. C区全景(東から)



2. D区奈良時代遺構面全景(南西から)



1. D区奈良時代遺構面北部(北東から)



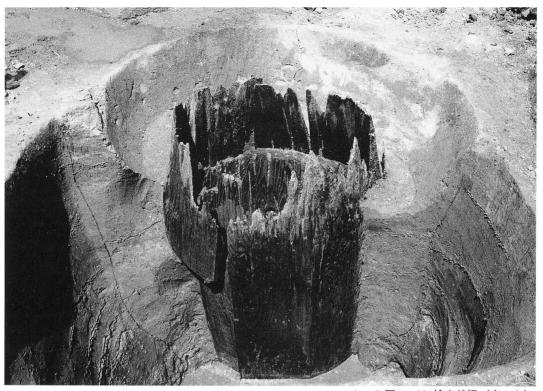
2. D区鎌倉時代遺構面全景(南西から)



1. E区全景(北から)



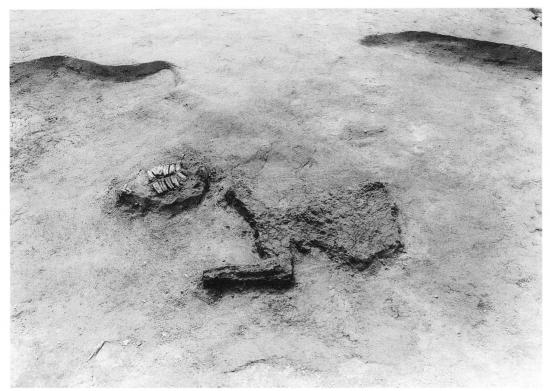
2. F区南部(北から)



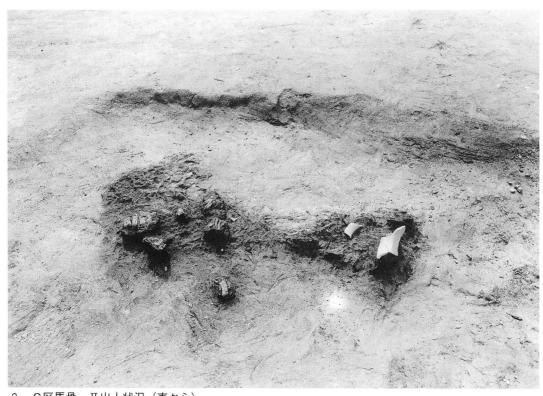
1. B区SE-201検出状況(東から)



2. B区SE-201遺物出土状況(東から)



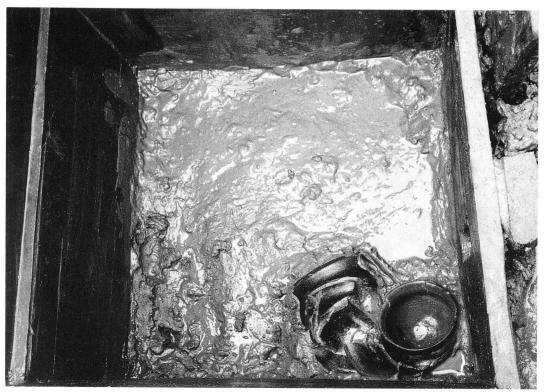
1. C区馬骨一 I 出土状況(東から)



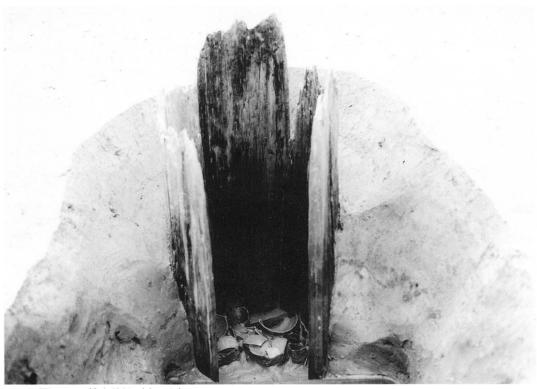
2. C区馬骨一Ⅱ出土状況(東から)



1. D区SE-201検出状況(南から)



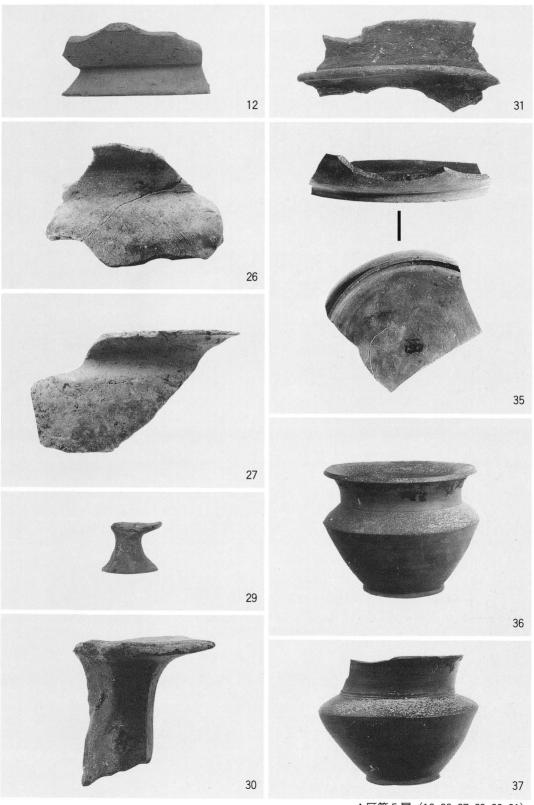
2. D区SE-201遺物出土状況(西から)



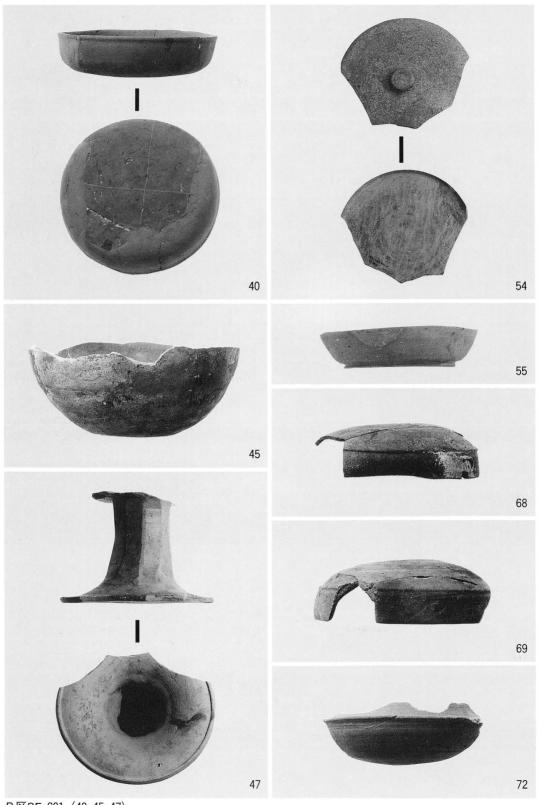
1. D区SE-202検出状況(東から)



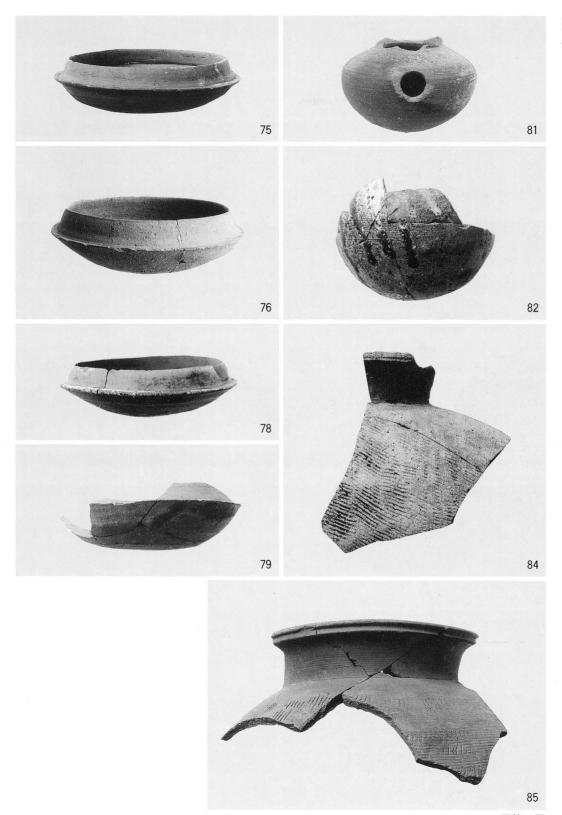
2. D区SE-202遺物出土状況(西から)



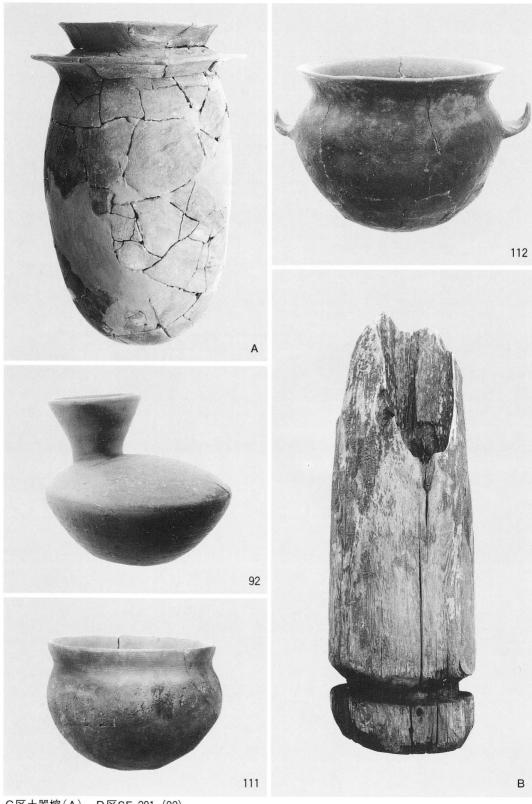
A区第5層 (12·26·27·29·30·31) B区SE-201 (35~37)



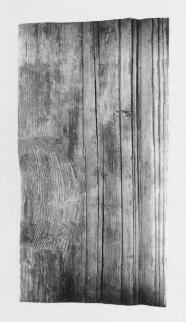
B区SE-201 (40·45·47) B区第5層 (54·55) C区第6層 (68·69·72)

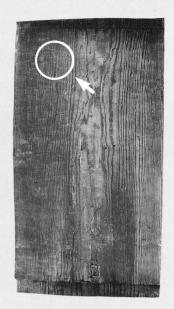


C区第6層

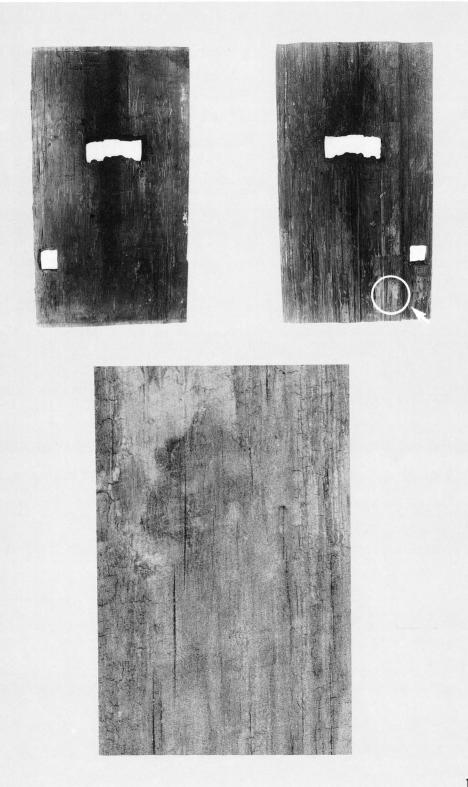


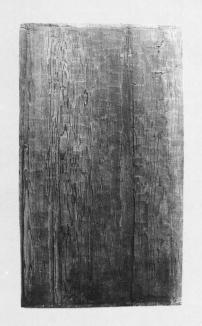
C区土器棺(A)、D区SE-201 (92) D区SE-202 (111・112) D区SE-201柱根(B)

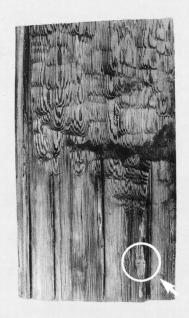






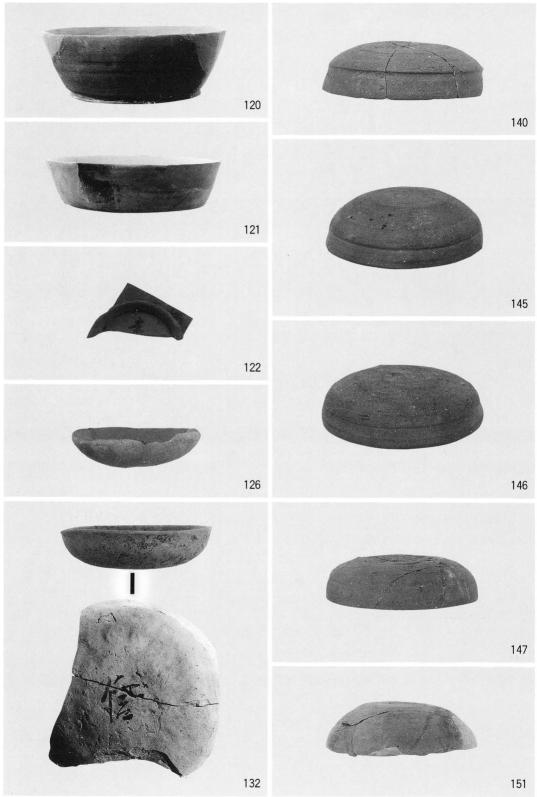




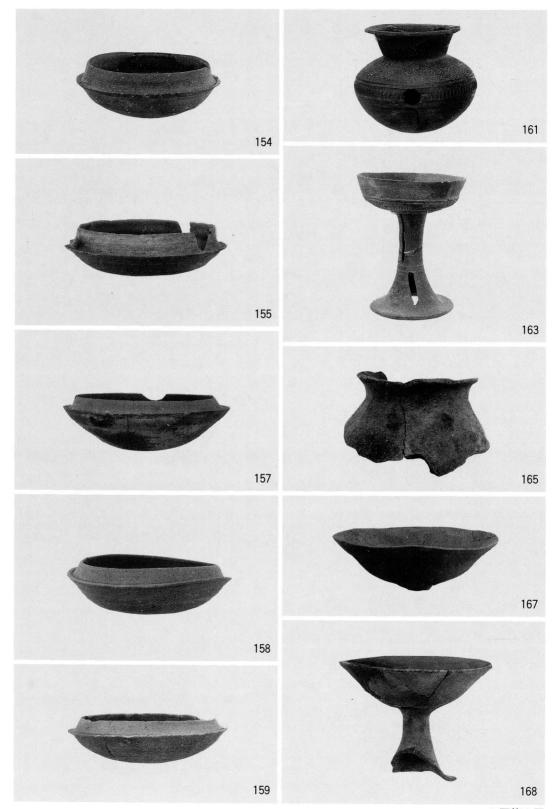




104



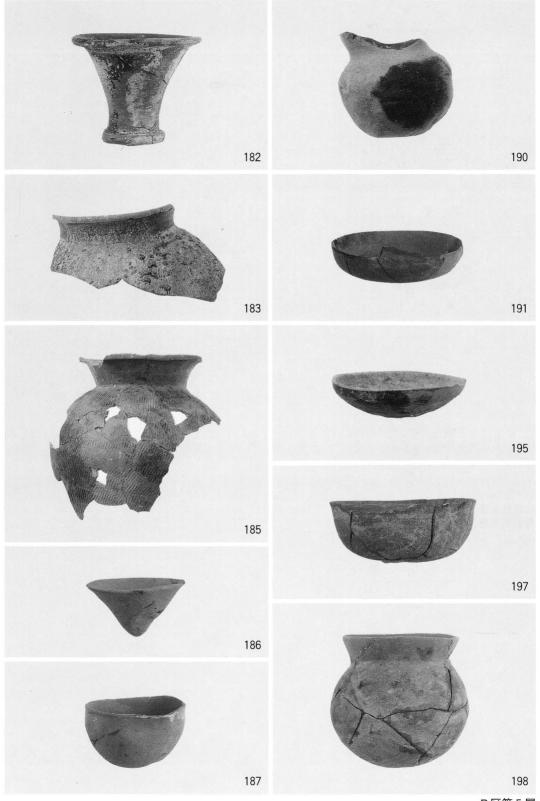
D区落ち込み(SO-201) (120・121・122・126・132) D区第6層(140・145・146・147・151)



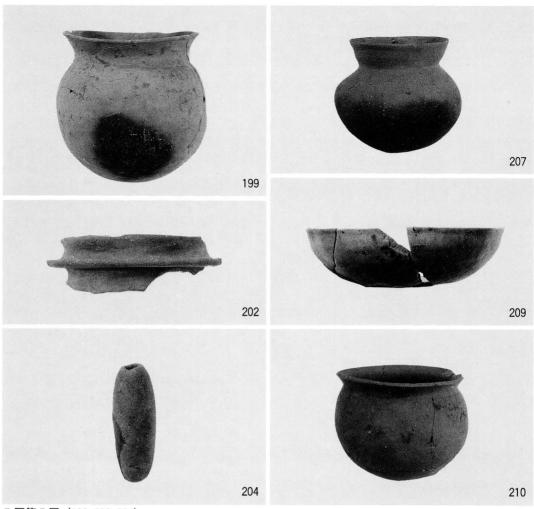
D区第6層



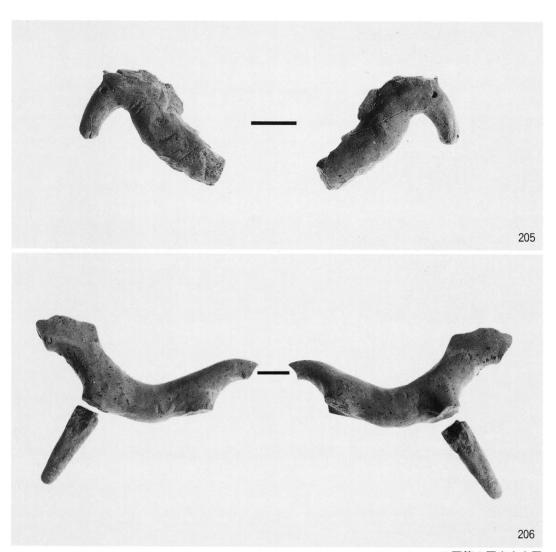
D区第6層 (169·170) D区第5層 (171·172·174·175·176·180·181)



D区第5層



D区第5層 (199·202·204) E区第5層 (207·209·210)



D区第5層出土土馬

Ⅱ 第2次調査(TS90-2)発掘調査概要報告

例 言

- 1. 本書は、八尾市太子堂2・3丁目地内で行った公共下水道工事に伴う発掘調査の報告書である。
- 1. 本調査は、財団法人八尾市文化財調査研究会が、八尾市の委託をうけて実施したものである。
- 1. 本調査は、当調査研究会が太子堂遺跡内で実施した第2次調査である。
- 1. 本調査は、当調査研究会 坪田真一を担当者として、平成2年11月27日に着手し、平成3年2月15日に終了した。調査面積は110㎡である。
- 1. 現地調査には、岡田聖一・坂下 学・濱田千年・松下哲也・森本浩一・若竹慶弘の参加を得た。
- 1. 内業整理には上記の他、岩本順子・小山正子・田島和惠・都築聡子・宮崎寛子・山内千惠子の参加を得た。
- 1. 本書の執筆・遺物写真撮影及び編集は坪田が行い、遺物観察表を田島・山内が作成した。

本文目次

第	1章	譋	『査に至る経過	65
第	2章	調]查概要	65
	第1節	ĵ	調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	65
	第2節	j	基本層序	67
	第3質	j	検出遺構と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	67
第	3 章	ま	: とめ	83
第	4章	遺	動観察表	88

挿 図 目 次

第1図	調査区設定図(S=1/600) ·····65
第2図	基本層序(S=1/40)
第3図	2 区 S D 201遺物出土状況図 (S = 1 / 40) ······68
第4図	2 区 S D 201上層出土遺物①(S = 1 / 4) ······69
第5図	2 区 S D 201上層出土遺物②(S = 1 / 4)
第6図	2 区 S D 201上層出土遺物③(S = 1 / 4)71
第7図	2 区 S D 201上層出土遺物④(S = 1 / 4)
第8図	2 区 S D 201上層出土遺物⑤(S = 1 / 4)
第9図	2 区 S D 201上層出土遺物⑥(S = 1 / 4) ··································
第10図	2 区 S D 201上層出土遺物⑦(S = 1 / 4)
第11図	2 区 S D 201上層出土遺物⑧(S = 1 / 4) ··································
第12図	2 区 S D 201上層出土遺物⑨(S = 1 / 4) ··················77
第13図	2 区 S D 201下層出土遺物①(S = 1 / 4)
第14図	2 区 S D 201下層出土遺物②(S = 1 / 4)79
第15図	2 区 S D 201下層出土遺物③(S = 1 / 4) ······80
第16図	3 区遺構平面図(S=1/60)
第17図	3 区 S E 301平・断面図 (S = 1 ∕20) ······82
第18図	3 区 S E 301出土遺物 (S = 1 / 4) ······83
第19図	3 区 S X 301出土遺物①(S = 1 / 4) ······84
第20図	3 区 S X 301出土遺物②(S = 1 / 4) ······85
第21図	3 区 S X 301出土遺物③(S = 1 / 4) ······86
第22図	2 区 S D 201出土遺物 (S = 1 / 3) ······86
第23図	2 区 S D 201 上層出十遺物⑩(S = 1 / 6)

図版目次

- 図版 1 2 区 S D 201遺物出土状況 (南西から) 2 区 S D 201北壁遺物出土状況 (南から) 図版 2 区 S D 201東部遺物出土状況 (北から)
- 図版 2 2 区 S D 201東部遺物出土状況(北から) 2 区 S D 201中央遺物出土状況(北から)
- 図版3 3区全景(北から) 3区SE301(西から)
- 図版4 出土遺物(2区SD201上層)
- 図版 5 出土遺物(2区SD201上層)
- 図版 6 出土遺物(2区SD201上層)
- 図版7 出土遺物(2区SD201上層・下層)
- 図版 8 出土遺物 (2 区 S D 201下層、3 区 S E 301・S X 301)
- 図版 9 出土遺物 (3 区 S X 301、 2 区 S D 201 上層)

第1章 調査に至る経過

太子堂遺跡は八尾市の西端に位置し、現在の行政区画では、太子堂3~5丁目・東太子2丁目・南太子堂1~6丁目がその範囲となっている。当遺跡は昭和58年3月、八尾市教育委員会が東太子2丁目で実施した試掘調査において、古墳時代~奈良時代の遺物包含層が確認されたことにより認識された遺跡である。そして同年6~10月に同地点で当調査研究会による第1次調査が行われ、古墳時代~中世の遺構・遺物が検出されている。

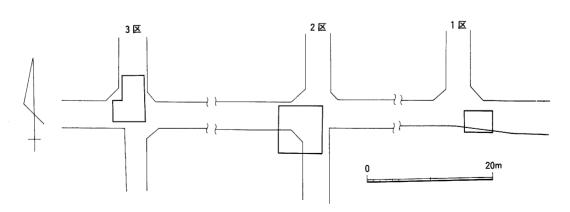
その後発掘調査は行われていなかったが、平成2年、八尾市下水道部から当遺跡内での下水 道工事計画の通知が八尾市教育委員会文化財室に提出された。これを受けた市教委では、当該 地が周知の遺跡範囲内にあることから、発掘調査が必要であると判断した。こうして同文化財 室・下水道部・当調査研究会の三者間協議により、当調査研究会が主体となって発掘調査を実 施することとなった。

第2章 調査概要

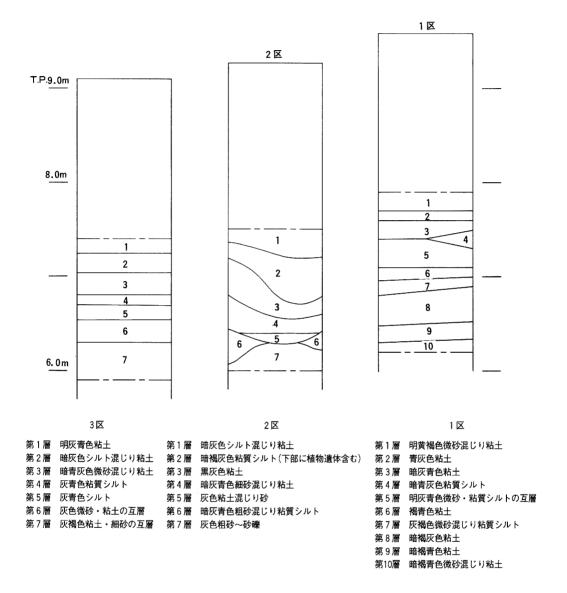
第1節 調査方法

今回の調査は公共下水道工事の立坑部分の調査である。調査区は3か所で東西方向に並んでおり、東から1区~3区とした。各調査区の面積は1区 $-18m^2$ ・2区 $-59m^2$ ・3区 $-33m^2$ であり、各調査区間の距離は1~2区間約160m、2~3区間約120mである。

調査は工事工程に合わせて 2 区→ 1 区→ 3 区の順で行った。掘削は地表下約1.7mまでを機械掘削とし、以下を人力掘削により調査を実施した。



第1図 調査区設定図(S=1/600)



第2図 基本層序(S=1/40)

第2節 基本層序

· 1 🗵

全体に安定した水平堆積を呈している。 1 区は前述の第 1 次調査の北西部に接しており、その関連をみると、第 1 層上面 (標高7.9 m) が中世、第 $4 \cdot 5$ 層上面 (標高7.4 m ~ 7.5 m) が奈良時代の遺構面にあたるものと考えられる。

· 2 🗵

第1層・第2層は全く遺物を含んでいない。第3層・第5層は古墳時代前期の遺物を多量に 含んでおり、間層の第4層にはあまり遺物は含まれていない。第6層以下は流水堆積と考えられ、遺物は出土していない。

· 3 🗵

全体に安定した水平堆積を呈している。第1層~第3層は古墳時代前期の包含層で、土器を 少量含んでいる。また南部の第2層・第3層中には土器の集積が見られた。第4層上面が遺構 面で、標高約6.8mを測り、南西部がやや高くなっている。第4層以下からは遺物は出土して おらず、第6層以下は粘土・微砂・細砂の瓦層になっている。

第3節 検出遺構と出土遺物

· 1区

層理に従って掘削・精査を行ったが、遺構は全く検出されなかった。遺物は第3層から古墳 時代前期初頭に比定される甕の体部片が1点出土したのみである。

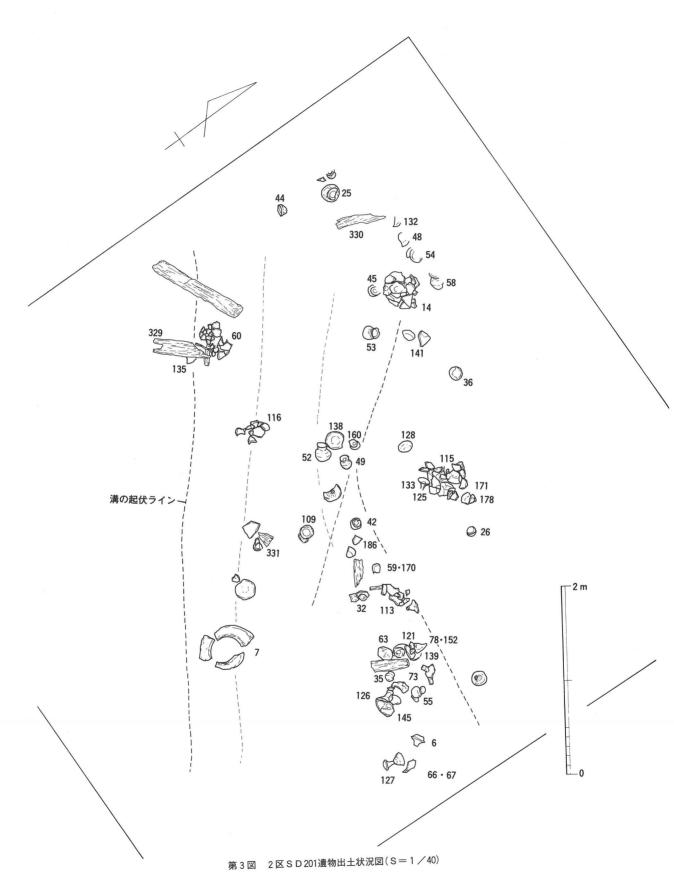
· 2 🗵

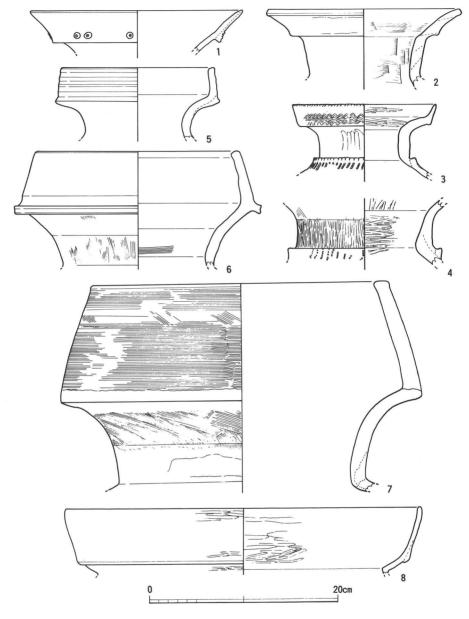
土層の堆積状況から、調査区全体が河川あるいは大規模な溝に含まれるものと考えられ、一応溝(SD201)とした。調査区内では明確な肩は検出できなかったが、遺物の出土状況等から 北西-南東の流路方向が推定される。埋土は基本層序における第1層~第5層にあたり、暗灰 色系の粘土~粘質シルトである。底部の標高は北西部で約6.2m、南東部で約6.0mを測る。

出土遺物には土器・木製品の他流木・種等の植物遺体がある。土器には完形品も多く含まれている。遺物の出土状況は、平面的には幅約3mの北西-南東方向の帯状を呈しており、出土範囲は標高約6.3m~7.0mにおよび、北西部がやや高くなっている。

遺物は第3層・第5層に多量に含まれており、上層・下層遺物として捉えることができる。 ただ当調査区は湧水が著しく、調査面が常にヘドロ状を呈しているという非常に困難な状況で の調査であり、遺物の取り上げに際して明確に上層・下層を分けれたとは言い難い。

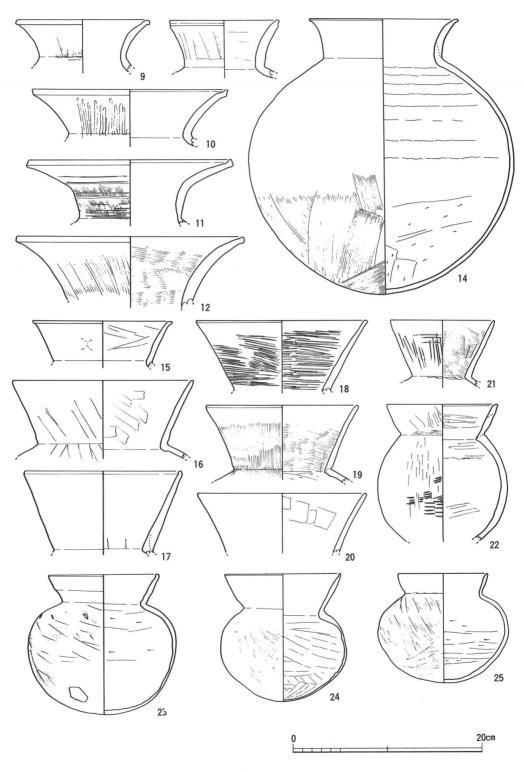
出土土器の器種は多岐にわたっており、また上層・下層の土器は器種構成等に若干の差異が 認められる。



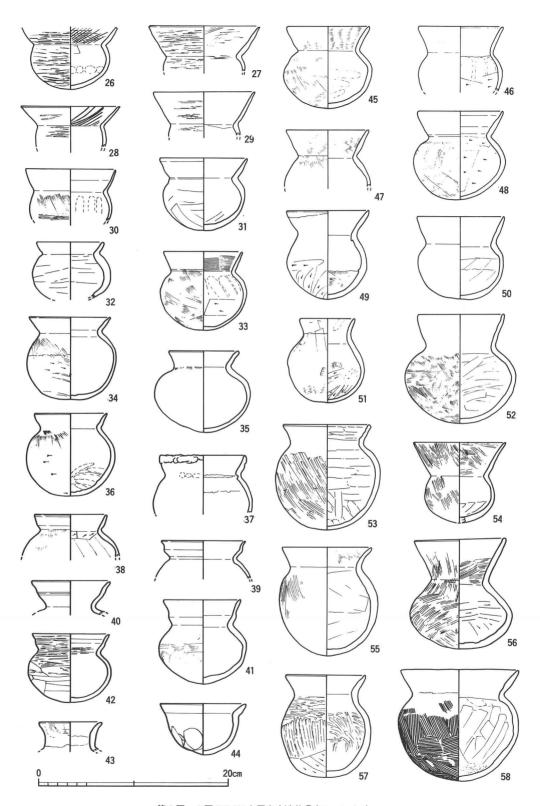


第4図 2区SD201上層出土遺物①(S=1/4)

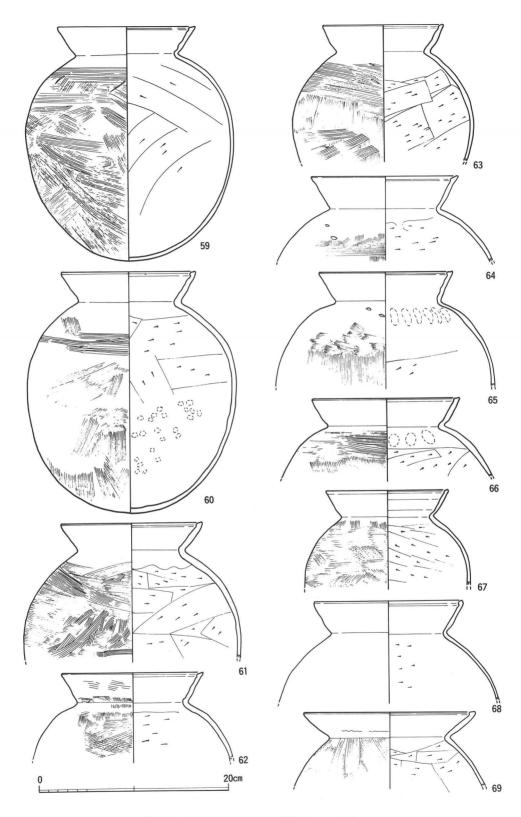
複合口縁壺(6・7・200)は西部瀬戸内系とされる形態を呈し、畿内を中心に分布するものである。このうち(6・7)は口頸部内面に漆が塗られていると考えられ、黒く光沢を持つ。周辺の遺跡では八尾南遺跡にこのような類例が認められる。小型丸底壺は上層では外面ハケ調整の粗製品の占める割合が高く、口縁部が長く発達したものがみられる。



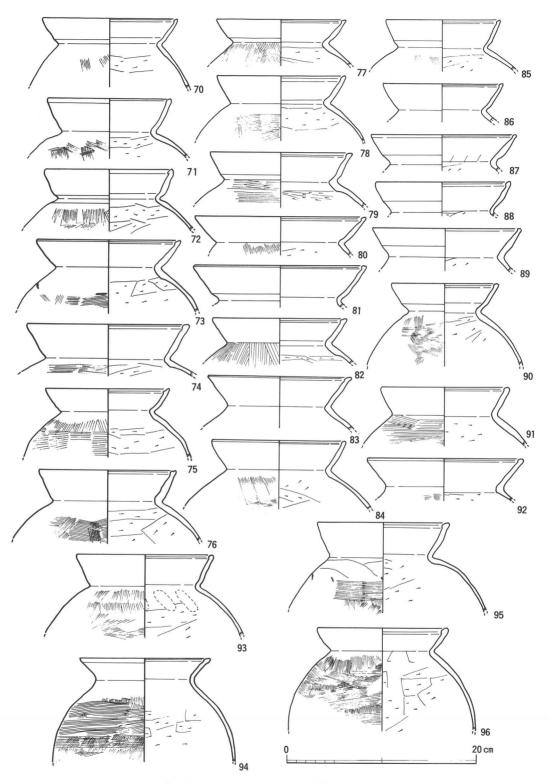
第5図 2区SD201上層出土遺物②(S=1/4)



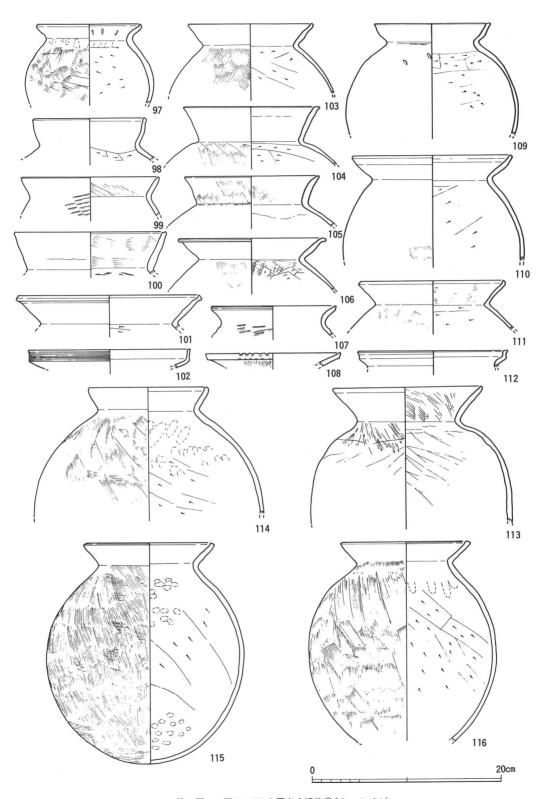
第6図 2区SD201上層出土遺物③(S=1/4)



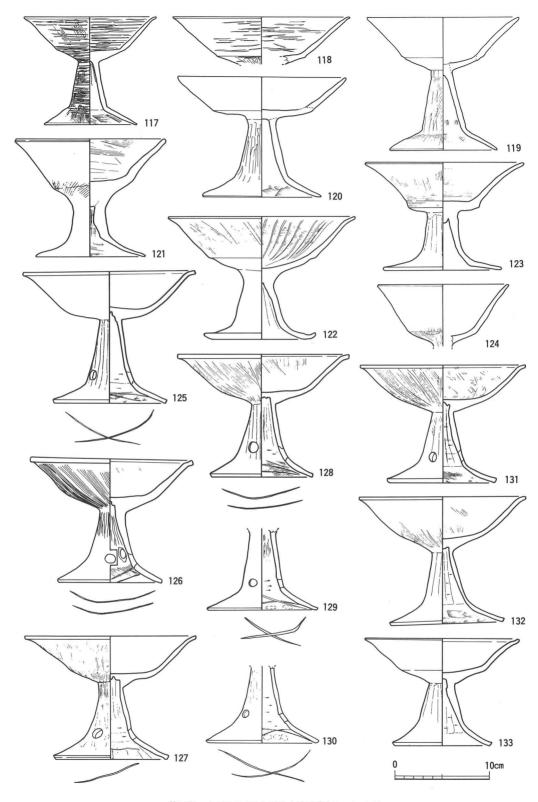
第7図 2区SD201上層出土遺物④(S=1/4)



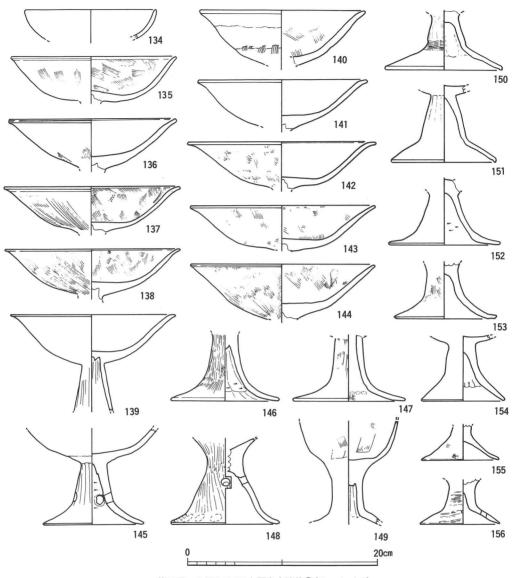
第8図 2区SD201上層出土遺物⑤(S=1/4)



第9図 2区SD201上層出土遺物⑥(S=1/4)

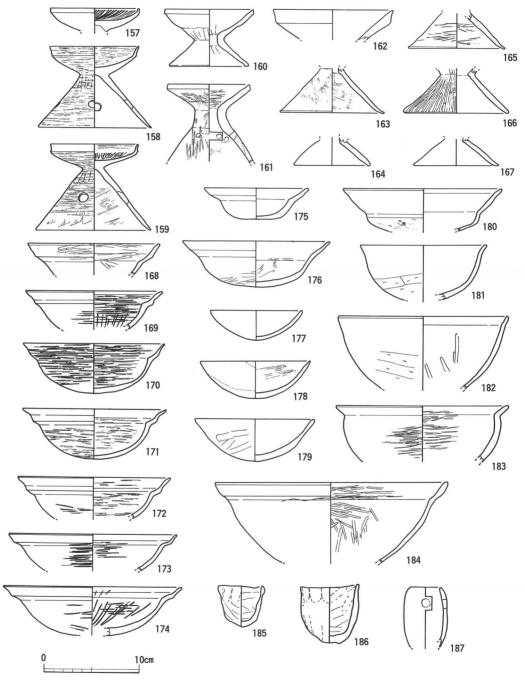


第10図 2区SD201上層出土遺物⑦(S=1/4)

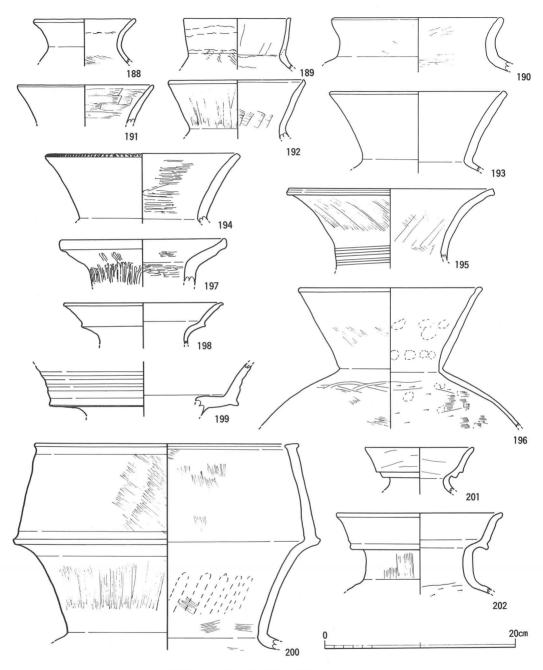


第11図 2区SD201上層出土遺物®(S=1/4)

甕では上層のものに肩部に刺突文を施したものが認められる (59・63~65・95・109)。また同様の施文は壺 (23) にもみられる。甕のうち形態的に搬入品と考えられるものには吉備系 (上層 -102、下層 -231 ~ 233)、東部瀬戸内系 (上層 -114 ~ 116 、下層 -203)、東海系 (上層 -112、下層 -229 ~ 230) がある。このうち (115・116) は、胎土分析によると流紋岩質岩起源と推定される砂礫からなり、 (115) には他形の角閃石が含まれる。産地としては山陰・北陸地方に分布する砂礫に類似し、加賀南部地方の可能性が高い。 また下層には V 様式系のもの (205) がみられる。



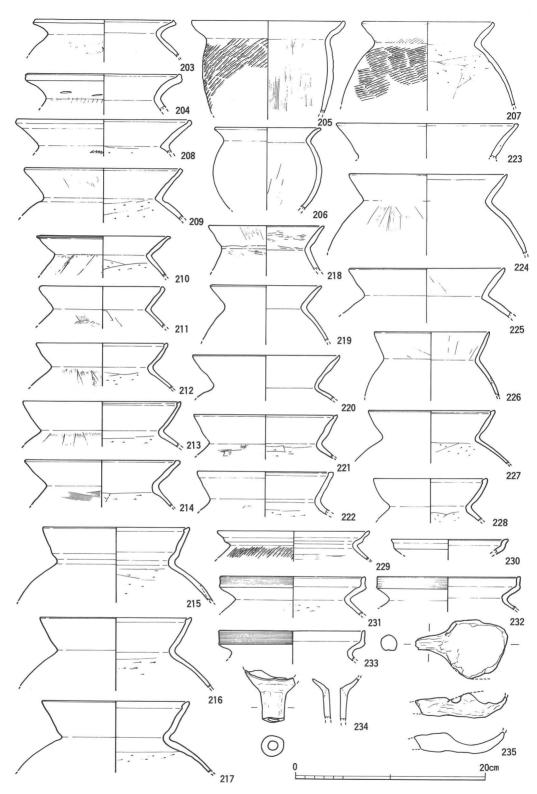
第12図 2区SD201上層出土遺物⑨(S=1/4)



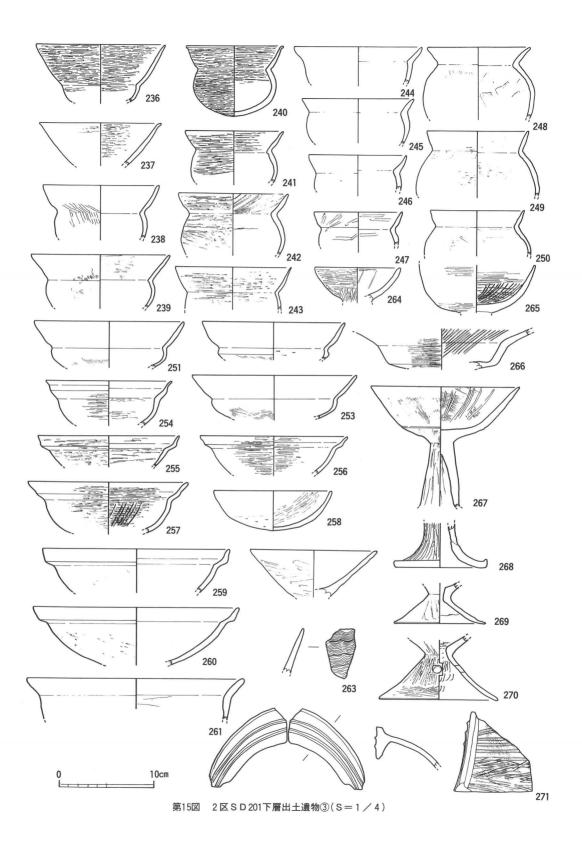
第13図 2区SD201下層出土遺物①(S=1/4)

高杯は下層には非常に少なく、上層のものには裾部内面に \times 、=、-のヘラ記号を施すものが数点認められる (125~130)。

下層から手焙形土器の覆部(271)が出土している。胎土は精良で、色調は淡灰茶色を呈する。 覆部外面にヘラ描沈線文を施し、肥厚させた前端面に2条の貼付け突帯を付す装飾性の高いも



第14図 2区SD201下層出土遺物②(S=1/4)



-80 -

のである。美園遺跡や纏向遺跡に類例がみられ、前者は前端面の突帯間に竹管浮文を施すもので、滋賀県南部地域産とされている。

特殊な土器としては注口部をもつ鉢状のもの(234)、匙状のもの(235)がある。

木製品(331)は精製品で、上部は枘部と考えられ、下端面は凹凸に傷んでいる。椅子の脚部 等の用途が考えられる。

これらの遺物の時期は古墳時代前期に比定され、やや古相を示すもの(庄内式併行期)が含まれるものの、概ね布留式期中段階から新段階前半と考えられる。

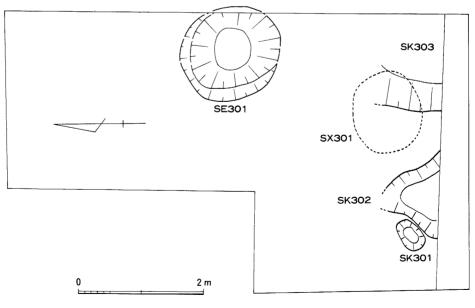
• 3 区

井戸1基(SE301)、土坑3基(SK301~303)、土器集積1箇所(SX301)を検出した。

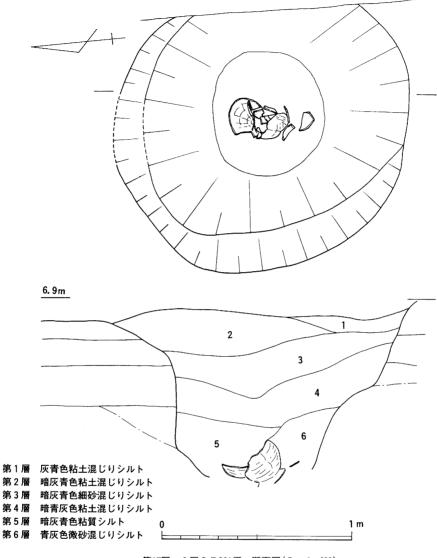
S E 301

調査区の中央部東端で検出した素掘りの井戸で、検出面の標高は約6.8mを測る。平面形は直径1.5~1.6mの不整円形を呈し、検出部分の深さは約90cmを測る。掘方は二段になっており、底から約70cmはほぼ垂直に掘られている。埋土は暗青灰色系のシルト~粘質シルトで、粘土をブロック状に含んでいる。

遺物は、底部から壺口縁部(272)、壺体部(273)が出土しており、時期は古墳時代前期初頭 (庄内式期新相~布留式期古相)と考えられる。



第16図 3区遺構平面図(S=1/60)



第17図 3区SE301平・断面図(S=1/20)

S K 301

平面形は53cm×34cmの楕円形を呈し、深さ約12cmを測る。

S K 302

平面形は135cm×85cm以上の不整形を呈し、深さ約8cmを測る。

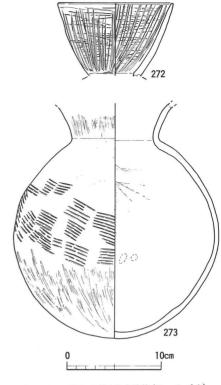
S K 303

平面形は135cm×95cm以上で、深さ約12cmを測る。

S K 301~303は調査区の南部に集中している。 埋土はいずれも青灰色粘土混じりシルトであり、 遺物は出土していない。

S X 301

調査区南部の第2層・第3層中で検出した土器 集積で、掘方が認められなかったため土器集積と した。直径約1.2m・厚さ約20~30cmの範囲に広 がっている。出土遺物の器種構成をみると、小型 丸底壺の占める割合が高いことが指摘できる。時 期は古墳時代前期(布留式期新段階)に比定され、 2区のSD201上層出土遺物に併行すると考えら れる。



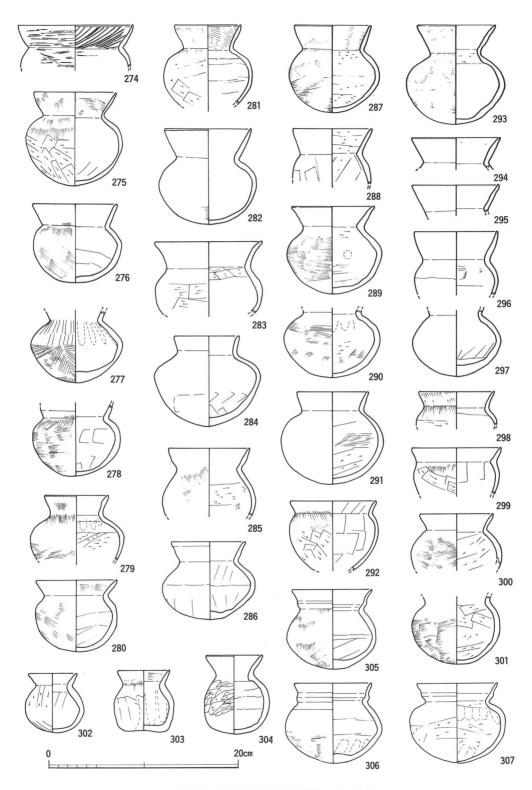
第18図 3区SE301出土遺物(S=1/4)

第3章 まとめ

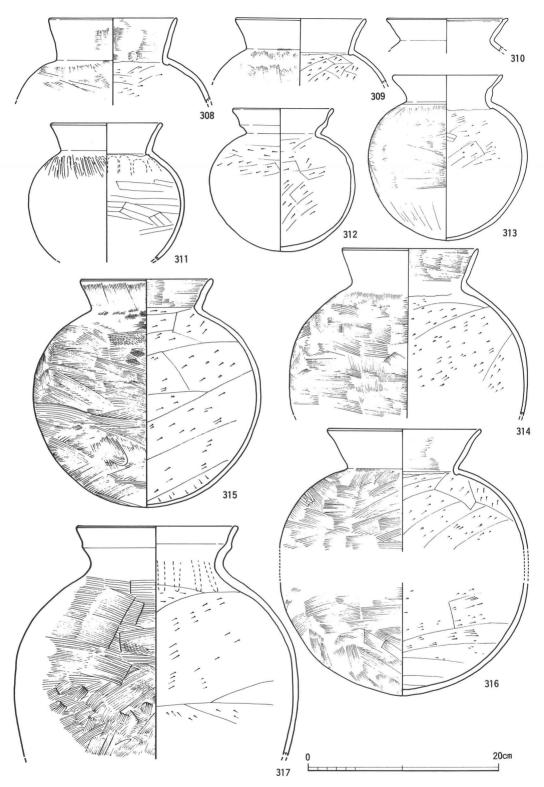
今回の調査では、古墳時代前期の遺構・遺物を検出した。

1区では遺構は検出されなかったが、調査面積が狭小なこともあり、第1次調査で確認されている奈良時代の集落の広がりについては不明である。

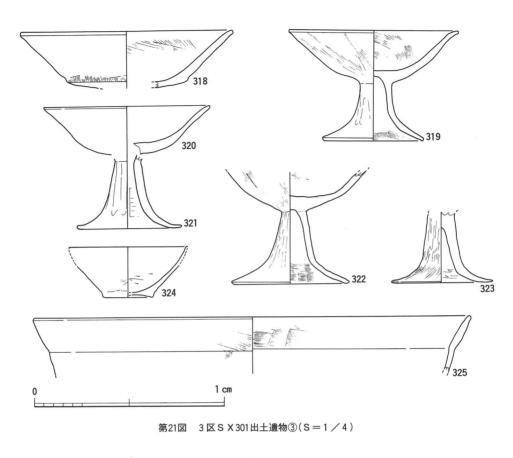
2 区ではSD201からコンテナ20箱に及ぶ多量の布留式期の遺物を検出した。西部の3区においても同時期の土器集積SX301が検出され、これらの土器の遺存状況は良好であり、付近に当該期の集落が存在することは確実であろう。また3区ではやや時期の遡る井戸SE301が検出され、2区のSD201でも同時期の土器が少量ではあるが出土している。第1次調査地や1区においては、これらの時期の遺構は確認されていないことから、これより西に古墳時代前期の集落が展開されていたと考えられる。

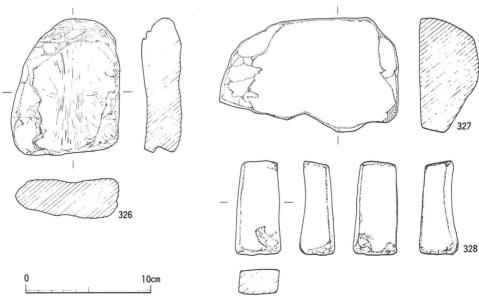


第19図 3区SX301出土遺物①(S=1/4)

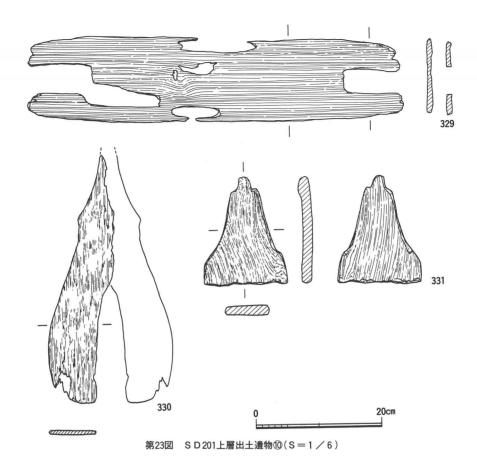


第20図 3区SX301出土遺物②(S=1/4)





第22図 2区SD201出土遺物(S=1/3)



註 胎土分析は八尾市立曙川小学校教諭 奥田 尚氏にお願いした。

参考文献

八尾南遺跡調査会「八尾南遺跡」1981 財団法人大阪文化財センター・大阪府教育委員会「美園」1985 奈良県立橿原考古学研究所編「纏向」1976

第4章 遺物観察表

遺物番号 図版番号	器 種	出土地点	法量(cm) 口径 (復元値) 器高	色 調	胎土	焼成	技法・形態の特徴	残存
1	土師器	2 区 S D 201 上層	(22.4)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ、外面円形浮紋有り。	極小
2	土師器	2区 S D 201 上層	(20.4)	白灰茶色	やや粗	良好	口頸部外面ヨコナデ、内面上位ヨコナデ、下位ハ ケ。口頸部内面漆ぬり。	1/4 反転
3	土師器	2区 S D 201 上層	(15. 2)	橙茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。環部外面、内面上半ヘラミガキ、 内面下半〜肩部内面ナデ。口縁端部と肩部上位に キザミ目。肩部外面、櫛による刺突文あり。	口頸部完存
4	土師器	2区 S D201 上層		外 淡灰 大 大 大 大 大 美 長 大	密 2.5mm以下 の砂粒を多量 に含む	良好	頸部ヘラミガキ。頸部肩部間に櫛による刺突文を 施した突帯を巡らす。	1/4
5	土師器	2区 S D201 上層	(16.0)	白黄茶色	やや粗	良好	口縁部~頸部ヨコナデ。	極小
6 4	土師器 壺	2区 S D201 上層	(21.6)	外 淡茶色 内 黒色	密 1.5mm以下 の砂粒を微量 に含む	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。頸部外面ヨコナ デ後ハケ、内面ハケ。	1/4
7 4	土師器	2区 S D201 上層	(30. 55)	淡茶褐色	密 1~3mm の砂粒を含む	良好	口縁部外面ハケ、内面ヨコナデ。頸部外面ハケ、 内面ヨコナデ。 口頸部内面漆塗り。	3 / 4
8	土師器 鉢	2区 S D201 上層	(38. 0)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ヘラミガキ。	極小
9	土師器	2区 SD201 上層	(13.8)	淡茶色	密	良好	口縁部外面ナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。	1/8
10	土師器 壺	2区 SD201 上層	(20. 6)	明白茶色	やや粗	良好	口縁部外面ヨコナデ後ヘラミガキ、内面ヨコナデ。	1/4
11	土師器 壺	2区 SD201 上層	21.6	淡乳茶色	やや粗	良好	口縁部上半と内面ヨコナデ、下半外面ハケ後ヘラ ミガキ。	1 / 4
12	土師器	2区 SD201 上層	(24.0)	灰茶色	やや粗	良好	口縁端部~外面ヨコナデ。内外面ハケ。	1/5
13	土師器 壺	2区 SD201 上層	(11.6)	外 淡层色 灰淡色 内 橙色	やや粗	良好	口縁部外面ハケ後ナデ、内面ナデ。	1/2 反転
14 4	土師器 壺	2区 SD201 上層	15.5 29.6 最大径(28.05)	淡乳茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。体部外面上半ナデ、下半板ナデ、 内面下半ヘラケズリ。	3 / 4
15	土師器 壺	2区 S D201 上層	(14.8)	淡乳茶色	やや粗	良好	口縁部ナデ。	1/4 反転
16	土師器 壺	2 区 S D201 上層	(19. 2)	淡灰茶色	やや粗 2mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好	口縁部~肩部板ナデ。	1/4
17	土師器 壺	2区 SD201 上層	(16.6)	暗茶褐色	密 1~4mm の砂粒含む	良好	口縁部ヨコナデ。肩部内面ナデ。	1/4
18	土師器 壺	2区 SD201 上層	(18.3)	橙茶色	やや粗	良好	口縁部ヘラミガキ。	1/5
19	土師器 壺	2区 SD201 上層	(16. 2)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ハケ後ヨコナデ。肩部内面ケズリ。	1/2
20	土師器 壺	2区 SD201 上層	(18. 2)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ナデ、端部ヨコナデ。	1/4
21 4	土師器 壺	2区 S D201 上層	11.15	淡乳褐色	密	良好	口縁部外面縦ヘラミガキ。 内面ナデ後ハケ。肩部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	口縁部ほぼ完形
22 4	土師器 壺	2区 S D201 上層	(11,9) 最大径(14.0)	乳橙褐色	密	良好	口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。底体部外面タタキ 後ナデ、内面ナデ。外面煤付着。	1/2

遺物番号 図版番号	器 種	出土地点	法量(cm) 口径 (復元値) 器高	色 調	胎土	焼成	技法・形態の特徴	残存備考
23	土師器	2区 SD201 上層	11.7 15.0 最大径15.6	乳灰茶色	密 0.5~1 mm の砂粒を含む	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外面ハケ、内面上半ヘラ	口線1/4
24	土師器	2 🗵 S D201	12. 4 13. 5	淡橙灰色	密 0.5mm以下	良好	ケズリ、下半指オサエ。底部穿孔有り。 口縁部ヨコナデ。底体部外面ヘラミガキ、内面ナ	ほぼ完形
25	土師器	上層 2区 S D201	最大径13.4 (9.6) 11.6	乳黄茶色	の砂粒を含むやや粗	良好	デ。 口縁部ヨコナデ。底体部上半外面ハケ、内面ヘラケズリ、下半外面ヘラミガキ、内面ナデ。底体部	口縁1/3
26	土師器	上層 2 区 S D201	最大径13.9	明黄褐色	密	良好	外面煤付着。 口縁部ヘラミガキ。底体部外面ヘラミガキ、内面	4 / 5
27	土師器	上層 2 区 S D201	(11. 8)	橙褐色	密	良好	ナデ。内面下半指オサエ有り。 口縁部~肩部ナデ後横へラミガキ。	反転 1/2
28		上層 2 区 S D201	(10.3)	淡茶灰色	密	良好	口縁部外面ヨコナデ後ヘラミガキ、内面ヨコナデ 後右上りのヘラミガキ。底体部上半外面ヘラミガ	反転 1/8
29	壶 土師器	上層 2 区					日縁部外面へラミガキ、内面ヨコナデ。 肩部内面	反転 1/5
	壺	S D201 上層	(10.8)	淡灰茶色	密	良好	ナデ。	反転
30	土師器 壺	2 区 S D201 上層	(9.5)	淡茶色	密	良好	□縁部ヨコナデ。底体部外面へラミガキ、内面指 オサエ。	1/4
31 4	土師器 壺	2 区 S D201 上層	9.3 7.7	淡灰茶色	密	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外面へラケズリ、内面ナ デ。	完形
32 4	土師器	2区 S D201 上層	7.2 最大径 8.2	淡灰茶色	密 0.5mm以下 の砂粒を含む	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。底体部ヘラナデ。	4 / 5
33	土師器	2区 S D201 上層	(8.4) 8.4 最大径(9.3)	橙灰色	やや粗	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面ハケ。底体部外面ハケ、 内面上半指オサエ、下半ケズリ。	1/2
34	土師器	2区 S D201 上層	8. 6 8. 7	黒色	密	良好	口線部ヨコナデ。底体部外面ナデ後ハケ、内面ナデ。 外面、底体部内面媒付着。	3 / 4
35 4	土師器	2区 S D201 上層	7.4 8.6 体部最大径10.3	乳黄茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。肩部外面ハケ。底体部ナデ。底部外面黒斑有り。	完形
36 4	土師器	2区 S D201 上層	7.75 8.8 体部最大径 9.4	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外面上半ハケ、下半ケズ リ。 体部内面ナデ。	完形
37	土師器	2区 S D201 上層	(9. 2)	乳茶褐色	やや粗	良好	内外面ナデ。外面黒斑有り。口縁部粘土接合痕明 瞭に残る。	1/5
38	土師器	2区 S D201 上層	(7.6)	淡茶橙色	密	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。肩部外面ハケ。内面ヘラケズリ。体部内面ナデ。	1/8
39	土師器	2区 S D201 上層	(9.0)	淡橙褐色	審	良好	口縁部ヨコナデ。肩部外面ヘラケズリ、内面ナデ。	1/4
40	土師器	2区 SD201 上層	(8. 2)	淡茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。肩部内面ナデ。	1/8
41 4	土師器	2 区 S D201 上層	(8, 2) 9, 0 体部最大径9, 3	淡灰茶色	密 1.5mm以下 の砂粒を含む	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外面ハケ。 底体部上半内面ナデ。底部内面ナデ。	口縁部 3/4欠損 一部反転
42 5	土師器	2区 S D201 上層	8.2 7.3 最大径8.85	乳灰茶色	やや粗	良好	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	口縁部 1/4欠損
43	土師器	2区 S D201 上層	(6.4)	明乳橙色	密	良好	内外面ナデ。	口頸部完存
44	土師器	2 区 S D201	9.1	淡灰茶色	やや粗	良好	口縁部~体部内面ヨコナデ。体部外面ナデ。	反転 完形
45	土師器	上層 2 区 S D201	5. 45 8. 8	外里茶色	やや密	良好	底部外面ヘラケズリ、内面ナデ。 口縁部~底体部外面ハケ後ナデ、内面ナデ。	完形
5	壺	上層	8.8	内 淡褐色				

遺物番号 図版番号	器 種	出土地点	法量(cm) 口径 (復元値) 器高	色 調	胎土	焼成	技法・形態の特徴	残 存備 考
46	土師器	2区 SD201 上層	(9.0)	淡灰茶色	密 1.5mm以下 の砂粒を少量 含む	良好	口縁部~底体部外面ナデ。肩部内面指オサエ。 体部内面へラケズリ。	1/5
47	土師器	2 ⊠ S D201	(8.8)	淡灰茶色	密 1 mm以下 の砂粒を少量	良好	口縁部~底体部上半外面ハケ。肩部内面ナデ。 体部内面へラナデ。	2/5
48	土師器	上層 2区 S D201	9. 2 9. 5	淡灰茶色	含む 密 1.5mm以下 の砂粒を微量	良好	外面黒斑有り。 口縁部ヨコナデ。底体部外面ハケ、内面ヘラケズ	完形
5 49	土師器	上層 2区 S D 201	体部最大径 9.8 8.65 9.55	薄乳茶色	に含む やや粗	良好	リ。 口縁部ヨコナデ。底体部上半ナデ、下半外面へラ ケズリ、内面ハケ。	ほぽ完形
5		上層 2区	体部最大径 8.4 9.3		密 1.5mm以下		ケズリ、内面ハケ。 全面に煤付着。	ほぽ完形
5 51	壶 土師器	S D 201 上層 2 区	8.8 体部最大径9.2 5.8	褐灰色	の砂粒を多量 に含む 密 1.5mm以下	良好	口縁部~底体部外面ナデ。底体部内面ナデ。 外面ナデで底部ハケ残る。口縁部~肩部内面ナデ。	3 / 4
	壺	S D201 上層	8.9 体部最大径 8.1	淡茶灰色	の砂粒を多量 に含む	良好	底体部内面下半ヘラケズリ、上半ハケ。外面黒斑 有り。	
52 5	土師器	2 区 S D 201 上層	9.4 11.6 体部最大径12.0	外 黒茶色 内 淡茶色	やや密 0.5mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好	口縁部ナデ。底体部外面ハケ、内面ヘラケズリ後 ナデ。外面煤付着。底部ヘラ記号有り。	完形
53 5	土師器 壺	2区 SD201 上層	9.3 11.2 最大径11.1	乳灰茶色	密	良好	ロ縁部外面ヨコナデ、内面ヘラケズリ。底体部外 面ハケ、内面ナデ。	ほぼ完形
54 5	土師器	2 区 S D 201 上層	9.5 11.5 体部最大径10.5	淡灰茶色	密 1 mm以下 の砂粒を微量 に含む	良好	口縁部内面ハケ。底体部上半外面ハケ。 底体部内面ナデ。 外面黒斑有り。	完形
55 5	土師器	2区 SD201 上層	8.4 10.7 体部最大径9.5	乳黄茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。肩部外面ヘラミガキ、内面ナデ。 体部ヘラミガキ。底部外面ヘラケズリ。 外面黒斑有り。	完形
56 5	土師器	2区 SD201 上層	(9.9) 8.6 最大径 7.4	淡灰茶色	密 0.5~1 mm の砂粒を含む	良好	口縁部~底体部外面ハケ、内面ヘラナデ。	一部欠損
57 5	土師器	2区 S D 201 上層	9.75 6.8 最大径10.85	乳灰茶色	密	良好	口縁部上半ヨコナデ、下半~底体部外面ハケ、内 面上半ナデ、下半ヘラケズリ。	口縁 1 / 2 欠損
58	土師器	2区 S D 201 上層	12.6 11.9 体部最大径12.7	淡橙茶色	密 0.5mm以下 の砂粒を多量 に含む	良好	口縁部ナデ。肩部ナデ。 底体部外面ハケ、内面ナデ。 外面黒斑有り。	完形
59	土師器	2 ⊠ S D201	14. 5 24. 9	乳橙茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外面ハケ、内面上半ヘラ	体部少々欠 損
60	甕 土師器	上層 2 区 S D201	最大径22.1	暗褐色	やや粗	良好	ケズリ、下半ナデ。外面煤付着。 口縁部ヨコナデ。底体部外面ハケ。肩部内面ナデ。 体部内面へラケズリ。底部内面指頭痕。 外面と底体部下半内面に煤付着。	3/4 一部反転
61	土師器	上層 2 区 S D201	体部最大径22.2	乳茶褐色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。肩部外面ヨコナデ後ハケ、内面 ヨコナデ。体部外面ハケ、内面へラケズリ。	1/4
62	土師器	上層 2区 SD201	14.9	淡茶色	やや粗	良好	外面煤付着。 口縁部ヨコナデ。肩部内面ナデ。体部外面ハケ、 内面公ラケズリ。	反転 1/3
63	土師器	上層 2 区 S D201	(12.7)	白茶褐色	やや粗	良好		2/3
64	土師器	上層 2区 S D201	(15. 2)	乳橙褐色	密	良好	外面煤付着。体部最大径 (19.2) 口線部 一肩部外面ヨコナデ。肩部内面ナデ。体部 外面ハケ, 内面ヘラケズリ。肩部外面圧痕有り。 外面煤付着。	反転 1/4
65	土師器	上層 2区 SD201	14.1	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。肩部外面ナデ、内面指オサエ。 体部外面ハケ、内面ヘラケズリ。	2/3
66	光 土師器	上層 2区 SD201	(15.0)	外明淡褐色	密1mm前後の	良好	肩部外面圧痕有り。 □緑部外面~肩部外面ヨコナデ後ハケ。□縁部内 面ヨコナデ。□縁接合部内面ナデ。体部外面ハケ、	一部反転
67		上層 2区		内 明橙色 外 茶灰色	砂粒多く含む やや粗 1.5mm 以下の砂粒を	良好	内面へラケズリ。外面煤付着。 口縁部ヨコナデ。底体部上半外面ハケで、黒斑有	反転 1/3
6	甕 土師器	S D 201 上層 2 区	13.1	内 茶橙色	多量に含む		り、内面ヘラケズリ。 □緑部ヨコナデ。底体部上半外面ヨコナデ後ハケ。	一部反転 1/8
	甕	S D 201 上層	(18.3)	乳茶色	やや粗	良好	肩部内面ヨコナデ後ヘラケズリ。体部内面ヘラケズリ。	反転

遺物番号 図版番号	器 種	出土地点	法量(cn) 口径 (復元値) 器高	色 調	胎土	焼成	技法・形態の特徴	残存備考
69	土師器	2区 SD201 上層	(14. 6)	淡褐色	密	良好	□縁部~肩部外面ヨコナデ。肩部内面ナデ。 体部外面ナデ、内面へラケズリ。	1/4
75	 土師器 甕	2区 S D201 上層	(12, 6)	淡茶灰色	やや粗 1 mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好	外面煤付着。 口縁部~肩部外面ヨコナデ。肩部内面ナデ。 体部外面ハケ、内面ヘラケズリ。 口縁部外面黒斑有り。	反転 1/4
76	土師器	2 ⊠ S D201	(14. 5)	白黄茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。肩部外面ヨコナデ後ハケ、内面	反転 1/2
90	土師器	上層 2区 SD201	(11. 2)	外暗褐茶色	やや粗 2 mm 以下の砂粒を	良好	ナデ。体部外面ハケ、内面ヘラケズリ。 口縁部ヨコナデ。底体部上半外面ハケ、内面ケズ リー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	反転 1/4
93	土師器	上層 2 区 S D201	(14.4)	内 淡褐茶色 外 黒褐色	多量に含む やや粗 2 mm 以下の砂粒を	良好	外面媒付着。 口縁部ヨコナデ。底体部上半外面ハケ。	反転 1/2
94	土師器	上層 2 区 S D201	(13, 2)	内 濒	多量に含む 密 1~3 mm	良好	「肩部内面指オサエ。体部内面へラケズリ。 「口縁部~肩部外面ヨコナデ。肩部内面ナデ。 体部外面ハケ、内面へラケズリ。	反転 1/4
95	土師器	上層 2 区 S D201	(14.0)	明淡褐色	の砂粒含むやや粗	良好	外面煤付着。 □縁部ヨコナデ。肩部外面ナデ圧痕有り。 体部外面ハケ。底体部内面上半ヘラケズリ。	反転 3/4
96	土師器	上層 2 区 S D 201	(13. 8)	灰茶色	やや粗 2 mm 以下の砂粒を	良好	外面煤付着。 □緑部ヨコナデ。底体部上半外面ハケ。	1/4
97	土師器	上層 2 区 S D201	(9.8)	淡乳褐色	多量に含む粗	良好	「肩部内面へラナデ。体部内面へラケズリ。 「口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデでハケ残る。	反転 1/2
102	土師器	上層 2 区 S D201	(17. 2)	外 茶褐色	密 1 mm以下	良好	肩部指オサエ。体部外面ハケ、内面へラケズリ。 口縁部上半外面ハケ、内面ヨコナデ。口縁部下半 ナデ。 外面煤付着。	反転 極小
103	土師器	上層 2 区 S D201	12.9	内 茶灰色 茶褐色	の砂粒を含む やや粗 3 mm 以下の砂粒を	良好	□縁部ヨコナデ。底体部上半外面ハケ、内面ヘラ ケズリ。	反転 1/2
108	土師器	上層 2 区 S D201	(15. 2)	白茶色	多量に含むやや粗	良好	外面煤付着。 □縁部ヨコナデ後外面ヘラミガキ。□縁端部上下 	一部反転 1/3
109	土師器	上層 2 区 S D 201	12, 2	白茶色	やや粗	良好	に刻み目。 □緑部ヨコナデ。肩部ナデで外面に圧痕有り。 体部外面ナデ、内面ヘラケズリ。	体部3/4
110	土師器	上層 2 区 S D 201 上層	(16. 6)	淡灰茶色	密 1㎜以下の砂粒を多量	良好	外面煤付着。 「緑部ヨコナデ。底体部上半外面ナデで、ハケ残る。内面ヘラケズリ。	1/4
112	土師器	2 🗷 S D201	(15, 8)	乳茶灰色	に含む 密 1.5mm以下 の砂粒を多量	良好	体部外面媒付着。 外面ヨコナデ、内面ナデ。	極小
113	土師器 ・	上層 2 区 S D 201 上層	(16.0)	乳灰褐色	に含む	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面ハケ。底体部上半外面 ナデ後ヘラミガキ、内面ナデ。 外面~口縁部内面黒斑有り。	反転 1/3 一部反転
114	土師器 甕	2区 S D 201 上層	(12.6)	黒灰褐色	密 1㎜以下の砂粒を含む	良好	フト回 - 口縁 - 日禄 - 日禄 - 日本 - 日本 - 日本 - 日本 - 日本 - 日本	1/4
115 6	土師器	2区 SD201 上層	13.95 23.4 最大径21.1	乳黄茶色	やや粗	良好	□縁部ヨコナデ。底体部外面ハケ、肩部内面ナデ、	反転 口縁体部少 々欠損
116	土師器 甕	2区 SD201 上層	13.1 体部最大径 (20.0)	乳黄茶色	やや粗	良好	フト回 (本刊) 相。 口縁部ヨコナデ。底体部外面ハケ。肩部内面ナデ。 体部内面へラケズリ。底部黒斑有り。	1/2
117 6	土師器	2区 SD201 上層	(14. 0) 12. 5 (9. 7)	淡乳茶色	やや粗	良好	口線部外面ハケ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。杯部下 位へラミガキ。脚柱部外面ハケ後ヘラミガキ。内面しば り目とヨコナデ。裾部外面ハケ後ヘラミガキ。内面しな	1/3
118	土師器	2区 S D201 上層	(18. 6)	灰褐色	密	良好	内外面ナデ後ヘラミガキ。	1/4
119	土師器	2区 S D201 上層	16, 2 14, 1 脚底径11, 6	淡乳茶色	やや粗	良好	杯部ヨコナデ。脚柱部外面ハケ後ヘラミガキ、内 面ハケ後ナデ。裾部ハケ。 裾部外面黒斑有り。	1/2
120	土師器	2区 SD201 上層	(17.8) 12.7 脚底径12.5	橙褐色	やや粗 1~ 4mmの砂粒多 く含む	良好	杯部外面ヨコナデ内面ナデ。 脚部外面サデ後ヘラミガキ。脚柱部内面ナデ。 裾部内面ハケ。	杯部 1 / 2 欠損 一部反転

遺物番号 図版番号	器種	出土地点	法量(cn) 口径 (復元値) 器高	色 調	胎土	焼成	技法・形態の特徴	残存備考
121 6	土師器 高杯	2区 SD201 上層	16. 0 12. 5 (11. 6)	暗灰茶色	密 0.5~1 mm の砂粒を含む	良好	杯部外面ナデ、内面ハケ。脚部外面ナデ。脚柱部 内面シボリ目、裾部内面ハケ。	3 / 4
122 6	土師器 高杯	2区 SD201 上層	(19.7) 13.1 11.8	淡灰茶色	密 0.5~2.0 mmの砂粒を含 む	良好	杯部上半外面ヨコナデ後ハケ、内面ハケ後ヘラミ ガキ。脚部外面ナデ、内面へラナデ。	口縁 1 / 2 脚部一部欠 損
123 6	土師器 高杯	2区 SD201 上層	(16. 8) 11. 4 (12. 7)	乳灰茶色	密	良好	杯部ナデ。脚柱部外面ヘラミガキ。裾部ヨコナデ。	1/2
124	土師器 高杯	2区 SD201 上層	(13, 8)	淡乳茶色	やや粗	良好	杯部ナデ。杯部外面下位ハケ。黒斑有り。	1/4
125 6	土師器 高杯	2 区 S D 201 上層	18. 3 14. 1 (11. 8)	乳橙茶色	やや粗	良好	杯部ヨコナデ。脚柱部外面ヘラミガキ。裾部外面 上半ヘラミガキ、下半ヨコナデ、内面上半ヘラケ ズリ、下半ハケ。ヘラ記号有り。3方向に円孔。	口縁、裾部 少々欠損
126	土師器 高杯	2区 SD201 上層	17.9 13.3 脚底径11.1	淡茶色	やや密 0.5mm 以下の砂粒を 多く含む	良好	杯部ハケ後内面ナデ。脚柱部外面へラミガキ、内 面シボリ目。裾部ナデで内面ハケ、ヘラ記号有り。 3方向に円孔。	
127 6	土師器 高杯	2 区 S D 201 上層	(18. 2) 13. 0 11. 8	淡白茶色	密	良好	杯部外面ハケ後ヨコナデ、内面ヨコナデ。脚柱部外面へ ラミガキ後ハケ、内面シボリ目、ヘラケズリ。裾部外面 ヘラミガキ、内面ハケ。3方向に円孔、ヘラ記号有。	杯部 1 / 3 欠損
128 6	土師器 高杯	2 区 S D 201 上層	18. 2 13. 0 10. 7	乳灰茶色	やや粗	良好	杯部ハケ後ヨコナデ。脚柱部外面へラミガキ、内 面シボリ目。裾部上半ヘラケズリ、下半ハケ。ヘ ラ記号有り。	口縁 1 / 2 欠損
129	土師器 高杯	2 区 S D 201 上層	脚底径11.8	乳橙色	やや粗	良好	脚部ナデ、内面シボリ目。裾部内面中位ヘラケズ リ。 裾部内面へラ記号有り。3方向に円孔。	脚部ほぼ完 形 一部反転
130	土師器 高杯	2 区 S D 201 上層	脚底径12.1	明乳茶色	やや粗	良好	脚柱部外面へラミガキ、内面ナデ。 裾部外面〜裾端部ナデ。裾部内面中位へラケズリ。 裾部内面へラ記号有り。3方向に円孔。	脚部 2 / 3 一部反転
131 6	土師器 高杯	2 区 S D 201 上層	(17. 6) 12. 5 10. 7	茶橙色	密 0.5~1.5 mmの砂粒を含 む	良好	杯部上半ヨコナデ後ハケ、下半ハケ。脚柱部外面 ヘラナデ後ハケ、内面シボリ目。裾部外面ナデ、 内面ハケ。脚部3方向に円孔。	杯部 2 / 3 欠損
132	土師器 高杯	2区 SD201 上層	17.5 13.3 脚底径12.2	にぶい橙	密 2 mm以下 の砂粒を少量 含む	良好	杯部外面上位ナデ、下位ハケ。杯部内面ハケ後ナ デ。脚柱部外面ヘラナデ、内面ヘラケズリ。裾部 外面ナデ、内面ハケ。	2/3
133 6	土師器 高杯	2 区 S D 201 上層	16. 5 11. 4 10. 2	乳灰茶色	やや粗	良好	杯部外面ヨコナデ、内面上半ヨコナデ、下半ナデ。 脚柱部外面ヘラミガキ、内面ナデ後ヘラケズリ。 裾部内面ナデ、端部ヨコナデ。	杯部 1 / 5 裾部 1 / 4 欠損
148 7	土師器 高杯	2 区 S D 201 上層	脚底径11.6	乳茶色	やや粗	良好	脚部外面ヘラミガキ。裾端部外面指頭痕。脚部内 面ナデ。4方向に円孔。	脚部 1 / 2 一部反転
149 7	土師器 高杯	2 区 S D 201 上層		淡茶灰色	密 1.5mm以下 の砂粒を少量 含む	良好	杯部ハケ。脚柱部ナデ。	1 / 2 一部反転
157	土師器 器台	2区 SD201 上層	(9. 2)	淡乳茶色	やや粗	良好	口縁端部ヨコナデ。口縁部外面ナデ、内面ヘラミ ガキ。	2 / 3 一部反転
158 7	土師器 器台	2区 SD201 上層	(9.4) 8.7 11.8	淡茶色	密	良好	口縁部ヘラミガキ。脚部外面ヘラミガキ、内面ナ デ。脚部4方向に円孔。	3 / 4
159 7	土師器器台	2 区 S D 201 上層	(9, 25) 9, 15 12, 15	茶色	密	良好	口縁部ヘラミガキ。脚部上半外面ヘラミガキ、内面シボリ目、下半外面ハケ後ヘラミガキ、内面ハケ後ナデ。脚部3方向に円孔。	口縁部1/4 脚部1/6 欠損
160 7	土師器 器台	2 区 S D 201 上層	9. 4 6. 05 (8. 5)	乳灰茶色	やや粗	良好	口縁部上半、脚部下半ヨコナデ。	底部 1 / 3 欠損
161 7	土師器器台	2 区 S D 201 上層	(8.5)	赤褐色~	密 1~4 mm の砂粒含む	良好	口縁端部ヨコナデ。口縁部外面〜裾部外面ハケ後 ヘラミガキ。口縁部内面ヘラミガキ。脚柱部内面 ナデ。裾部内面ナデ後ハケ。4方向に円孔。	3 / 4 一部反転
162	土師器 器台	2区 S D 201 上層	(12.6)	乳肌色	やや粗	良好	内外面ナデ。	1/4
169	土師器	2区 S D201 上層	(14.45)	淡橙色	やや粗	良好	内外面ヘラミガキ。	1/4
170	土師器	2区 SD201 上層	14. 9 5. 3	淡茶橙色	密 0.5mm以下 の砂粒を含む	良好	底部外面除く全面ヘラミガキ。底部外面ナデ。外 面黒斑有り。	4/5

遺物番号 図版番号	器種	出土地点	法量(cm) 口径 (復元値) 器高	色調	胎土	焼成	技法・形態の特徴	残存備考
171 7	土師器 鉢	2 区 S D 201 上層	15. 2 5. 4	淡灰茶色	密 0.5mm以下 の砂粒を含む	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ヘラミガキ。 底体部ヘラミガキ。	4/5
172	土師器	2 区 S D201	(16.0)	明橙褐色	密	良好	内外面へラミガキ。	1/8
173	<u></u> 土師器	上層 2区 SD201	(17. 8)	乳茶色	やや粗	良好	内外面ヨコナデ後ヘラミガキ。体部外面下半ヘラ ケズリ	反転 1/8
174		上層 2区					ケズリ。 黒斑有り。 口縁部内面ヨコナデ。外面ナデ後ヘラミガキ。	反転 1/5
	鉢	S D 201 上層	(18.9)	乳茶褐色	密	良好	底体部内面ナデ後ヘラミガキ。	反転
175	土師器鉢	2 区 S D201 上層	(11. 0)	乳黄茶色	やや粗	良好	内外面ナデ。	1 / 2 一部反転
176 7	土師器 鉢	2 区 S D201 上層	(15, 6) 4, 9	淡灰褐色	密	良好	口縁部ヨコナデ。底体部ナデ後ヘラミガキで 内面工具痕有り。	1/3
177	土師器	2 ⊠ S D201	(9.75)	乳茶色	やや粗	良好	内外面ナデ。	一部反転
178	土師器	上層 2区 S D 201	3. 1	劇に共々	, che	4.17	口縁端部ヨコナデ。底体部外面ナデ。	一部反転ほぽ完形
7	鉢 土師器	S D201 上層 2 区	4.0	乳灰黄色 外 淡灰茶色	密	良好	黑斑有。	
7	鉢	S D201 上層	4.5	外 <i>换</i> 灰条包 内 灰黑色	やや粗 2 mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好	外面へラナデ。体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。	1/3 一部反転
180 7	土師器 鉢	2区 SD201 上層	(16.6)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外面ハケ、内面ナデ。	1/4
181	土師器 鉢	2区 S D201 上層	(12.6)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外面ヘラケズリ、内面ナ デ。	1/4
182	土師器 鉢	2 区 S D201 上層	(17.8)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ナデ。底部外面ヘラケズリ、内面ナデ後へ ラミガキ。	1/8
183	土師器 鉢	2区 S D201 上層	(18.0)	赤茶褐色	密 2 mm前後 の砂粒含む	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ後ヘラミガキ。 体部ヘラミガキで内面上位ハケ残る。	1/8
184	土師器	2区 S D201 上層	(24.7)	乳黄茶色	やや粗	良好	外面ナデ。内面ナデ後ヘラミガキ。	極小
185 7	土師器	2区 S D 201 上層	5. 0 4. 3	淡茶灰色	密 1 mm以下 の砂粒を少量 含む	良好	口縁部外面指オサエ。底体部ナデ。	反転 完形
186 7	土師器 鉢	2 区 S D 201 上層	6. 0 5. 8	淡灰橙色	密 2 mm以下 の砂粒を少量 含む	良好	口縁部~底体部外面指オサエ。底部内面ナデ。	完形
187	土師器蛸壺	2区 S D201 上層	(3, 2)	乳茶色	やや粗	良好	内外面ナデ。	1/3
188	土師器	2 区 S D 201 下層	(10.7)	灰茶色	やや粗	良好	口縁部ナデ。肩部内面ハケ。	1/4
189	土師器	2区 SD201 下層	(11.4)				口縁部ナデ。肩部外面ナデ後ハケ。	1/3
190	土師器 壺	2 区 S D201 下層	(19. 6)	乳茶褐色	やや粗 1~ 2mmの砂粒多 い	良好	口緑端部~口緑部内面ナデ。外面口緑部下半~肩 部ヨコナデ。肩部内面ナデ後ハケ。 口緑部煤付着。	1/4
191	土師器	2 区 S D201 下層	(14.3)	明乳茶色	やや粗	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面ハケ。	1/5
192	土師器	2区 SD201 下層	(14. 3)	明茶色	やや粗	良好	口縁部外面ハケ。口縁端部~口縁部内面ヨコナデ。 口縁部下位内面ハケ。肩部内面ナデ。	1/4
193 7	土師器	2 区 S D 201 下層	18. 2	乳灰茶色	やや粗	良好	口縁部ナデ、端部ヨコナデ。頸部外面ハケ残る。	3 / 4 一部反転

遺物番号 図版番号	器 種	出土地点	法量(cn) 口径 (復元値) 器高	色調	胎土	焼成	技法・形態の特徴	残 存
194	土師器	2 区 S D201 下層	(20. 2)	明乳茶色	やや粗	良好	口縁端部刻み目。口縁部外面ナデ、内面ヘラミガ キ。	1/4 反転
195	土師器	2区 S D201	(21. 6)	灰茶色	やや粗 2 mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好	口縁部ハケ。口縁部下位外面ヨコナデ。頸部内面 ヘラナデでハケ残る。	3/4
196		下層 2 区 S D201	19.3	明茶褐色	変量に合む密 1~5 mmの砂粒多く含	良好	口縁部ヨコナデで、外面ハケ、内面指頭痕残る。 肩部外面ナデ後ハケ、内面ケズリでハケ、指オサ	口縁部 ほぼ完形 一部反転
7 197		下層 2区 S D201	(17, 3)	乳茶色	むや料	良好	工残る。	1/8
198	壶 土師器	下層 2区	<u> </u>				口縁部~頸部外面ヨコナデ。頸部内面ナデ。	反転 極小
100	壺	S D201 下層	(16, 4)	乳茶色	やや粗	良好	外面黒斑有り。 内外面ヨコナデ。	反転 1/4
199	土師器	2 区 S D 201 下層		乳茶色	やや粗	良好	口縁部内面漆ぬり。	反転
200	土師器 壺	2区 SD201 下層	(27.9)	茶灰色	密 1.5mm以下 の砂粒を多量 に含む	良好	口縁部外面ハケ。口縁端部~口縁部内面ヨコナデ。 頸部ハケ後ナデ。	1/3
201 7	土師器	2 区 S D 201 下層	(11.4)	淡灰茶色	やや粗 2 mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好	内外面ナデ。	1 / 4 反転
202	土師器	2 区 S D 201 下層	(17.4)	淡灰茶色	やや粗 2.5mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好	口縁部外面ナデ、内面ヨコナデ。顕部外面ハケ、 内面ナデ。肩部内面ヘラケズリ。	1/2
203	土師器	2 区 S D201	(15, 3)	淡茶灰色	密	良好	口縁部ヨコナデ。体部外面ハケ。	極小
205	弥生	下層 2区 SD201	(16.0)	外 淡灰茶赤	密 1 mm以下	良好	口縁部ヨコナデ。底体部上半外面タタキ、内面ハケ。 か。面煤付着、内面黒斑有り。	1/4
206	- 一要	下層 2 区 S D201	(10.8)	内 淡灰茶色 黄茶色	の砂粒を含む	良好	外面保付着、内面黒地有り。 内外面ナデで体部内面工具痕有り。	万転 1/5
207	甕 土師器	下層 2 区 S D201	(13.7)	こげ茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。口縁接合部外面ハケ。底体部上	反転 1/2
229	変 土師器	下層 2区			やや粗 1.5mm		半外面タタキ、内面ヘラケズリ。 □縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。肩部外面タタキ、	反転 1/2
7	甕	S D 201 下層	(16.0)	淡褐灰色	以下の砂粒を 多量に含む	良好	内面ハケ。 外面煤付着。 口級部外面ヨコナデ、内面ナデ。	反転 極小
230	土師器	2 区 S D 201 下層	(12.2)	淡灰褐色	密 1 mm以下 の砂粒を含む	良好	外面煤付着。	反転
231	土師器	2 区 S D 201 下層	(15, 2)	赤褐色~ 黒色	やや粗	良好	□縁部外面ハケ、内面ナデ。肩部外面ハケ、内面 ヘラケズリ。外面煤付着。	1/8
232	土師器	2 区 S D 201 下層	(15. 1)	暗乳茶色	やや粗	良好	口縁部外面ハケ、内面ヨコナデ。頸部~肩部外面 ヨコナデ、内面へラケズリ。	1 / 4 反転
233	土師器	2 区 S D 201 下層	(16.3)	淡茶色	やや粗	良好	口縁部外面ハケ、内面ヨコナデ。頸部ヨコナデ。	1/8
234	土師器	2区 SD201 下層		淡茶灰色	やや粗	良好	注口部か?	
235	土師器	2 ⊠ S D201	長辺 9.6	白黄茶色	やや粗	良好		
7 236	土師器	下層 2区 SD201	短辺 6.3	淡茶灰色	密 1 mm以下 の砂粒少量含	良好	口縁部~体部密なヘラミガキ。	1/4
239	土師器	下層 2区 SD201	(14. 8)	淡黄茶色	t	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面ハケ。底体部上半外面	反転 1/8
240	壶 土師器	下層 2区	10.3				ハケ、内面ナデ。口縁部外面に籾殻痕有り。	反転 完形
8	壺	S D 201 下層	7.4	淡茶色	密	良好	口縁部〜底体部密なヘラミガキ。底部内面ナデ。	

遺物番号 図版番号	器 種	出土地点	法量(cm) 口径 (復元値) 器高	色 調	胎土	焼成	技法・形態の特徴	残 存 備 考
241	土師器 壺	2区 SD201 下層	(10.2)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部~体部外面へラミガキ。体部内面ナデ。	1/5
242	土師器 壺	2区 SD201 下層	(11.6)	橙褐色	密	良好	口縁部~肩部外面ヨコナデ後ヘラミガキ、内面ナデ。 体部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	1/3
248	土師器 壺	2 区 S D201 下層	(10.7) 最大径 (11.7)	乳黄茶色	やや粗	良好	口縁部~肩部外面ヨコナデ、内面ナデ。体部外面 ナデ、内面ハケ。肩部外面にハケ残る。	1/5
249	土師器 壺	2 区 S D201 下層	(10.6)	灰褐色	密	良好	口縁部~底体部ヘラミガキ。 肩部外面指頭痕残る。	1/4
251	土師器 鉢	2 区 S D201 下層	(16, 0)	乳橙色	密	良好	口縁端部~外面、体部外面上半ヨコナデ、下半ハ ケ。口縁部内面~体部内面上半ナデ。	1/5
252	土師器 鉢	2 区 S D 201 下層	(15. 1)	淡灰茶褐色	密	良好	口縁部ヨコナデ。体部上位外面ハケ、内面ヘラケ ズリ。	1/5
253	土師器 鉢	2 区 S D 201 下層	(17.4)	淡乳茶色	やや粗	良好	口縁端部~外面ヨコナデ、内面ナデ。体部外面上 半ハケ、内面ナデ。	1/8
254	土師器 鉢	2 区 S D 201 下層	(13.4)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部~体部ヘラミガキ。黒斑有り。	1/5
255	土師器 鉢	2 区 S D 201 下層	(15.0)	淡乳茶褐色	密	良好	口縁部~体部密なヘラミガキ。	1/4 反転
256	土師器	2 区 S D 201 下層	(15. 6)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部~体部ヨコナデ後密なヘラミガキ。	1/5 反転
257	土師器 鉢	2 区 S D201 下層	(16. 8)	明茶色	やや粗	良好	口縁部~体部ヘラミガキ。口縁端部ヨコナデ。	口縁部欠損
258 8	土師器 鉢	2区 SD201 下層	(12, 35) 4, 2	乳黄茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ナデ 後ヘラミガキ。	2/3
259	土師器 鉢	2区 SD201 下層	(19.8)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。体部外面ハケ、内面ヨコナデ。	極小 反転
260 8	土師器 鉢	2区 SD201 下層	(21.8)	灰褐色	密 1 mm以下 の砂粒多く含 む	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。体部外面ヘラミ ガキ、内面ナデ。	1/3
261	土師器 鉢	2 区 S D201 下層	(23.0)	外 褐灰色 内 淡灰褐色	密 1 mm以下 の砂粒微量に 含む	良好	口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	1/5 反転
262	土師器 器台	2区 SD201 下層	13. 6	乳橙褐色	密	良好	口縁部上位ヨコナデ、下位ナデ。	脚部 3 / 4
263	土師器	2 区 S D 201 下層		肌色	密	良好	外面波状文。内面ヘラミガキ。	極小
264	土師器 高杯	2区 SD201 下層	(9.0)	灰茶褐色	密	良好	杯部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	1/4
265	土師器 高杯	2区 S D201 下層		淡黄茶色	やや粗	良好	杯部ヘラミガキ。内面に放射状のヘラミガキ有り。	1/3
266	土師器 高杯	2区 S D201 下層		明茶色	やや粗	良好	杯部外面ヨコナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。	1/4
267	土師器 高杯	2 区 S D201 下層	(15. 8)	淡乳褐色	密	良好	杯部外面ハケ後ヨコナデ、内面ハケ後放射状の粗 いヘラミガキ。脚柱部外面ヘラミガキ、内面シボ リ目有り。	杯部 1 / 4
268	土師器 高杯	2区 SD201 下層	底径 10.0	淡乳茶色	やや粗	良好	脚部外面ヘラミガキ、内面ナデ。裾端部ヨコナデ。	脚部完存
269	土師器器台	2区 SD201 下層	底径 (9.8)	淡乳褐色	密	良好	脚部ナデ。	脚部完存

遺物番号 図版番号	器 種	出土地点	法量(cm) 口径 (復元値) 器高	色 調	胎土	焼成	技法・形態の特徴	残 存備 考
270	土師器 器台	2 区 S D201 下層	底径(12.6)	淡乳褐色	密	良好	口縁下位〜脚部外面ヘラミガキ、内面ナデ。 脚部3方向に円孔。	3 / 4
271	土師器 手焙り鉢	2区 SD201 下層		淡灰茶色	密	良好	覆い部外面ハケ後ヘラ描文、内面ナデ。 覆い部端部前面煤付着。	覆い部 1/2
272 8	土師器 壺	3 ⊠ S E 301	12. 1	淡茶色	密	良好	口縁部横ヘラミガキ後縦ヘラミガキ。	口縁部完存
273 8	土師器	3 ⊠ S E 301	最大径21.8	乳灰茶色	密	良好	口縁部外面〜肩部外面へラミガキ。体部外面タタ キ後ハケ。底部外面へラミガキ。底体部内面上半 ハケ、下半指頭痕有り。	口縁部 1/2欠損
274	土師器	3 ⊠ S X 301	(12. 2)	灰茶~黒 褐色	密	良好	口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。肩部ナデ後ヘラミ ガキ。	1/5
275	土師器	3 🗵 S X 301	(8.8) 10.0 最大径10.3	淡灰茶色	密 1.5mm以下 の砂粒少量含 む	良好	口縁部外面ハケ後ヨコナデ、内面ハケ。肩部外面 ハケ、体部~底部外面ヘラケズリ。	ほぼ完形
276	土師器	3 🗵 S X 301	8.8 8.3 最大径 9.3	黒灰色~ 淡灰茶色	密 1.5mm以下 の砂粒微量に 含む	良好	口縁部ナデ。底体部外面ハケ、内面ナデ。	3 / 4
277	土師器	3 🗵 S X 301		乳黄色	やや粗	良好	口縁部外面下半ヨコナデ。 底体部外面ハケ、内面上半指オサエ、下半ナデ。	底体部 2/3
278	土師器 壺	3 ⊠ S X 301		淡茶灰色	密 1mm以下 の砂粒を微量 に含む	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外面ハケ、内面ナデ。黒 斑有り。	口縁部 1/4欠損
279	土師器	3 🗵 S X 301	(6.8) 最大径 (10.0)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。肩部外面ハケ。体部外面ハケ、 内面ヘラケズリ。	1/3
280	土師器	3 🗵 S X 301	8.5 7.5 最大径 8.6	淡茶灰色	やや粗 3 mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面ハケ。底体部外面ハケ、内面ナデ。	ほぼ完形
281	土師器	3 ⊠ S X 301	(7.2)	淡茶灰色	密 1.5mm以下 の砂粒を微量 に含む	良好	口縁部外面ヨコナデ後ハケ、内面ハケ。肩部外面 ヨコナデ後ハケ、内面ナデ。体部外面ヘラケズリ、 内面ヘラナデ。	1/2
282	土師器	3 🗵 S X 301	9.4 10.1 最大径(10.6)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外面下半ハケ。	3 / 4
283	土師器	3 🗵 S X 301	(11.6)	灰茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。	1/4 反転
284 8	土師器 壺	3 🗵 S X 301	(6.8) 9.65 最大径11.4	淡茶灰色	密 1 mm以下 の砂粒を微量 に含む	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。底体部ナデ。 底部外面に黒斑有り。	口縁部 1/2欠損
285	土師器	3 🗵 S X 301	(8.8)	乳茶色	やや粗	良好	体部外面ハケ、内面ヘラケズリ。	3 / 4 反転
286	土師器	3 ⊠ S X 301	(7.9) 8.2 最大径 9.9	淡灰茶色	密 1 mm以下 の砂粒を多量 に含む	良好	口縁部ヨコナデ。底体部ナデ。	口縁部 3/4欠損
287	土師器	3 🗵 S X 301	(10.0) 9.3 最大径 9.6	暗灰茶色	やや粗	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面ハケ。底体部外面ハケ、 内面ヘラケズリ。	
288	土師器 壺	3 🗵 S X 301	(8, 2)	灰茶色	密 1 mm以下 の砂粒を微量 に含む	良好	口縁部外面~底体部上半外面ナデ。口縁部内面~ 底体部上半内面へラケズリ。	2 / 3
289	土師器	3 🗵 S X 301	(8,8) 9,3 最大径(10.1)	明灰黄色	密 1~4 mm の砂粒含む	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外面ナデ後ハケ、内面へ ラケズリ。	ほぼ完形
290	土師器	3 ⊠ S X 301		乳黄灰色	審	良好	肩部ナデ、内面指オサエ。体部~底部外面ハケ、 内面ヘラケズリ。	口縁部欠損
291	土師器	3 🗵 S X 301	7.6 9.8 最大径10.9	乳橙灰色	やや粗 1.5mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。底体部外面ナデ、 内面ヘラケズリで中位ヘラミガキ。	ほぼ完形
292	土師器	3 🗵 S X 301	9.0	乳橙灰色	密 1 m以下 の砂粒少量含	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。肩部外面ハケ、 体部〜底部外面ヘラケズリ、底体部内面ナデ。	1/2

遺物番号 図版番号	器 種	出土地点	法量(en) 口径 (復元値) 器高	色調	胎土	焼成	技法・形態の特徴	残 存
293 8	土師器	3 🗵 S X 301	8.3 10.5 最大径10.5	乳黄灰色	密 1 mm前後 の砂粒多量に 含む	良好	口縁部外面ハケ後ヨコナデ、内面ヨコナデ。 肩部~体部外面ハケ後ナデ。肩部内面ヘラケズリ。 体部内面~底部ナデ。	口縁部 1/4欠損
296	土師器	3 🗵 S X 301	(8.8)	乳灰色	密	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面上半ヨコナデ、下半ナデ 底体部上半外面ナデ、内面ハケ後ナデ。	1/4
298	土師器	3 🗵 S X 301	(9.0)	乳灰色	密	良好	口級部外面ハケ後ナデ、内面ヨコナデ。肩部外面 ハケ後ナデ、内面ナデ。体部外面へラケズリ、内 面ナデ。	2/3
299	土師器	3 区 S X 301	(9.4)	淡橙灰色	密 1 mm以下 の砂粒を微量	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。肩部外面ハケ、	反転
300	土師器	3 🗵	(7.8)	茶灰色	に含む 密 1 mm以下 の砂粒を少量	良好	体部外面へラケズリ。肩部~体部内面ナデ。 口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。底体部上半外面	反転 1/2
301		S X 301 3 ⊠		乳黄茶色	含む	良好	ハケ、内面ヘラケズリ。 肩部ヨコナデ。体部~底部外面ハケ、内面ヘラケ	反転 底体部
302	土師器	S X 301 3 ⊠	(5. 3) 6. 2	淡灰茶色	やや粗 2 mm 以下の砂粒を	良好	ズリ。 口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。底体部上半外面	2/3
8	壺	S X 301	最大径 6.4	OCON E	多量に含む	及刈	ヘラケズリ、内面ナデ、下半ナデ。	1/2欠損
303 8	土師器 壺	3 ⊠ S X 301	(5.6) 6.5 最大径 6.4	淡灰茶色	やや粗 1 mm 以下の砂粒を 微量に含む	良好	口縁部内面ハケ。肩部外面ハケ、体部~底部外面 ナデ、底体部内面ナデ。	口縁部 1/4欠損
304 8	土師器	3 ⊠ S X 301	(6.0) 8.4 最大径 7.0	灰茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外面ヘラケズリ。	口縁部 1/3欠損
305	土師器	3 ⊠ S X 301	(8.3) 8.5 最大径 9.4	淡茶灰色	密 1mm以下 の砂粒を微量 に含む	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外面ハケ、内面ナデ。 底部に黒斑有り。	口縁部 3/4欠損
306 8	土師器	3 🗵 S X 301	8.2 8.5 最大径10.4	淡茶灰色	密 1 mm以下 の砂粒を微量 に含む	良好	口縁部ヨコナデ。底体部下半外面ハケ、内面指オサエ。	ほぽ完形
307	土師器	3 ⊠ S X 301	(8.5) 8.5 最大径(10.2)	灰茶色	密 1.5mmの以 下の砂粒を少 量含む	良好	□ 「	2/3
308 8	土師器	3 ⊠ S X 301	13. 3	明淡黄褐色	密	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面ハケ。肩部外面ハケ、内面ヘラケズリ。	口縁部完存
309	土師器	3 ⊠ S X 301	(13. 8)	淡乳茶色	やや粗	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面ハケ後ヨコナデ。 肩部外面ハケ、内面ヘラケズリ。	1/3
311 8	土師器	3 ⊠ S X 301	11.6 最大径16.6	乳黄色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。肩部外面ヘラミガキ、内面指頭痕有り。体部外面ナデ、内面板ナデ。	1 / 2
312 9	土師器	3 ⊠ S X 301	(10, 8) 15, 3 最大径15, 3	乳灰黄色	密 1 mm前後 の砂粒多く含 む	良好	口縁部ヨコナデ。肩部ヘラケズリ。体部~底部外 面ナデ、内面ヘラケズリ。	3 / 4
313 9	土師器	3 ⊠ S X 301	11.4 17.6 最大径16.75	淡乳茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。肩部一体部外面ハケ、内面ナデ。 底部ナデ。外面に黒斑有り。	ほぽ完形
314	土師器	3 🗵 S X 301	(14.2) 最大径(25.2)	乳黄色	やや粗	良好	四級の 7。 外間に無短有り。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケ、端部ヨコナデ。 底体部上半外面ハケ、内面ヘラケズリ。外面に黒 斑有り。	1 / 4
315 9	土師器	3 ⊠ Ś X 301	(13.8) 24.2 最大径(24.2)	淡乳茶色	やや粗	良好	口縁部ハケ。底体部外面ハケ、内面ヘラケズリ。	反転 1/2
316	土師器	3 区	(15.8)	淡乳黄色	やや粗	良好	体部外面黒斑有り。 □縁部外面ヨコナデ、内面ハケ後ヨコナデ。底体	3 / 5
317	土師器	S X 301	最大径(26.0)	淡乳茶色	やや粗	良好	部外面ハケ、内面ヘラケズリ。 口縁部ヨコナデ。顕部内面指オサエ。底体部外面	反転 1/3
318	土師器	S X 301 3 ⊠	最大径(30.2)	赤茶色	やや粗	良好	ハケ、内面ヘラケズリ。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケ後ナデ。口縁下部	反転 1/4
319	高杯 土師器	S X 301	17. 95 11. 8	赤褐色	密	良好	ハケ残る。体部ナデ。 杯部ハケ後ナデ。脚柱部~裾部外面ナデ、内面ハ	反転 口縁部 1/4欠損
9	高杯	S X 301	10.5		-7		ケ。	- / - /CJA

遺物番号 図版番号	器種	出土地点	法量(cm) 口径 (復元値) 器高	色 調	胎土	焼成	技法・形態の特徴	残 存 備 考
320	土師器	3 区	(17, 7)	乳黄色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	3 / 4
	高杯	S X 301	(17.7)	孔贝巴	7 7 AH	EXT	口豚のココノノ。怪印ノノ。	
321	土師器	3区	序径(11.9)	剪装件	やや粗	良好	脚柱部外面へラミガキ、内面ハケ。裾部ヨコナデ。	2/3
1	高杯	S X 301	底径(11.2)	乳黄色	~~AH	及灯		
322	土師器	3 区	r=47 10 0	DD 198 48 72	密 1~5 mm		杯部下半ハケ後ナデ。脚柱部外面ヘラミガキ、内	口縁部 欠損
	高杯	S X 301	底径 12.0	明橙褐色	の砂粒多く含む	良好	面ナデ。裾部外面ナデ、内面ハケ。	入頂
323	土師器	3 区	1375X (0, 0)	共正在	密	良好	脚柱部外面ヘラミガキ、内面ナデ。裾部外面ハケ、	2/3
	高杯	S X 301	底径 (9.3)	黄灰色	200	及灯	内面へラケズリ。	
324	土師器	3区	(5.0)	到數冊及	citr	d1 67	口縁部ナデ。体部外面ナデ、内面ヘラケズリ。底	1 / 5
	鉢	S X 301	(5, 2)	乳黄褐色	密	良好	部外面ヘラケズリ。	反転
325	土師器	3区	(45.0)	到极压力	rite:	± 47	口煙並 いた後ラッエン 仕切し持ちご	極小
	鉢	S X 301	(45. 9.)	乳橙灰色	密	良好	口縁部ハケ後ヨコナデ。体部上位ナデ。	反転

石製品・木製品観察表

遺物番号 図版番号	器種	出土地点	È	去量(cm)	備考
図版番号	位产7里	山工地点	長辺	短辺	厚さ	NHI JA
326	砥石	2区 SD201 上層	10.9	8.7	3.2	使用面は1面。片岩。
327	砥石	2 区 S D 201 下層	14.2	9.3	4.6	使用面は1面。砂岩。
328	砥石	2 区 S D 201 上層	7.6	3. 6	2.0	使用面は4面。砂岩。
329	木製品	2 区 S D 201 上層	59.6	11.6	0.9	両端を長方形に切り込む。両側部に楕円型の穿孔あり。
330	木製品	2区				T (n) - TAKM) h v
9	二又鋤	S D 201 上層	39.8	7.3	0.7	又ぐわの可能性もある。
331	1. 450 [2区				縁辺は面取りされている。下辺は荒れている。頂部は枘穴に挿入するために凸状を成す。
9	木製品	S D 201 上層	16.9	13. 2	1.6	椅子等の脚部か?

図 版



2区SD201遺物出土状況(南西から)



2区SD201北壁遺物出土状況(南から)



2区SD201東部遺物出土状況(北から)



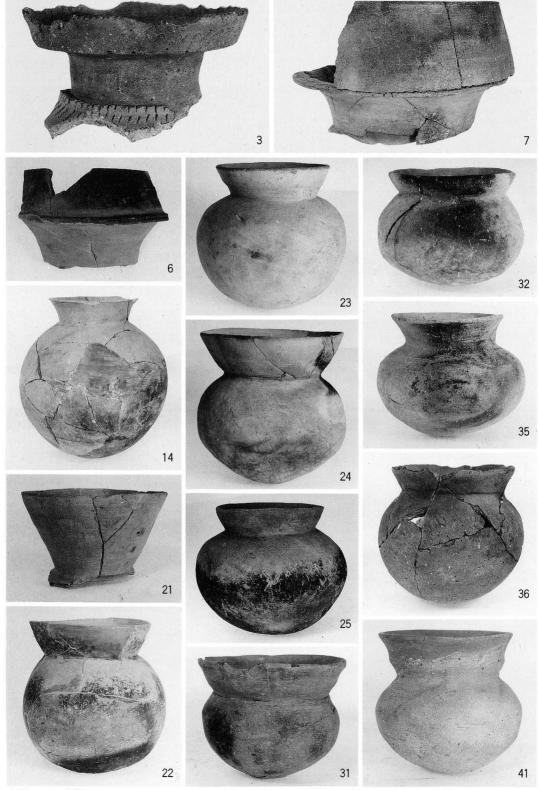
2区SD201中央遺物出土状況(北から)



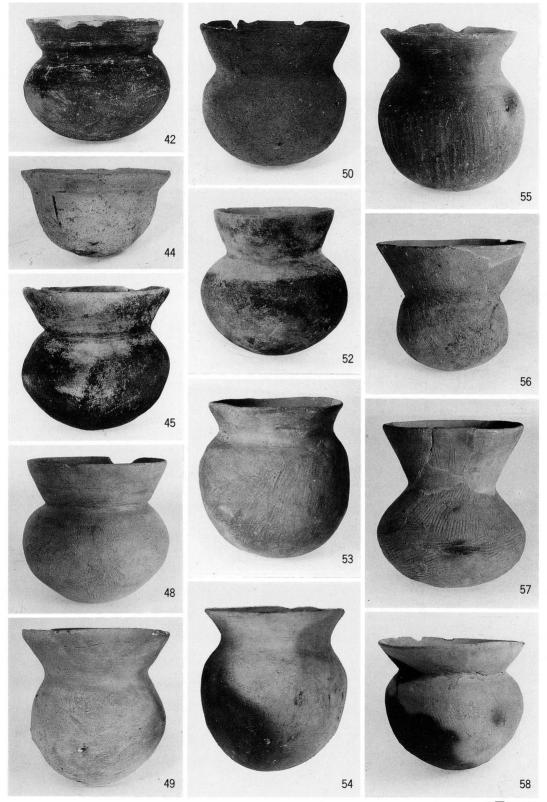
3区全景(北から)



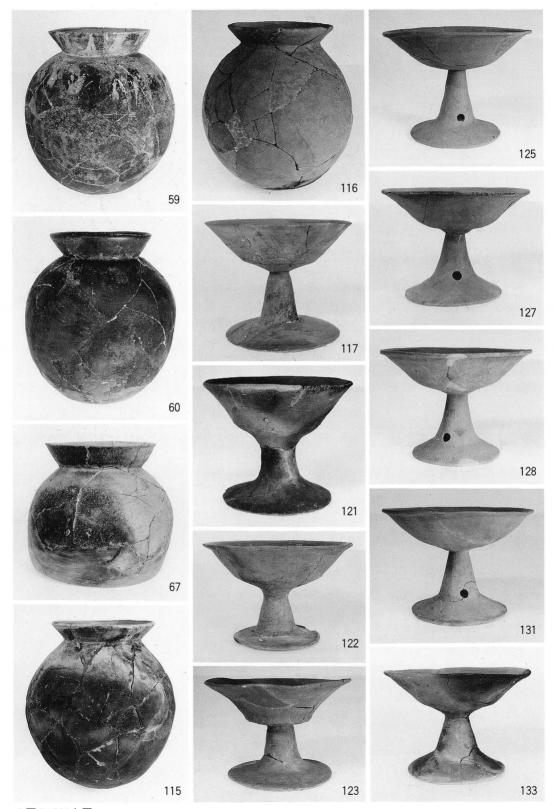
3区SE301 (西から)



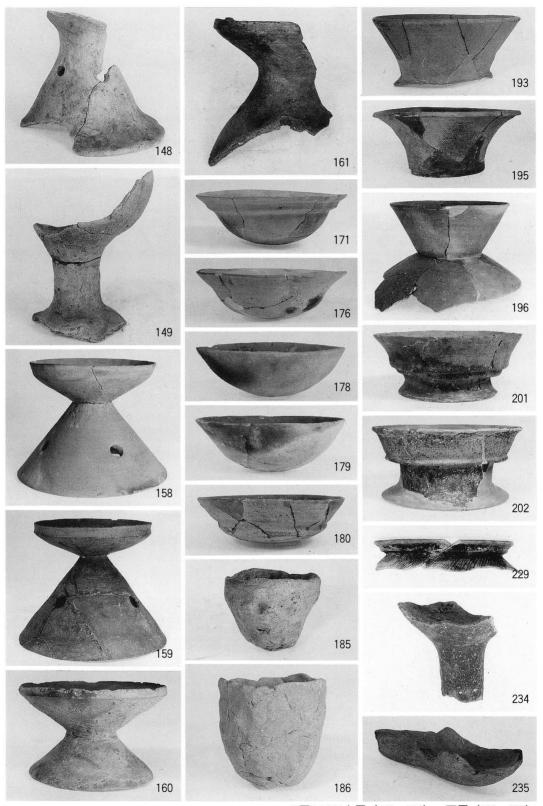
2区SD201上層



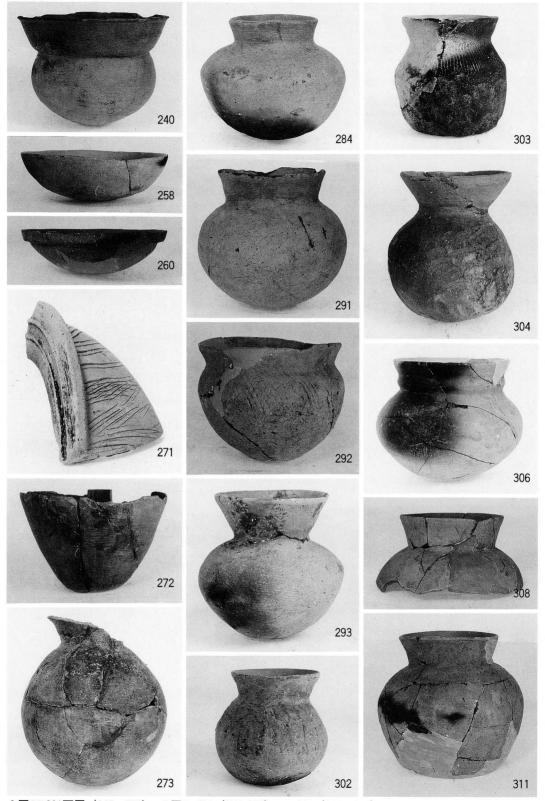
2区SD201



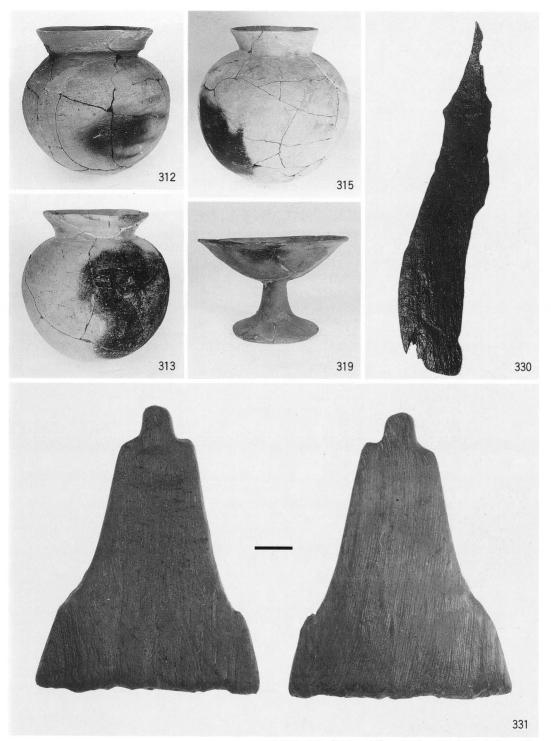
2区SD201上層



2区SD201上層(148~186)・下層(193~235)



2区SD201下層 (240~271)、3区SE301 (272·273)·SX301 (284~311)



3区SX301 (312~319)、2区SD201上層 (330·331)

(財)八尾市文化財調査研究会報告36

太子堂遺跡

<第1次調査・第2次調査報告書>

発 行 平成5年6月

編 集 財団法人 八尾市文化財調査研究会

〒581 大阪府八尾市清水町1丁目2番1号

TEL(0729)94-4700

印刷 (株)近畿印刷センター

